

Gravio Coordinator

2 — 最終更新日時: 22 June 2022

ASTERIA Corporation

目次

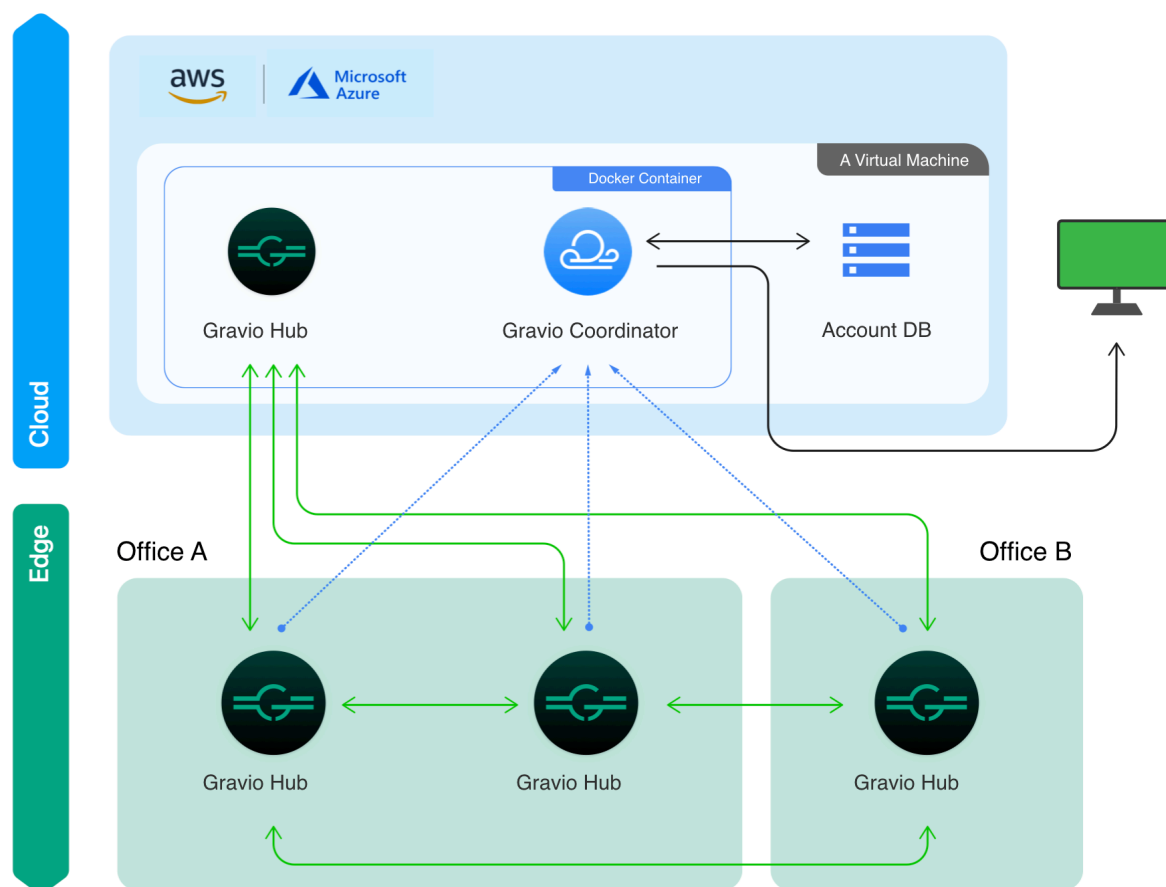
1. Gravio Coordinatorとは	2
1.1. Coordinatorの設置	3
1.2. Gravio Hub / Hub PC管理手順	4
2. Gravio Hubを使ってLAN内にCoordinatorを設置する	5
2.1. Gravio設定	12
3. クラウドの仮想マシンにGravio Coordinatorを設置する	17
3.1. Coordinatorの設置	18
4. Coordinatorの設置後の初期設定	19
4.1. Adminアカウントの作成手順	20
4.2. Coordinatorへのログイン	21
4.3. ライセンスの登録	22
5. Gravioアカウント	23
5.1. アカウント一覧	24
5.2. アカウントの作成	25
5.3. アカウントの編集	26
5.4. アカウントの削除	27
6. Hub	28
6.1. Gravio StudioからCoordinatorにログイン	29
6.2. HubをCoordinatorに登録	30
6.3. HubからCoordinatorに接続する	34
6.4. アクセス制限をかけたい場合	37
7. Hub統計情報	39
8. カレンダー	40
8.1. カレンダーの作成・編集	42
9. 推論モデル	44
9.1. TensorFlowモデルファイルの作成	45
9.2. TensorFlow Liteモデルファイルの作成	51
10. Coordinator/HubKitの保守	53
10.1. Coordinatorプロセスのログの確認	54
10.2. Coordinator / HubKitソフトウェアの更新	55
10.3. Gravio Hubが運用時に利用するポート一覧	56
11. Gravio Enterprise AI Edition	57
11.1. Gorilla IVAR, BAPモジュールの取得	58
11.2. Gorilla BAPの設置	59
11.2.1. Gorilla BAPのアップデート	73
11.2.2. Gorilla BAPのライセンス登録	80
11.2.3. Gorilla BAPのライセンスの登録解除	83

11.2.4. Gorilla BAPのアンインストール	84
11.2.5. Feature versionの変更	86
11.3. Gorilla IVARの設置	90
11.3.1. Gorilla IVARのアップデート	98
11.3.2. Gorilla IVARの初期設定とライセンス登録.....	102
11.3.3. Gorilla IVARのライセンスの登録解除	108
11.3.4. Gorilla IVARのアンインストール	109
11.4. Gravioへの接続テスト – 人数カウント	115
11.4.1. IVARのカメラ+画像認識の設定	116
11.4.2. GravioとIVAR連携の設定	125
11.4.3. Gravio IVARトリガーの設定	132
11.5. Gravioへの接続テスト – 顔認識	136
11.5.1. BAPの設定	138
11.5.2. IVARのカメラ+顔認識の設定	143
11.5.3. GravioとIVAR連携の設定	152
11.5.4. Gravio IVARトリガーの設定	159

1. Gravio Coordinatorとは

Gravio HubやHibKitをインストールしたPC (以後Hub PCと記す)は単体で動作が可能です、エンタープライズでの利用では、複数のGravio HubやHub PCで使うアカウントやHubの状態を一括で管理したい場合があります。以下の図のような構成で個々のGravio HubやHub PCを管理するために、Coordinatorという管理サーバを設定して運用することができます。

Gravio HubにはCoordinatorが同梱されております ので、クラウドでCoordinatorを立ち上げなくても、LAN内だけで運用することも可能です。



Coordinator Overview

1.1. Coordinatorの設置

Gravio Coordinatorサーバを設置する場所によって以下の2つの設置方法があります。

1.) Gravio Hubに同梱されているCoordinatorをLAN内で利用する。

[こちら](#) を参照してください。

2.) AWS, Azureなどのクラウドの仮想マシン内に設置してクラウド側で利用する。

[こちら](#) を参照してください。

1.2. Gravio Hub / Hub PC管理手順

運用するまでの手順は以下になります。

1.) アカウントの作成

Gravio StudioからログインするためのアカウントをCoordinator内に作成します。

このアカウントを「Garvio アカウント」と呼びます。

[こちらを参照してください。](#)

2.) Hubの登録

Gravio HubをCoordinator配下で管理するために、CoordinatorにHubを登録する必要があります。

[こちらを参照してください](#)

これらの手順はこのマニュアルを順に読み進めていくことで上記の内容を理解できるようになっています。

2. Gravio Hubを使ってLAN内にCoordinatorを設置する

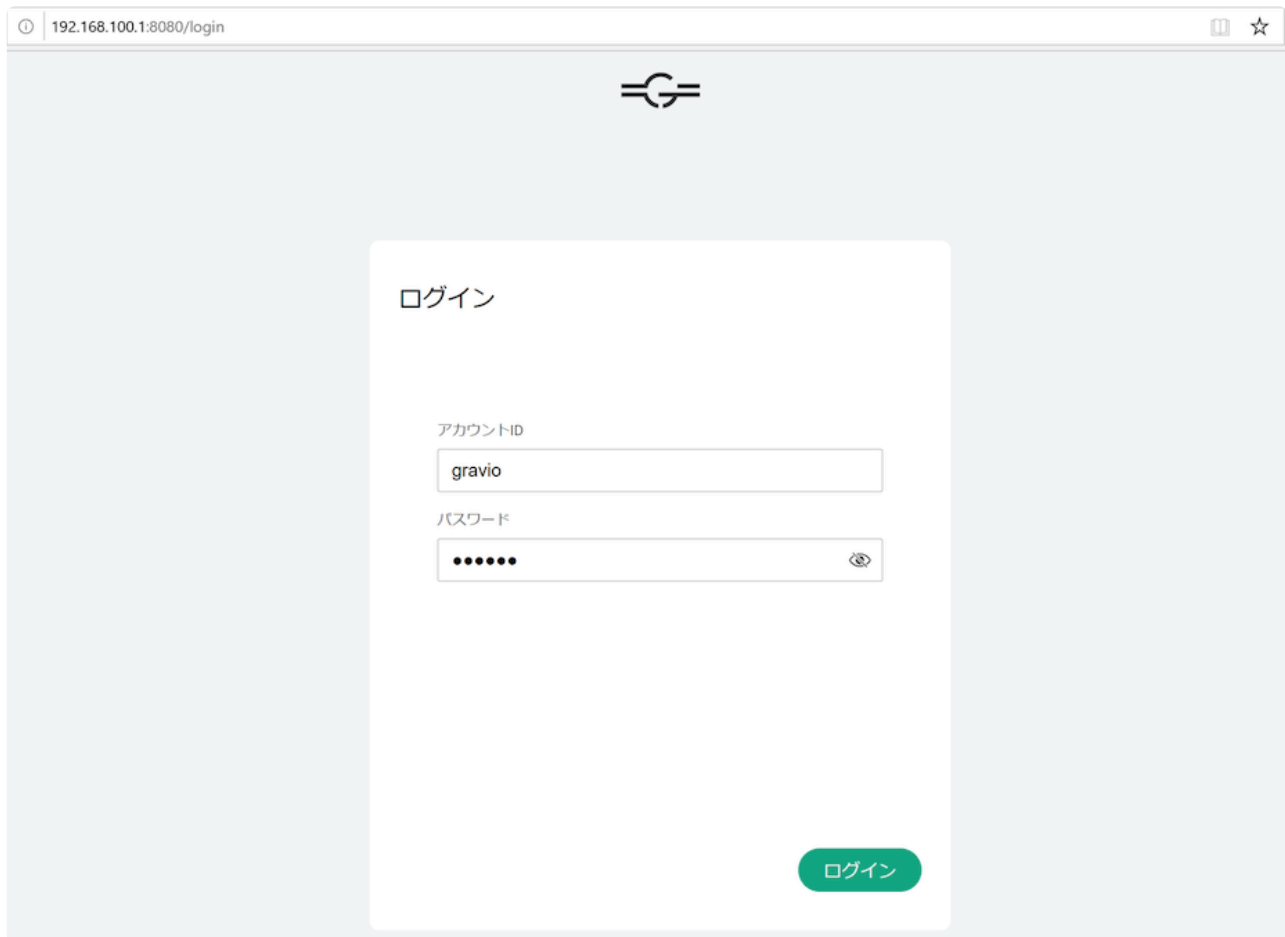
Gravio HubのRootパスワード、Hostname, WiFiを設定



Gravio Hubを電源につなげて起動します。

Gravio Hubの上部のGravioマークが青く表示されたら、お持ちのPCのWiFiのSSIDからGravioHubXXXXXXXXXXという名称のSSIDにつなぎます。

WiFi パスワードは「graviohub」です。



192.168.100.1:8080/login

ログイン

アカウントID

gravio

パスワード

.....

ログイン

繋いだ後に、ブラウザから「http://192.168.100.1:8080」と入力してUpdateManagerを開きます。

ユーザ名: 「gravio」

パスワード: 「gravio」

でログインします。

Change 'gravio' account password

現在のパスワード: 

新しいパスワード: 

新しいパスワード(再入力): 

パスワードの変更

最初にログインするときにパスワードを変更するパネルが表示されますので、現在のパスワードと新しいパスワードを入力して「パスワード変更」ボタンを押します。以降は新しいパスワードを使用します。

Gravio Update Manager

Gravio設定Gravio Hub設定

Gravio

Gravio Hub設定

Gravio Hubパスワードの変更

パスワード

現在のパスワード:

新しいパスワード(8文字以上):

新しいパスワード(再入力):

パスワードの変更

時刻設定

タイムゾーン

Asia/Tokyo

セット

時刻設定

Gravio Hub機の時刻: 2022-04-01 18:01:57

☒ NTPを使用

NTPから同期:

同期

☐ マニュアル

年月日:

時刻:

セット

☐ このGravio HubをNTPサーバーにする

ログインすると Gravio Hub設定 の画面が開きます。

Gravio Hub設定

Gravio Hub設定

Gravio Hubパスワードの変更

パスワード

現在のパスワード:

新しいパスワード:

新しいパスワード(再入力):

パスワードの変更

Gravio Hubパスワードの変更で、ルートパスワードを変更します。現在のパスワードは「gravio」です。

時刻設定

時刻設定

タイムゾーン	Asia/Tokyo	セット
--------	------------	-----

時刻設定

現在時刻: 2021-03-09 09:02:22

☒ NTPを使用 NTPから同期: NTP サーバー 同期

☐ マニュアル 年月日: 2021-03-09 セット

時刻: 09 02 22

☐ このGravio HubをNTPサーバーにする

次に、時刻設定 で タイムゾーンと時刻設定を行います。NTPサーバから同期する場合にはIPアドレスを入力して同期ボタンを押します。

マニュアル設定では年月日時分秒を入力するかGravio HubをNTPサーバにする場合に使用します。

※Gravio Hubがインターネットに接続されていない場合、マニュアル設定では時刻の同期が自動で行われません。

地域設定

地域設定

地域	Japan	セット
----	-------	-----

ホスト名の設定

ホスト名	ホスト名: gravio	ホスト名の設定
------	--------------	---------

続いて、地域を選択してホスト名の設定でホスト名を設定します。画面では「gravio」と設定するため「gravio.local」でアクセスできるようになります。

インターネット設定

Gravio Hubのインターネット設定

Current: Access Point Mode

無線LAN

WiFi

接続するWi-Fi: パスワード: ☒ DHCPを利用 ☐ 静的IPアドレス

静的IPアドレス

IPアドレス: デフォルトゲートウェイ: デフォルトDNSサーバー:

設定する

最後に利用するネットワークを設定をします。(固定IPでの利用を推奨します。)

※有線LANの dongle と LAN ケーブル が接続されている場合には有線LANの設定となります。

※有線LANの dongle と LAN ケーブル が接続されていない場合には無線LANの設定となります。

固定IPアドレスを使用する場合には DHCP を利用をオフにして静的 IP アドレス に固定IPアドレス、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバを入力をします。

以上で、設定が完了しますので 設定するボタンを押します。

ネットワーク設定

これで、Wifi設定が適用されますので、設定したWifiネットワークにPCを接続する必要があります。 gravio.local:8080

キャンセル

実行

無線LANならびに有線LANの設定が完了するとメッセージダイアログが表示されます。

SSHの利用

SSHの利用

SSHを利用可能にする



Gravio HubにSSHで接続する場合にSSHの利用をオンにします。(オンにした場合にはGravio Hubの再起動が必要です)

Bluetooth設定

Gravio Hub Bluetooth設定

ペアリングされているデバイス

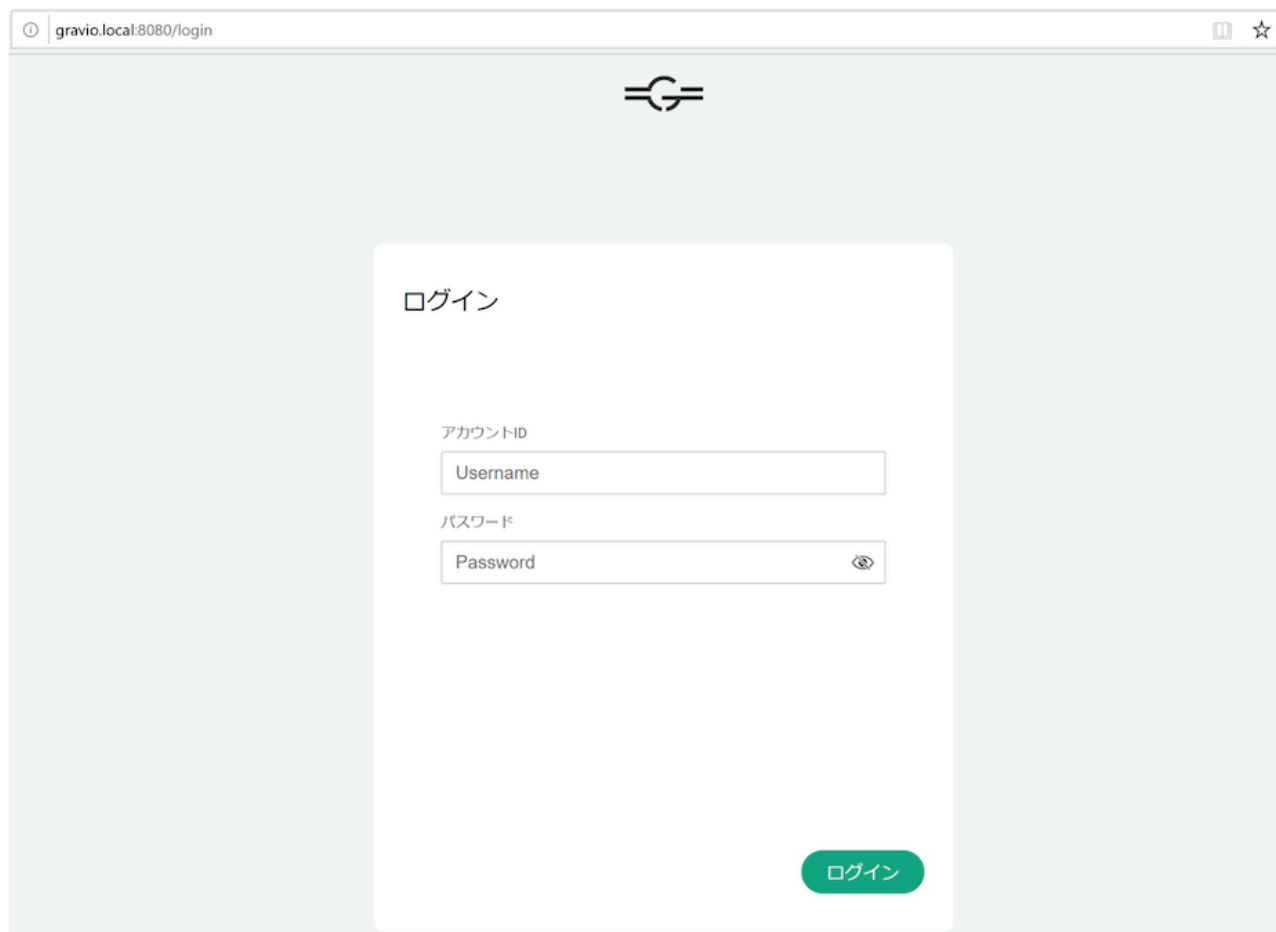
利用可能なデバイス

スキャン

not available

Pair

Gravio Hubで使用するBluetoothデバイス（例えばスピーカーなど）との接続を行います。
最初にBluetoothデバイスとのペアリングを行うためにデバイスをペアリングモードにして「スキャン」ボタンを押します。
しばらく待つと利用可能デバイスにBluetoothデバイスが表示されますので「Pair」ボタンを押します。
ペアリングが終わりましたら「Connect」ボタンでデバイスと接続してください。



無線LANをご使用の場合にはWiFiの接続先をセットしなおしてから、ブラウザで先ほど設定した「<Hostname>.local」と入力します。

有線LANをご使用の場合にはブラウザで先ほど設定した「<Hostname>.local」と入力します。

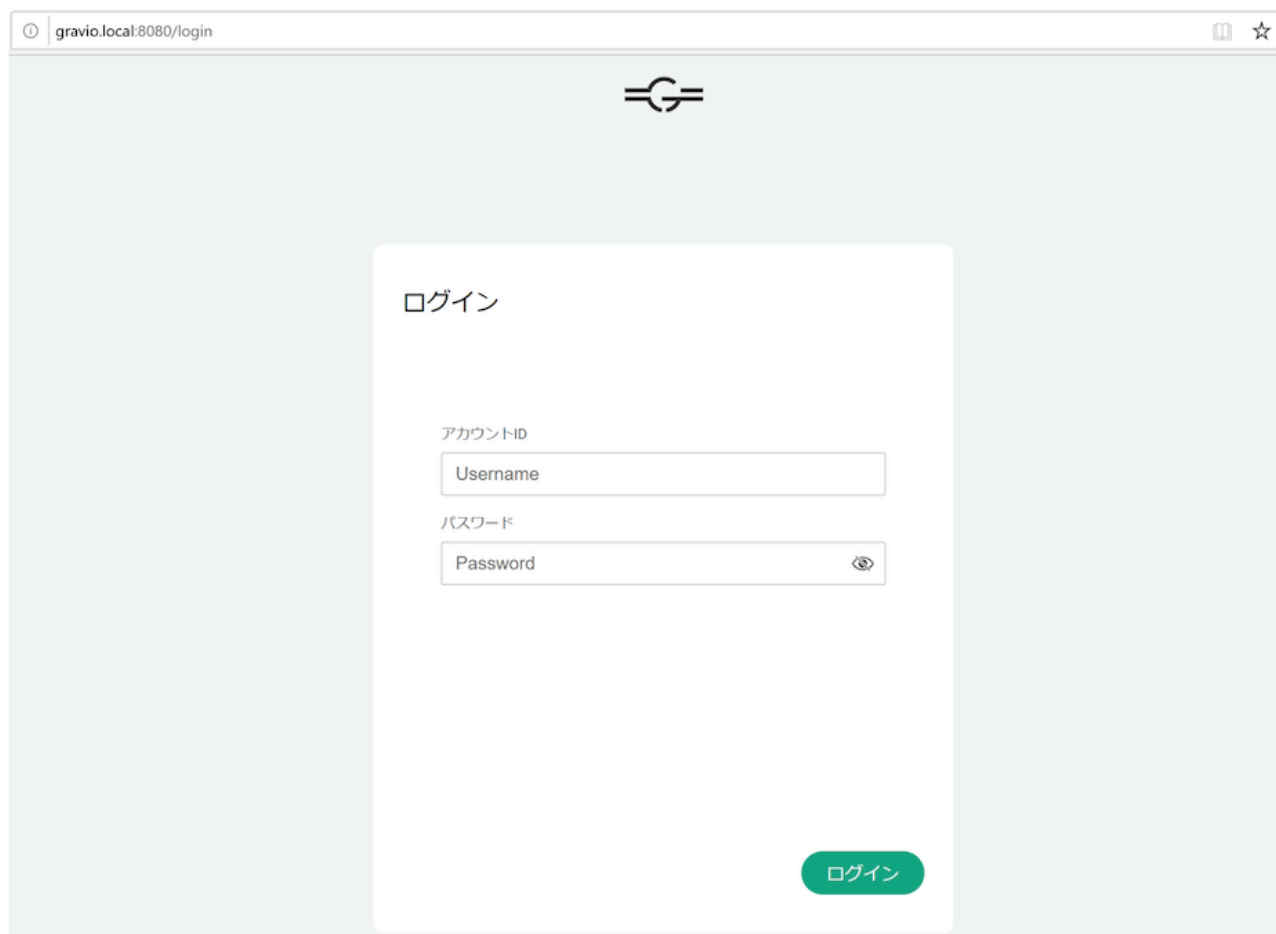
Gravio Coordinatorの設定

1. ブラウザを起動して、Gravio HubのIPアドレスまたは<ホスト名>.localと入力します。
2. 初期アカウントの作成画面が表示されますので、それぞれの項目に内容を入力して、「登録」を行います。
[こちら](#) を参照
3. ログイン画面が出ますので、先ほど入力したアカウント名とパスワードでログインします。
[こちら](#) を参照
4. 次に「ライセンス」のタブを選択して、ライセンスを登録します。
[こちら](#) を参照
5. ライセンスの「ライセンスファイルのアップロード」ボタンを押して、ライセンスファイルをアップロードします。
(ライセンスファイルは、[こちら](#) からログインしていただき、「購入製品情報」メニューを選択し、ご購入いただいている「ライセンス契約ID」をクリックするとライセンスファイルのダウンロードボタンがありますのでそこからファイルをダウンロードしてください。)

以上で設置は完了です。

2.1. Gravio設定

Gravio Hubにブラウザを使用してUpdate Managerを開きます。



ブラウザで、前章で設定した「<Hostname>.local:8080」と入力します。



ログインすると Gravio Hub設定 の画面が開きますのでメンテナンスメニューを開きます。

Gravio HubKit / Gravioコーディネーター 稼働状況

HubKitとコーディネーターのサービスの稼働状況を確認することが出来ます。

Gravio HubKit / Gravio コーディネーター 稼働状況

Gravio HubKit	稼働中	
Gravio コーディネーター	稼働中	

HubKitとコーディネーターのサービスをそれぞれ起動/停止する場合にスイッチを使用してください。

ソフトウェアアップデート

コーディネーターとHubKitのソフトウェアを更新することが出来ます。

ソフトウェアアップデート

Gravio HubKitソフトウェアのアップデート <small>Gravio HubKitの新バージョンが公開されている場合は、バージョンを選択して「更新」ボタンをクリックしてください。</small>	Gravio HubKit バージョン: <input type="text" value="4.2.0"/>	<input type="button" value="インストール"/>	<input type="button" value="再起動"/>
Gravioコーディネーターソフトウェアのアップデート <small>コーディネーターの新バージョンが公開されている場合は、バージョンを選択して「更新」ボタンをクリックしてください。</small>	Gravioコーディネーター バージョン: <input type="text" value="2.5"/>	<input type="button" value="インストール"/>	<input type="button" value="再起動"/>
Zigbeeソフトウェアのアップデート	バージョン: <input type="text" value="0.9.3.1"/>	<input type="button" value="インストール"/>	

更新するHubKitとコーディネーターのソフトウェアのバージョンを選択してインストールボタンを押します。インストールが完了すると再起動ボタンを押してください。

または更新するZigbeeのファームウェアのバージョンを選択してインストールボタンを押します。インストールが完了するとそのまま使用できます。

コーディネーターの証明書を変更する

コーディネーターには標準で自己証明書がインストールされていますが、独自ドメインの証明書に変更することが出来ます。

あらかじめキーファイルと証明書ファイルを用意します。

証明書設定	
SSLを利用	<input checked="" type="checkbox"/>
SSL証明書	<div>キーファイル: <input type="text" value="ファイルを選択してください"/> <input type="button" value="ファイル選択"/></div> <div>証明書ファイル: <input type="text" value="ファイルを選択してください"/> <input type="button" value="ファイル選択"/></div> <div><input type="button" value="リセット"/> <input type="button" value="アップロード"/></div>

証明書設定でSSLを利用するはオンにしたままでSSL証明書にキーファイルと証明書ファイルをアップロードします。アップロードが終了すると証明書の更新が完了します。

クライアント証明書を利用してGravio Studioの接続を管理する

HubKitに接続するGravio Studioに対してクライアント証明書を設定します。
あらかじめ証明書ファイルを用意します。

クライアント証明書を利用してGravio Studioの接続を管理	
クライアント認証を利用する	<input type="checkbox"/>
クライアント証明書	<div>クライアント証明書のファイルをアップロードしてください</div> <div><input type="button" value="アップロード"/></div>

プロキシ設定

プロキシ設定 (この設定はHubkitの停止時に編集することができます)		<input type="button" value="編集"/>
HTTPSプロキシを使用する	プロキシURL:	<input type="checkbox"/>
HTTPプロキシを使用する	プロキシURL:	<input type="checkbox"/>

HubKitがインターネットサービスを使用する場合にProxyサーバーを経由する必要がある場合に設定します。

設定ボタンを押すと設定画面が表示されますので、HTTPSとHTTPのプロトコルでそれぞれに使用するProxyサーバーのアカウント情報(プロキシURL、アカウント、パスワード)を入力します。

プロキシ設定

HTTPSプロキシを使用する

プロキシURL:

アカウント:

パスワード:

HTTPプロキシを使用する

プロキシURL:

アカウント:

パスワード:

キャンセル

保存

※この項目を設定するためにはHubKitは停止している必要があります。

HubKit / コーディネーターデータバックアップ

HubKit / コーディネーターのデータをローカルPCにバックアップし、リストアすることができます。

HubKit / コーディネーターデータバックアップ

HubKit / コーディネーターデータエクスポート

バックアップ

エクスポート

HubKit / コーディネーターデータインポート

インポートファイル: ファイルを選択してください

ファイル選択

インポート

HubKit / コーディネーターのデータをバックアップするにはバックアップボタンを押します。しばらくするとバックアップが完了しますのでエクスポートボタンを押すことでバックアップしたファイルをローカルPCにダウンロードできます。バックアップしたデータをリストアするにはインポートファイルのファイル選択ボタンを押してファイルを選択します。インポートボタンを押すとしばらくするとファイルがアップロードされて完了します。

※インポートするファイルは必ずバックアップしたファイルを指定してください。

Gravio HubKit サポートログ

HubKit と syslogのログファイルをzipファイルでダウンロードすることができます。

Gravio Hub サポートログ

サポートログ出力

エクスポート

ログファイルをダウンロードするにはエクスポートボタンを押します。

Gravio Hub パワーマネージメント

Gravio Hubの電源をオフにします。

Gravio Hub パワーマネジメント/初期化

電源を切る

電源を切る

再起動

再起動

初期化

初期化

電源を切るボタンを押すと自動的にGravio Hubの電源が切れます。

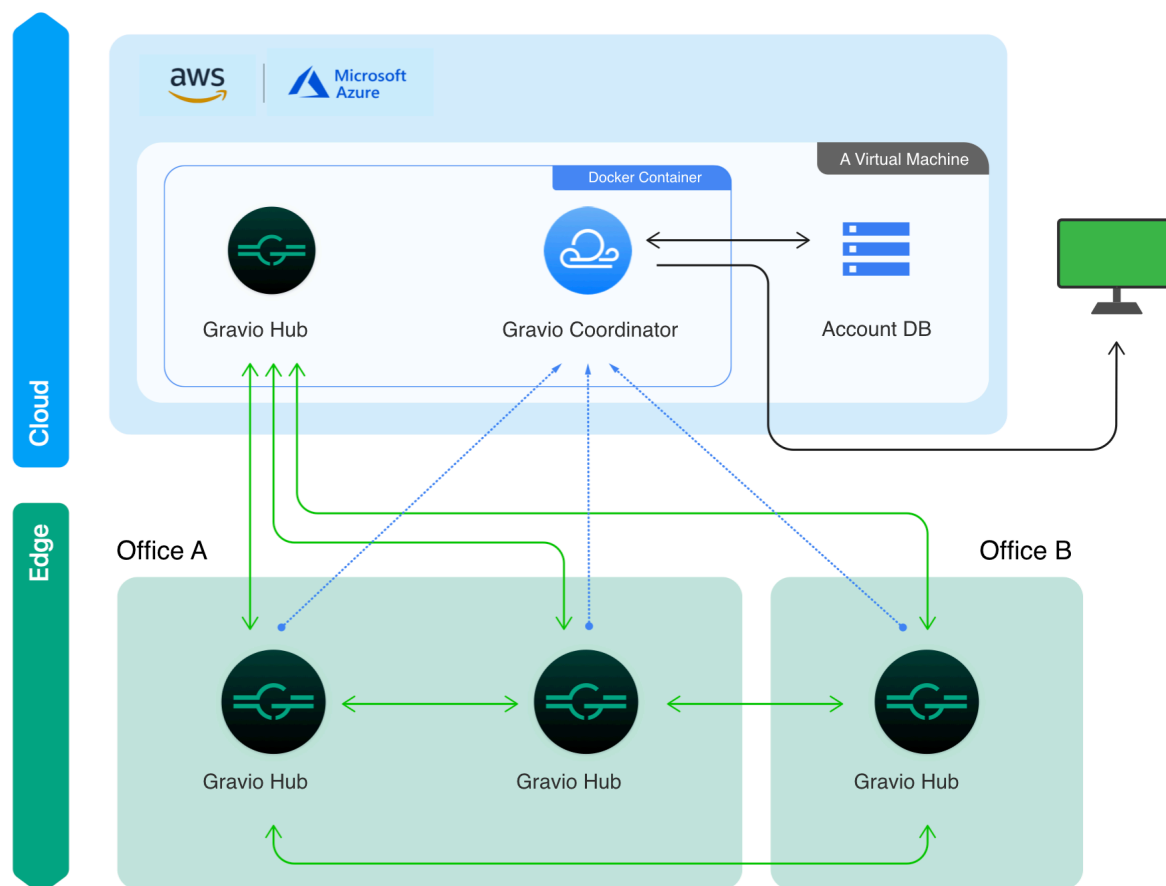
再起動ボタンを押すとGravio Hubは再起動します。

初期化ボタンを押すとGravio Hubは出荷状態に戻り、設定情報ならびにデータが削除されます。

3. クラウドの仮想マシンにGravio Coordinatorを設置する

ここではGravio Coordinatorサーバの設置の手順と、起動・停止の仕方を説明します。

この目次の手順で作業を進めることで、Coordinatorサーバの設置からHubの登録、運用環境の作成までを理解することができます。



Coordinator Overview

3.1. Coordinatorの設置

EC2インスタンスの起動

1. AWSであればEC2インスタンスを1台セットアップしてください。
EC2インスタンスはOSをUbuntu18.04または20.04、vCPU数は2、メモリは4GB以上のインスタンスタイプを選択して起動してください。
ディスクサイズは16GB以上を設定することを推奨しております。
※EC2インスタンスは固定IPアドレスで運用することを前提とし、Elastic IPsでIPアドレスを取得しています。
※外部からアクセスするためにurlとしてドメインを取得し、ホスト名をRoute53に設定をしています。

Coordinatorのインストール

[こちら](#) を参照してください。

Coordinatorの起動/終了と設定方法

[こちら](#) を参照してください。

EC2インスタンス(Gravio Update Manager, Gravio Coordinator)へのポートフィルタリング

Gravio Update Managerにアクセスするポートとしてhttp (8080)を開放してください。
Gravio Coordinatorにアクセスするポートとしてhttps (443)、http (80)を開放してください。

一般公開しない環境でGravio Update Manager を運用する場合にはhttp (8080)、Gravio Coordinatorを運用する場合にはhttps (443)もIPフィルタリングを行うなど、不特定多数からのアクセスを防ぐ設定にすることを推奨します。

Gravio HubKitへのポートフィルタリング

Gravio CoordinatorからHubKitのログを閲覧する場合には、HubKitの29442ポートにアクセスする設定にしてください。

4. Coordinatorの設置後の初期設定

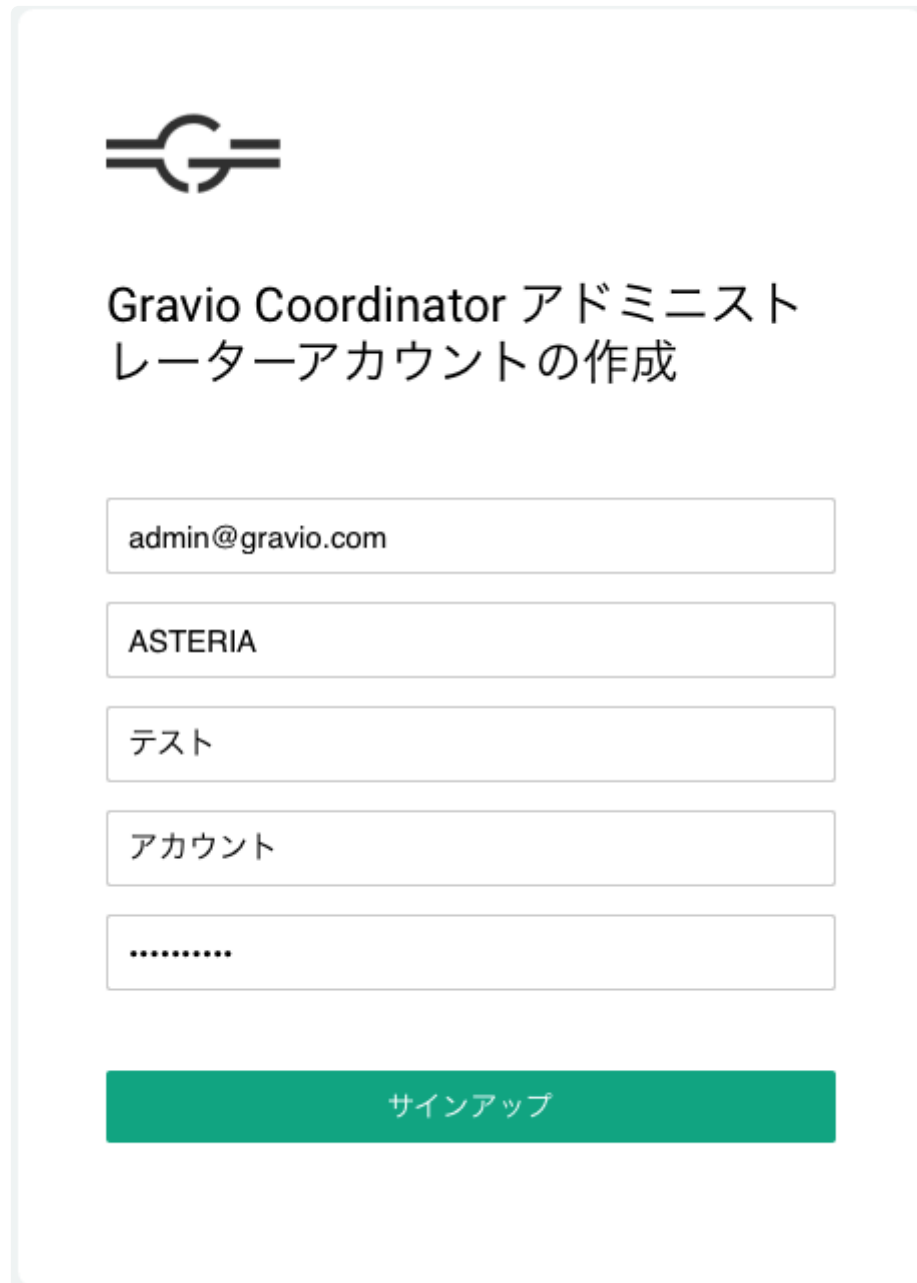
設置の手順が終わったら、CoordinatorへのAdminアカウントの作成をしてログインできるようにします。

4.1. Adminアカウントの作成手順

ブラウザを開いてCoordinatorの初期画面を表示

ホスト名を test.gravio.com としている場合は、ブラウザでhttps://test.gravio.comと入力して、初期画面を出します。

最初にAdminアカウントの登録画面が出ます。



The image shows a web form for creating an Admin account in Gravio Coordinator. At the top is the Gravio logo, a stylized 'G' with horizontal lines. Below the logo is the title 'Gravio Coordinator アドミニストレーターアカウントの作成'. The form consists of five input fields: an email field containing 'admin@gravio.com', a company name field containing 'ASTERIA', a first name field containing 'テスト', a last name field containing 'アカウント', and a password field with masked characters '.....'. At the bottom is a green button labeled 'サインアップ' (Sign Up).

Adminアカウント名となるメールアドレスと、パスワードを入力して、作成します。


※パスワードは4文字以上の32文字以内で指定してください。

ログイン画面に遷移しますので、いま入力したメールアドレス、パスワードでログインします。

4.2. Coordinatorへのログイン

Coordiantorにログイン

先ほど作成したAdminアカウント名となるメールアドレスとパスワードを入力してログインします。



ログイン

ログイン

ログインするとGravioアカウント画面に遷移します。

4.3. ライセンスの登録

1. 「ライセンス」のタブを選択して、ライセンスを登録します。
2. ライセンスの「ライセンスファイルのアップロード」ボタンを押して、ライセンスファイルをアップロードします。
(ライセンスファイルは、[こちら](#) からログインしていただき、「購入製品情報」メニューを選択し、ご購入いただいている「ライセンス契約ID」をクリックするとライセンスファイルのダウンロードボタンがありますのでそこからファイルをダウンロードしてください。)

アカウント Hub Hub統計情報 **ライセンス** アカウントテスト  

Gravioライセンス情報 [ライセンスファイルのアップロード](#)

このGravio CoordinatorサーバにはGravioエンタープライズライセンスが登録されていません。
以下の日数以内にライセンスファイルをアップロードして設定してください。残り 0 日

ライセンスキーの有効期間は1年です。

[Gravio Coordinator Version 2.2をインストールされている場合]

[こちら](#) からログインして、新しいライセンスをダウンロードして再度アップロードをお願いいたします。
新しいライセンスキーは有効期限の25日前からダウンロードできます。

[Gravio Coordinator Version 2.3以上をインストールしている場合]

Gravio Coordinatorからインターネットにアクセス可能でgravio.comの接続情報が設定されている場合は、ライセンス有効期限の24日前から自動でライセンス更新のチェックを行います。

契約が更新されている場合は自動でライセンスキーが更新されます。

インターネットに接続されていない場合は、「Gravio Coordinator Version 2.2をインストールされている場合」と同様に「お客様ログイン」サイトからログインの上、新しいライセンスキーを取得して、設定してください。

5. Gravioアカウント

GravioアカウントとはCoordinatorを利用するためのアカウントで、機能により以下の権限（ロール）に分けられています。

Admin	Coordinator全体を管理するロール
Developer	開発者向けのロール
Maintainer	Coordinatorを保守するロール
AppUser	アプリからログインするためのロール

AdminアカウントはCoordinatorに必ず1つ必要です。

5.1. アカウント一覧

作成したGravioアカウントは上段メニューの「アカウント」を選択することで登録されているアカウントが一覧で表示されます。



アカウント Hub Hub統計情報 ライセンス

アカウントテスト  

アカウント 追加

アカウントID	姓	名	権限	
admin@gravio.com	テスト	アカウント	Admin	 編集  削除

新規にアカウントを追加する場合には「追加」ボタンを押します。

作成済みのアカウントを編集するには該当アカウントの「編集」ボタンを押します。

作成済みのアカウントを削除するには該当アカウントの「削除」ボタンを押します。

5.2. アカウントの作成

Adminロール以外のアカウントでCoordinatorに接続する場合には、アカウントを作成する必要があります。

アカウント一覧画面の右上にある「作成」ボタンを押してアカウントを作成してください。

※パスワードは8文字以上の32文字以内で指定してください。

アカウントの作成

メールアドレス

Email Address

名

First Name

姓

Last Name

パスワード

Password

権限

Admin

キャンセル

保存

5.3. アカountの編集

作成したアカウントを編集するには、アカウント一覧画面の該当アカウントの「編集」ボタンを押します。

アカウントの編集

メールアドレス

admin@gravio.com

名

テスト

姓

アカウント

パスワード

Password

権限

Admin

キャンセル

保存

パスワードを変更した場合は、次のログインから有効となります。

5.4. アカウントの削除

作成したアカウントを削除するには、アカウント一覧画面の該当アカウントの「削除」ボタンを押します。

最後の1つとなるAdminロールのアカウントは削除することができません。

6. Hub

HubをCoordinatorの管理下におくには、以下の手順で設定を行う必要があります。

1. Gravio StudioからCoordinatorにログイン

Adminロールのアカウントを使用します。

2. HubをCoordinatorに登録

CoordinatorでGravio Studioに表示されるHub情報とパスワードを登録します。

3. HubからCoordinatorに接続

Gravio StudioでHubにHubアカウントを登録します。

準備するもの

- ・Gravio Studio
- ・Hub
- ・Coordinator
- ・Coordinatorにログインするためのブラウザ

6.1. Gravio StudioからCoordinatorにログイン

Gravio Studioでの操作

Gravio Studioを起動してGravio Coordinatorへログインからログイン画面を表示して、CoordinatorのURL、メールアドレスとパスワードを入力してログインします。

※メールアドレスはAdminロールのアカウントを使用します。



The image shows the Gravio Studio login interface. On the left, there is a large green graphic with a white laptop and smartphone, and three circular icons representing USB, Bluetooth, and Wi-Fi. Below the graphic, the text 'データ収集' (Data Collection) is displayed, followed by a subtitle: 'Gravioは、様々な通信方式で接続されたデバイスからのデータを収集を可能にします' (Gravio enables data collection from devices connected via various communication methods). On the right, there is a login form with the Gravio logo at the top. The form includes three input fields: the first for the URL (pre-filled with 'https://test.gravio.com'), the second for the email address (pre-filled with 'admin@gravio.com'), and the third for the password (masked with dots). Below the password field is a green 'ログイン' (Login) button. Underneath the button are two links: 'パスワードを忘れましたか?' (Forgot your password?) and 'サインアップ' (Sign up). At the bottom right, there is a link 'Gravio.comへログイン' (Login to Gravio.com).

データ収集

Gravioは、様々な通信方式で接続されたデバイスからのデータを収集を可能にします

https://test.gravio.com

admin@gravio.com

●●●●●●●●

ログイン

パスワードを忘れましたか?

サインアップ

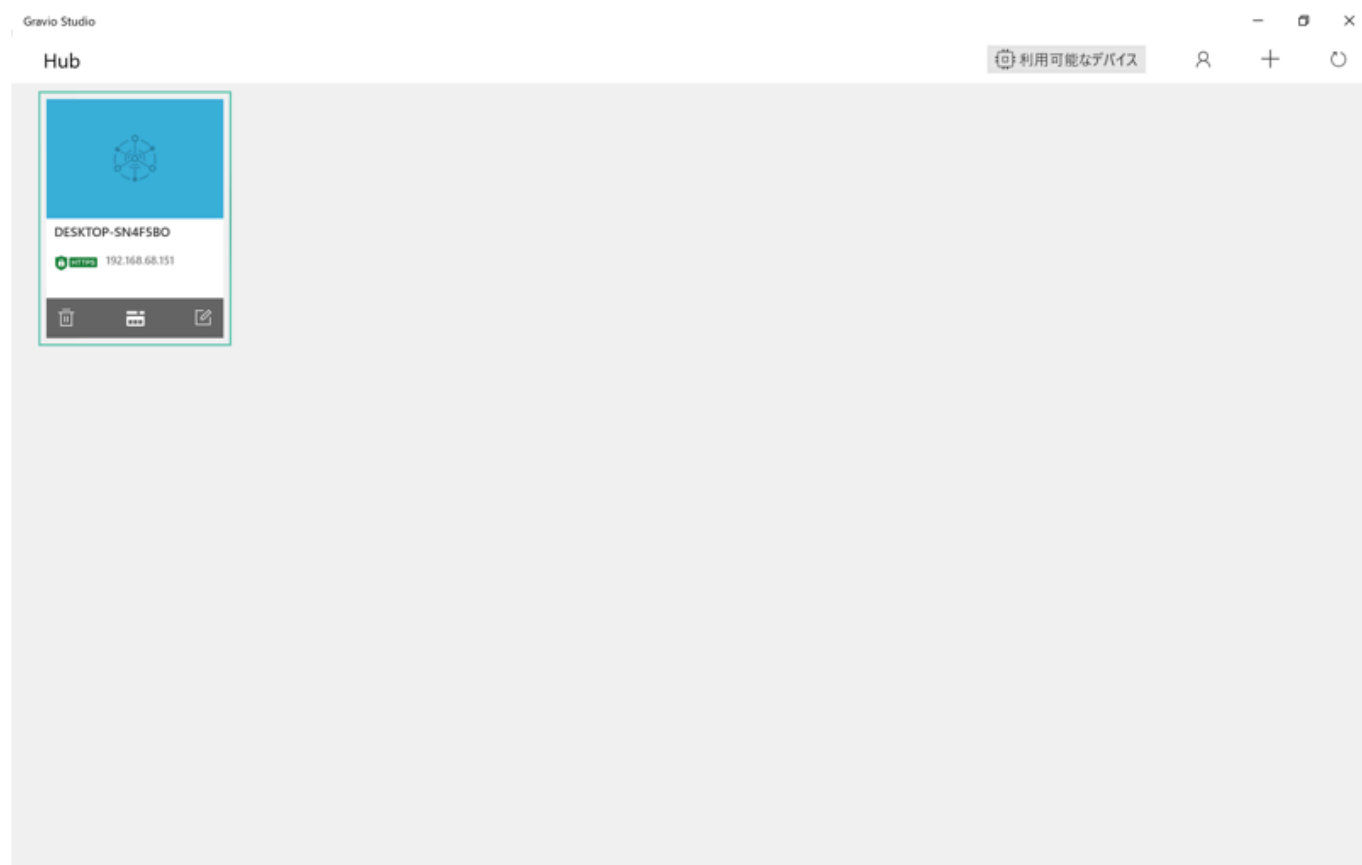
Gravio.comへログイン

6.2. HubをCoordinatorに登録

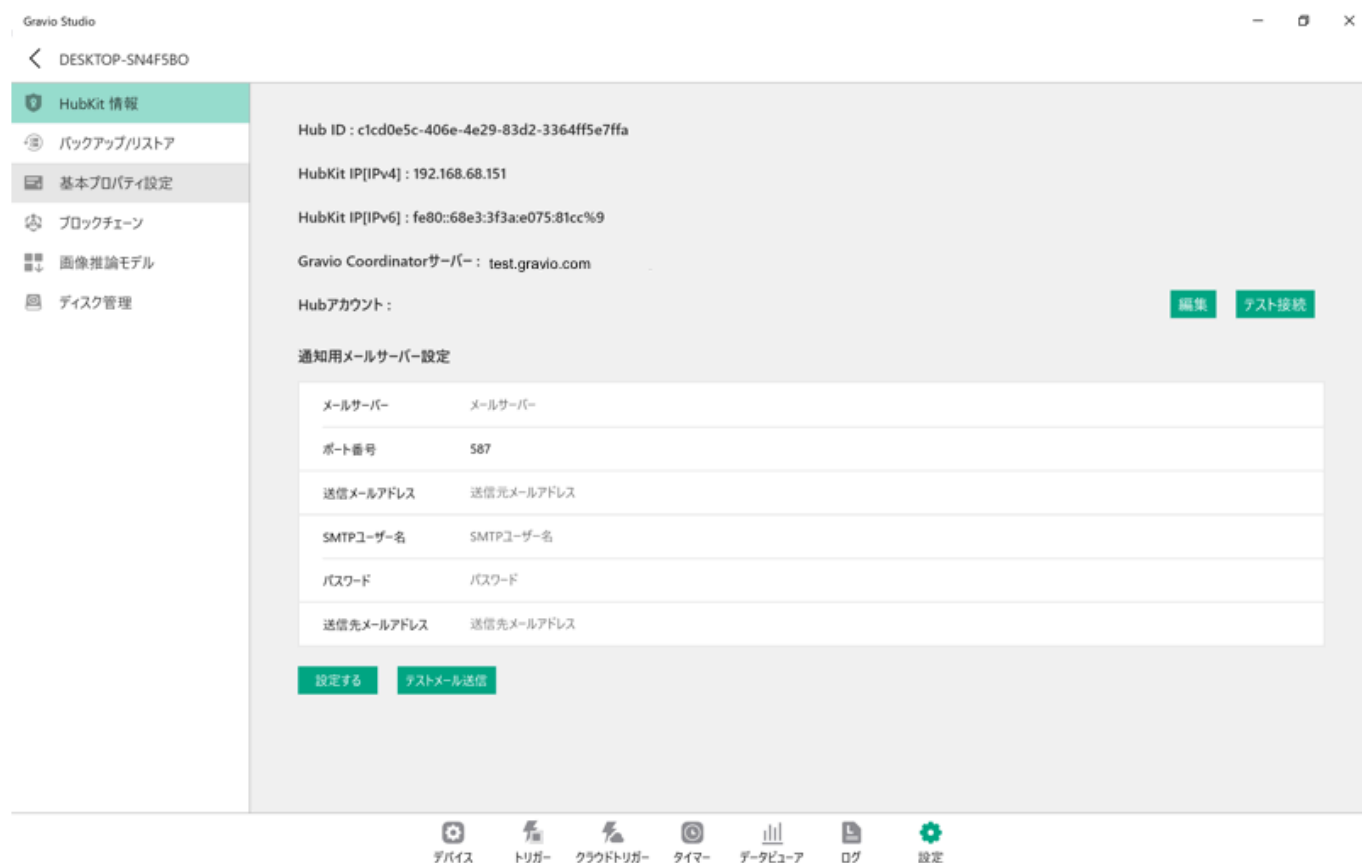
Gravio Hub・Hub PCをCoordinatorの管理下に置くためにHubをCoordinatorに登録する必要があります。
以下にその手順を説明します。

1. Gravio Studioでの操作

Gravio StudioにログインするとHubが自動的に表示されます。
このHub情報をCoordinatorに登録するためHubKit情報画面を表示します。



Hubのアイコンをダブルクリックしてデバイス画面が表示されたら、設定画面にあるHubKit情報を表示させます。



このHubKit情報に表示されている

- ・Hub ID
- ・DNS Name or IP Address

をCoordinatorに登録します。

2. Coordinatorでの操作

ブラウザを開いてCoordinatorにログインし、上段メニューの「Hub」を選択することで登録されているHubが一覧で表示されます。



アカウント

Hub

Hub統計情報

ライセンス

アカウントテスト



Gravio Hub / Hub PCの管理

追加

Hub名	Hub ID	DNS Name or IP Address	ブロックチェーンノード
Gravio Hub または Hub PCを登録しましょう。			
Hubの登録			

一覧画面の右上にある「追加」ボタンを押してHubを登録してください。

Hubの登録

Hub名

Hub1

Hub ID

c1cd0e5c-406e-4e29-83d2-3364ff5e7ffa

DNS Name or IP Address

192.168.68.151

HubKitログインパスワード

.....

キャンセル

保存

サーバ名には任意の名前を、サーバIDにはHub ID、IPv4アドレスにはHubKit IP[IPv4]をまた必要に応じてIPv6にHubKit IP[IPv6]を入力してください。

Hubkit Login PasswordにはCoordinatorとHubと関連付けるための認証用アカウントのパスワードを入力して登録します。

※Hub ID、HubKit IP[IPv4]とHubKit IP[IPv6]はGravio StudioのHubKit情報に表示されている内容です。
※認証用アカウントのパスワードは次の章（HubにHubアカウントの登録）でGravio StudioのHubKit情報に登録します。



アカウント **Hub** Hub統計情報 ライセンス

アカウントテスト  ▼

Gravio Hub / Hub PCの管理

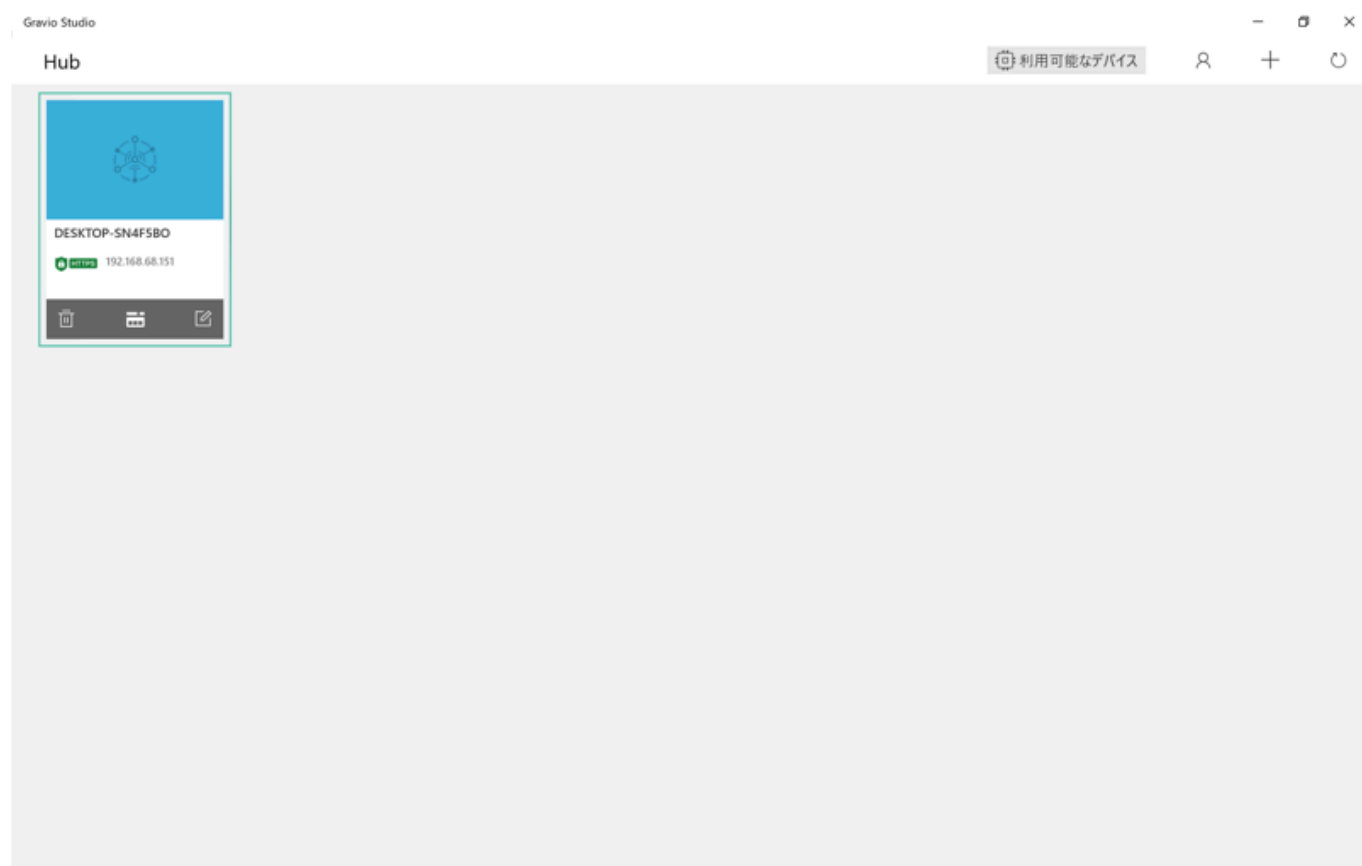
[追加](#)

Hub名	Hub ID	DNS Name or IP Address	ブロックチェーンノード	
Hub1	c1cd0e5c-406e-4e29-83d2-3364ff5e7ffa	192.168.68.151	利用しない	編集 削除

登録すると一覧にHubが表示されます。

6.3. HubからCoordinatorに接続する

Gravio Studioでの操作



さきほどCoordinatorに登録したHubが表示されますので、Hubのアイコンをダブルクリックしてデバイス画面が表示されたら、設定画面にあるHubKit情報を表示させます。

Gravio Studio

DESKTOP-SN4F5BO

HubKit 情報

バックアップ/リストア

基本プロパティ設定

ブロックチェーン

画像推論モデル

ディスク管理

Hub ID : c1cd0e5c-406e-4e29-83d2-3364ff5e7ffa

HubKit IP[IPv4] : 192.168.68.151

HubKit IP[IPv6] : fe80::68e3:3f3a:e075:81cc%9

Gravio Coordinatorサーバー : test.gravio.com

編集 テスト接続

通知用メールサーバー設定

メールサーバー	メールサーバー
ポート番号	587
送信メールアドレス	送信元メールアドレス
SMTPユーザー名	SMTPユーザー名
パスワード	パスワード
送信先メールアドレス	送信先メールアドレス

設定する テストメール送信

デバイス トリガー クラウドトリガー タイマー データビューア ログ 設定

HubKit情報ではHubアカウントがまだ設定されていないので「編集」ボタンを押してアカウントを登録します。

Gravio Studio

DESKTOP-SN4F5BO

HubKit 情報

バックアップ/リストア

基本プロパティ設定

ブロックチェーン

画像推論モデル

ディスク管理

Hub ID : c1cd0e5c-406e-4e29-83d2-3364ff5e7ffa

HubKit IP[IPv4] : 192.168.68.151

HubKit IP[IPv6] : fe80::68e3:3f3a:e075:81cc%9

Gravio Coordinatorサーバー : test.gravio.com

Hubアカウント :

通知用メールサーバー

メールサーバー	
ポート番号	
送信メールアドレス	
SMTPユーザー名	
パスワード	
送信先メールアドレス	送信先メールアドレス

設定する テストメール送信

Gravio CoordinatorでこのHubを管理するには、Gravio Coordinatorにログインするための認証用アカウントを設定する必要があります。

アカウント情報がわからない場合は、Gravio Coordinatorの管理運営者にお問い合わせください。

OK キャンセル

デバイス トリガー クラウドトリガー タイマー データビューア ログ 設定

CoordinatorでHubと関連付けるために認証用アカウントのパスワードを入力します。

登録が成功するとHubからCoordinatorに対して定期的にステータス情報を送信します。
送信されるステータス情報はHub統計情報から確認することができます。

「テスト接続」ボタンでHubとCoordinatorの接続テストを行うこともできます。

6.4. アクセス制限をかけたい場合

HubにアクセスするGravio Studioを制限する

Gravio Hub(HubKit PC)にアクセスするGravio Studioを制限するには、Gravio Hub(HubKit PC)に使用するGravio Studioのクライアント証明書をインストールします。

*この機能はBasicユーザのみで使用できます。

Gravio Coordinatorにログインしてからアカウントタブを選択します。



The screenshot shows the 'アカウント' (Account) tab in the Gravio Coordinator interface. At the top, there is a navigation bar with 'アカウント' (Account), 'Hub', 'Hub統計情報' (Hub Statistics), and 'ライセンス' (License). On the right, there is a user profile icon and a dropdown arrow. Below the navigation bar, the 'アカウント' (Account) section is active, showing a table of accounts. The table has columns for 'アカウントID' (Account ID), '姓' (Surname), '名' (Name), and '権限' (Permissions). A single account is listed with ID 'admin@gravio.com', Surname 'テスト' (Test), Name 'アカウント' (Account), and Permissions 'Admin'. To the right of the table, there is a green '追加' (Add) button and a red box highlighting the '編集' (Edit) and '削除' (Delete) buttons.

アカウントID	姓	名	権限
admin@gravio.com	テスト	アカウント	Admin

ダウンロードするアカウントのクライアント証明書のボタンをクリックしてPCに保存してください。

ダウンロードした証明書ファイルはGravio Hub(HubKit PC)のデータディレクトリ(gravio)/clientcertにコピーしてください。

MacOSの場合

以下のディレクトリにダウンロードした証明書を入れる。

/Library/Application\ Support/HubKit/clientcert

Gravio HubKitのToolbarアプリで、「設定...」メニューを開き、「接続」タブを選択して、「クライアント認証を利用する」をチェックする。

その後、HubKitを起動する。

Gravio Hub / Linuxの場合

SSHでloginし、以下のディレクトリにダウンロードした証明書を入れる。

/home/gravio/hubkitrepo4/etc/clientcert

「/home/gravio/hubkitrepo4/etc/ctrlmgr/conf」のディレクトリに「config.json」というファイル名で以下の内容を含んだファイルを作成する。

```
{
  "Client" : {
    "UseClientCertificates" : true
  }
}
```

```
}  
}
```

その後、Gravio Hubを再起動する

証明書のHubへの登録した後はGravio HubKitを再起動してください。再起動によりクライアント認証が有効となります。

7. Hub統計情報

Hub統計情報は、Hubから定期的に送信されるステータス情報が表示されます。

アカウントHubHub統計情報ライセンス

テストアカウント

Hub統計情報

▼ Hub1

● Hubからのレポートを待っています

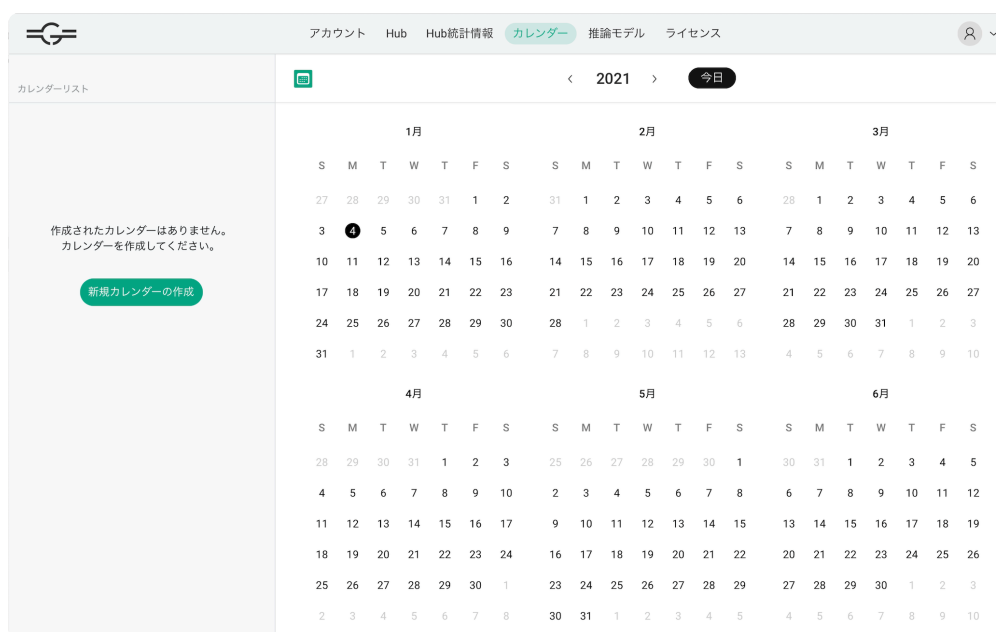
稼働累計時間: N/A | 最終レポート日時: N/A

カーネル:	N/A	ディスク容量		メモリ利用量	
ユーザ:	N/A	トータル:	N/A	トータル:	N/A
		空き容量:	N/A	現在:	N/A

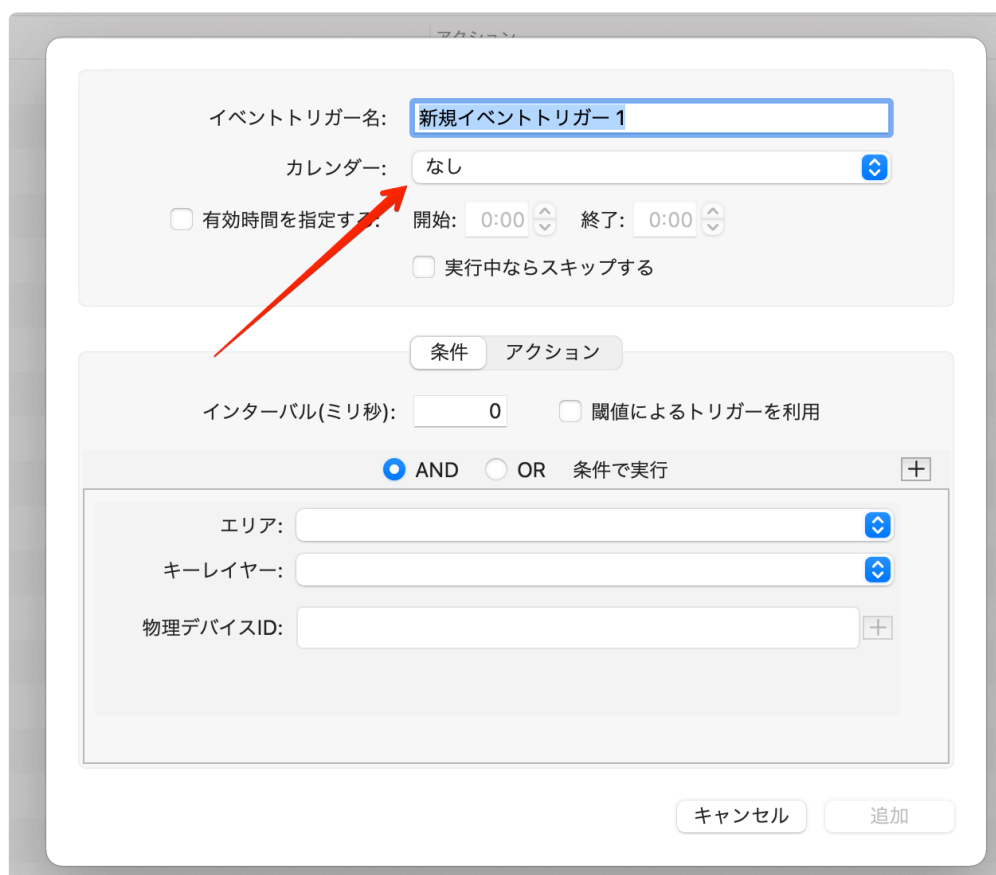
アクション設定		データレコード量		センサー状況	
登録されているアクションの数:	N/A	SQLite DB レコード:	N/A	エリア数:	N/A
		ブロックチェーンブロック数:	N/A	レイヤー数:	N/A
				デバイス数:	N/A

8. カレンダー

Gravio Enterpriseをご利用のお客様は、HubKitのトリガー条件に使うためのカレンダーを利用することができます。



このカレンダー機能を使うことで、トリガー条件の設定画面に、作成したカレンダーを使用することができます。



カレンダーでトリガーの有効期間を指定して、「有効時間を指定する」を指定することで期間内の時間帯を指定する

ことができます。

8.1. カレンダーの作成・編集

右上の「作成」ボタンを押して、カレンダーを作成します。

The screenshot shows the GraviO Coordinator interface for creating a calendar. The top navigation bar includes 'アカウント', 'Hub', 'Hub統計情報', 'カレンダー', '推論モデル', and 'ライセンス'. The sidebar on the left shows 'カレンダーリスト' and 'Working Day'. The main area displays a calendar for 2021, with months 1 through 4 visible. The calendar grid shows days of the week (S, M, T, W, T, F, S) and dates. The right sidebar contains settings for the calendar name ('Working Day'), start date ('2021-01-01'), end date ('2021-12-31'), and checkboxes for days of the week (日, 月, 火, 水, 木, 金, 土). Buttons for 'キャンセル' and '作成' are visible at the top right.

トリガーを実行したい日をカレンダー内の「日」の部分をクリックすることで「有効」にできます。
右の設定パネルから

カレンダー名

Working Day

開始日:

2021-01-01

終了日:

2021-12-31

☐ 日

☒ 月

☒ 火

☒ 水

☒ 木

☒ 金

☐ 土

設定解除

有効に設定

開始日と終了日を指定して、選択したい日をまとめて設定することも可能です。

例)

開始日：2021年1月1日

終了日：2021年12月31日

曜日：月、火、水、木、金

このように設定した場合は2021年1月1日から12月31日までの月曜～金曜が有効となります。

9. 推論モデル

ユーザが作成した推論モデルファイルをCoordinatorにアップロードして、配布することが可能です。
また、作成されたモデルファイルの設定の編集等が可能です。

推論モデル

[モデルの作成](#)[アップロード](#)

モデル名	ソース	更新日時	サイズ
アップロードされた推論モデルファイルはありません。 推論モデルファイルをアップロードできます。			
Gravioモデルzipファイルのアップロード			

9.1. TensorFlowモデルファイルの作成

TensorFlow 1.x系のモデルファイルをGravioで利用できるTensorFlowモデルファイルとして作成します。

TensorFlowLiteモデルファイルを作成する操作は [こちら](#) を参照してください。

モデルファイルの一覧

使用できるモデルファイルが表示されます。

※モデルファイルはGravioライセンスにより内容が異なります。

推論モデル

[モデルの作成](#)[アップロード](#)

モデル名	ソース	更新日時	サイズ	
CongestionRecognition_16FeetTensorFlow	gravio.com		178.96 MB	ダウンロード
CongestionRecognition_16FeetTensorFlowLite	gravio.com		7.53 MB	ダウンロード
CongestionRecognition_32FeetTensorFlow	gravio.com		178.95 MB	ダウンロード
CongestionRecognition_32FeetTensorFlowLite	gravio.com		7.49 MB	ダウンロード
CongestionRecognition_32Feet_rev2_TensorFlow	gravio.com		178.96 MB	ダウンロード
CongestionRecognition_48FeetTensorFlow	gravio.com		178.94 MB	ダウンロード
CongestionRecognition_48FeetTensorFlowLite	gravio.com		7.51 MB	ダウンロード
CongestionRecognition_48Feet_rev4_TensorFlow	gravio.com		178.96 MB	ダウンロード
NumberOfPeopleTensorFlow	gravio.com		179.04 MB	ダウンロード
NumberOfPeopleTensorFlowLite	gravio.com		7.63 MB	ダウンロード
WeatherTensorFlow	gravio.com		179.09 MB	ダウンロード
WeatherTensorFlowLite	gravio.com		7.74 MB	ダウンロード

モデルファイルのアップロード

ローカルに保存されているモデルファイルを登録するにはアップロードボタンを押してファイルを選択してからアップロードしてください。

モデルファイルのダウンロード

モデルファイルのダウンロードボタンを押すと gravio.comからCoordinatorにダウンロードされます。
モデルファイルを編集するにはダウンロードする必要があります。

推論モデル

モデルの作成

アップロード

モデル名	ソース	更新日時	サイズ	
CongestionRecognition_16FeetTensorFlow	gravio.com		178.96 MB	🔗
CongestionRecognition_16FeetTensorFlowLite	gravio.com		7.53 MB	🔗
CongestionRecognition_32FeetTensorFlow	gravio.com		178.95 MB	🔗
CongestionRecognition_32FeetTensorFlowLite	gravio.com		7.49 MB	🔗
CongestionRecognition_32Feet_rev2_TensorFlow	gravio.com		178.96 MB	🔗
CongestionRecognition_48FeetTensorFlow	gravio.com		178.94 MB	🔗
CongestionRecognition_48FeetTensorFlowLite	gravio.com		7.51 MB	🔗
CongestionRecognition_48Feet_rev4_TensorFlow	gravio.com		178.96 MB	🔗
NumberOfPeopleTensorFlow	gravio.com		179.04 MB	🔗
NumberOfPeopleTensorFlowLite	gravio.com		7.63 MB	🔗
WeatherTensorFlow	gravio.com		179.09 MB	🔗
WeatherTensorFlowLite	gravio.com		7.74 MB	🔗

downloading...40%

ダウンロードしたモデルファイル

モデルファイルをダウンロードすると操作ボタンが追加表示されます。

「エクスポート」はモデルファイルをローカルにダウンロードします。

「コピー」はモデルファイルを設定情報を変更して複製します。

「編集」はモデルファイルの設定情報を編集します。

「削除」はモデルファイルをローカルから削除します。

推論モデル

モデルの作成

アップロード

モデル名	ソース	更新日時	サイズ	
CongestionRecognition_16FeetTensorFlow	My coordinator	2020-10-10 14:28:58	178.96 MB	🔗 📄 📝 🗑
CongestionRecognition_16FeetTensorFlowLite	gravio.com		7.53 MB	🔗
CongestionRecognition_32FeetTensorFlow	gravio.com		178.95 MB	🔗
CongestionRecognition_32FeetTensorFlowLite	gravio.com		7.49 MB	🔗
CongestionRecognition_32Feet_rev2_TensorFlow	gravio.com		178.96 MB	🔗
CongestionRecognition_48FeetTensorFlow	gravio.com		178.94 MB	🔗
CongestionRecognition_48FeetTensorFlowLite	gravio.com		7.51 MB	🔗
CongestionRecognition_48Feet_rev4_TensorFlow	gravio.com		178.96 MB	🔗
NumberOfPeopleTensorFlow	gravio.com		179.04 MB	🔗
NumberOfPeopleTensorFlowLite	gravio.com		7.63 MB	🔗
WeatherTensorFlow	gravio.com		179.09 MB	🔗
WeatherTensorFlowLite	gravio.com		7.74 MB	🔗

モデルファイルの複製

モデルファイルの複製ボタンを押すと複製パネルが表示されます。

変更する場合にはモデル名、メソッド、出力形式、検出値を含める、信用度の閾値も変更してください。

※モデル名には自動的に“Copy_”が付加されます。

※重複したモデルファイル名は設定することはできません。

「保存」ボタンを押すとモデルファイルが複製されます。

The screenshot shows the '推論モデル' (Inference Model) management interface. A modal dialog titled 'モデルの複製' (Model Duplication) is open, allowing users to create a copy of an existing model. The dialog contains the following fields and options:

- モデル名 (Model Name):** A text input field showing 'Copy_CongestionRecognition_16Feet'.
- メソッド (Method):** A dropdown menu set to 'Count'.
- 出力形式 (Output Format):** A dropdown menu set to '数値' (Numerical).
- 検出値を含める (Include Detection Values):** An unchecked checkbox.
- 信頼度の閾値 (Confidence Threshold):** A text input field set to '0.5'.

At the bottom of the dialog are two buttons: 'キャンセル' (Cancel) and '保存' (Save). The background interface shows a list of models with columns for model name, source, size, and actions (copy, edit, delete).

モデル名	ソース	サイズ	操作
CongestionRecognition_16FeetTensorFlow			複製
CongestionRecognition_16FeetTensorFlowLite			複製
CongestionRecognition_32FeetTensorFlow			複製
CongestionRecognition_32FeetTensorFlowLite			複製
CongestionRecognition_32Feet_rev2_TensorFlow			複製
CongestionRecognition_48FeetTensorFlow			複製
CongestionRecognition_48FeetTensorFlowLite			複製
CongestionRecognition_48Feet_rev4_TensorFlow			複製
NumberOfPeopleTensorFlow			複製
NumberOfPeopleTensorFlowLite			複製
WeatherTensorFlow	gravio.com	179.09 MB	複製
WeatherTensorFlowLite	gravio.com	7.74 MB	複製

推論モデル

モデルの複製

モデル名
Copy_CongestionRecognition_16FeetTensorFlow

メソッド
Count

出力形式
数値

☐ 検出値を含める

信頼度の閾値
0.5

duplicating...20%

保存

モデル名	ソース	更新日時	サイズ
CongestionRecognition_16FeetTensorFlow	My coordinator	2020-10-10 14:28:58	178.96 MB
CongestionRecognition_16FeetTensorFlowLite	gravio.com		7.53 MB
CongestionRecognition_32FeetTensorFlow	gravio.com		178.95 MB
CongestionRecognition_32FeetTensorFlowLite	gravio.com		7.49 MB
CongestionRecognition_32Feet_rev2_TensorFlow	gravio.com		178.96 MB
CongestionRecognition_48FeetTensorFlow	gravio.com		178.94 MB
CongestionRecognition_48FeetTensorFlowLite	gravio.com		7.51 MB
CongestionRecognition_48Feet_rev4_TensorFlow	gravio.com		178.96 MB
Copy_CongestionRecognition_16FeetTensorFlow	My coordinator	2021-05-18 16:58:52	178.75 MB
NumberOfPeopleTensorFlow	gravio.com		179.04 MB
NumberOfPeopleTensorFlowLite	gravio.com		7.63 MB
WeatherTensorFlow	gravio.com		179.09 MB
WeatherTensorFlowLite	gravio.com		7.74 MB

推論モデル

モデル名	ソース	更新日時	サイズ
CongestionRecognition_16FeetTensorFlow	My coordinator	2020-10-10 14:28:58	178.96 MB
CongestionRecognition_16FeetTensorFlowLite	gravio.com		7.53 MB
CongestionRecognition_32FeetTensorFlow	gravio.com		178.95 MB
CongestionRecognition_32FeetTensorFlowLite	gravio.com		7.49 MB
CongestionRecognition_32Feet_rev2_TensorFlow	gravio.com		178.96 MB
CongestionRecognition_48FeetTensorFlow	gravio.com		178.94 MB
CongestionRecognition_48FeetTensorFlowLite	gravio.com		7.51 MB
CongestionRecognition_48Feet_rev4_TensorFlow	gravio.com		178.96 MB
Copy_CongestionRecognition_16FeetTensorFlow	My coordinator	2021-05-18 16:58:52	178.75 MB
NumberOfPeopleTensorFlow	gravio.com		179.04 MB
NumberOfPeopleTensorFlowLite	gravio.com		7.63 MB
WeatherTensorFlow	gravio.com		179.09 MB
WeatherTensorFlowLite	gravio.com		7.74 MB

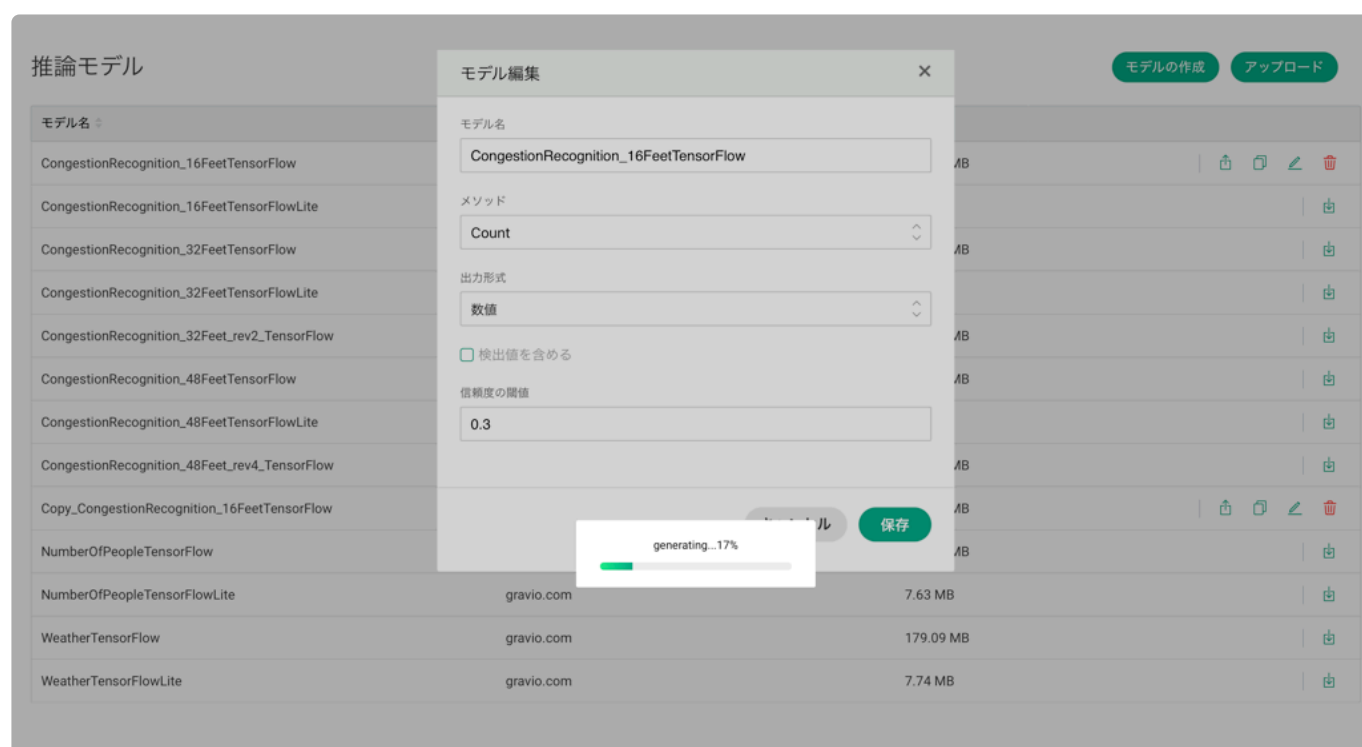
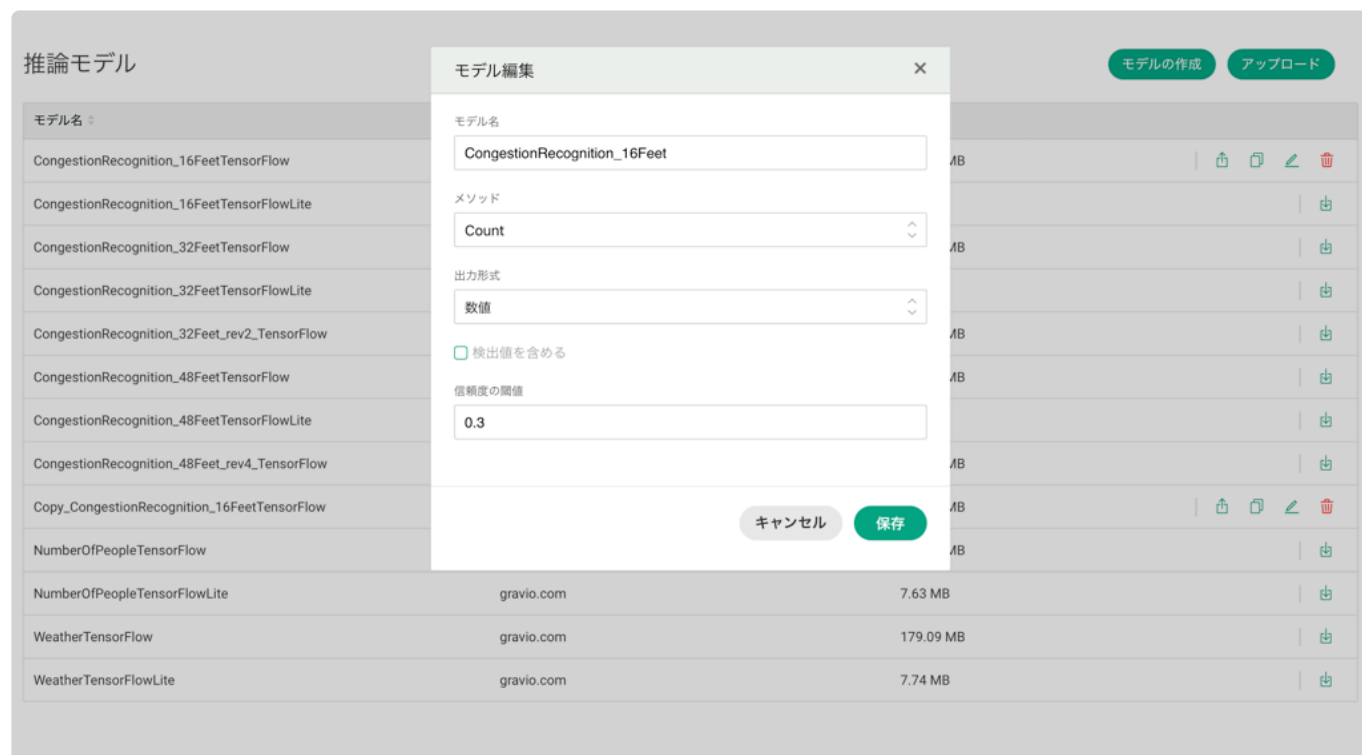
モデルファイルの編集

モデルファイルの編集ボタンを押すと編集パネルが表示されます。

変更する場合にはモデル名、メソッド、出力形式、検出値を含める、信用度の閾値も変更してください。

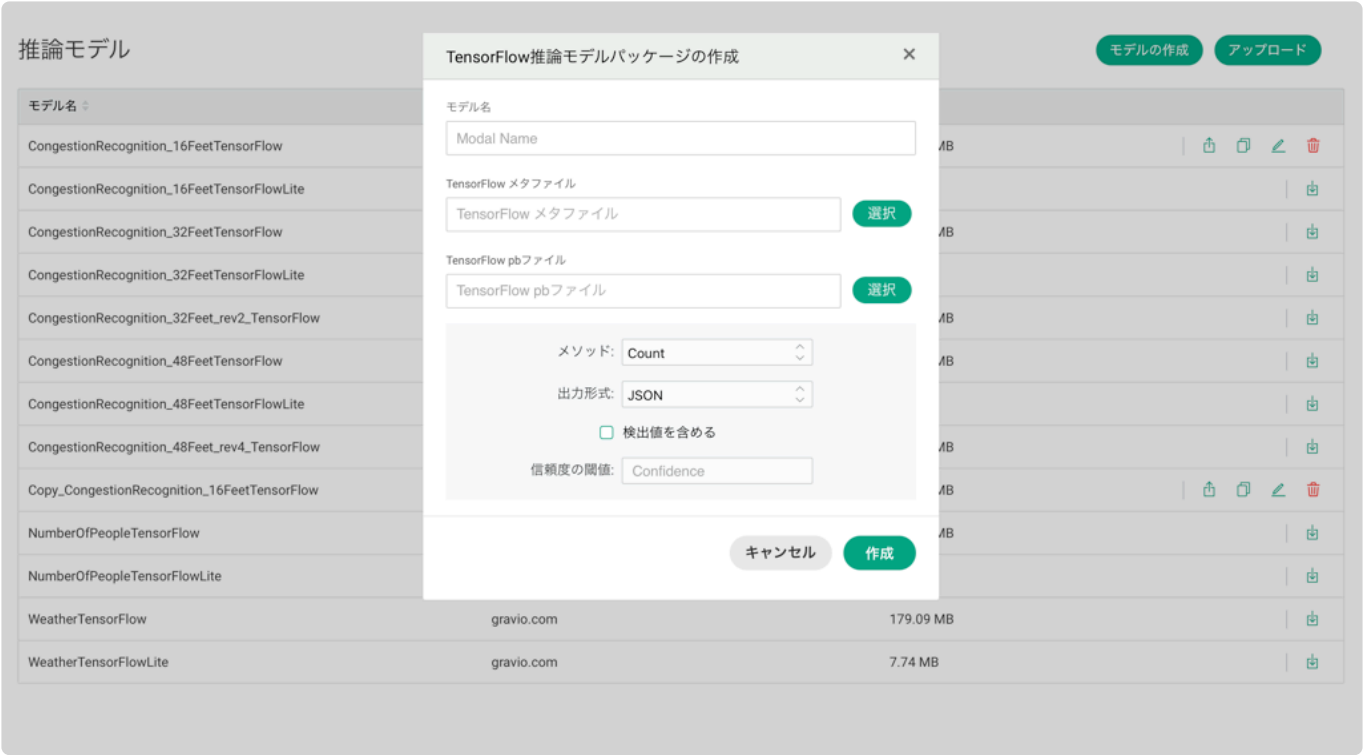
※重複したモデルファイル名は設定することはできません。

「保存」ボタンを押すとモデルファイルが複製されます。



モデルファイルの作成

TensorFlow モデルファイルを作成します。



準備するファイル

TensorFlow モデルファイルを作成するには以下のファイルを準備してください。

ファイル
TensorFlow メタファイル
TensorFlow pbファイル

登録する項目

項目名	説明
モデル名	英文字で設定
TensorFlow メタファイル	準備したファイルを選択
TensorFlow pbファイル	準備したファイルを選択
メソッド	数字を出力する場合はCountを、文字列を返す場合はGroupByを選択
出力形式	詳細情報を出力する場合はJSONを、値のみ出力する場合は数値を選択
検出値を含める	検出値を含める場合に選択
信頼度の閾値	0.0から1.0の範囲で設定

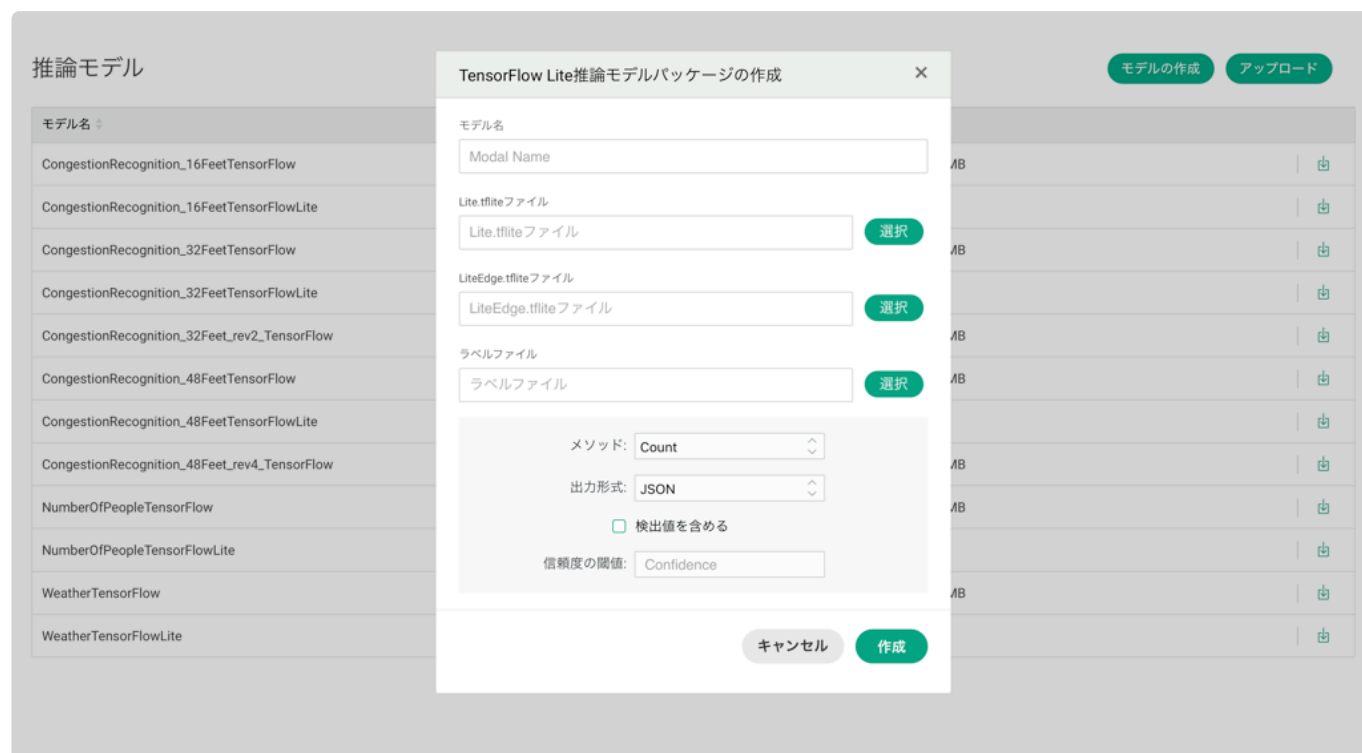
9.2. TensorFlow Liteモデルファイルの作成

TensorFlow 2.x系のモデルファイルをGravioで利用できるTensorFlow Liteモデルファイルとして作成します。

基本的な操作は [こちら](#) を参照してください。

モデルファイルの作成

TensorFlow Liteモデルファイルを作成します。



準備するファイル

TensorFlow Liteモデルファイルを作成するには以下のファイルを準備してください。

ファイル
Lite.tfliteファイル
LiteEdge.tfliteファイル
ラベルファイル

登録する項目

項目名	説明
モデル名	英文字で設定
Lite.tfliteファイル	準備したファイルを選択

LiteEdge.tfliteファイル	準備したファイルを選択
ラベルファイル	準備したファイルを選択
メソッド	数字を出力する場合はCountを、文字列を返す場合はGroupByを選択
出力形式	詳細情報を出力する場合はJSONを、値のみ出力する場合は数値を選択
検出値を含める	検出値を含める場合に選択
信頼度の閾値	0.0から1.0の範囲で設定

10. Coordinator/HubKitの保守

10.1. Coordinatorプロセスのログの確認

サービスの起動確認

カレントディレクトリが /home/ubuntu/coordinatorsetup2.1 であることを確認してdocker psで起動しているサービスを確認します。

```
$ sudo docker ps
```

サービスのログ確認

ログを確認したいサービスを指定してログを表示します。

```
$ sudo docker logs -f --tail=500 <サービス名>
```

※—tail=500は500行表示するというオプションです

ログの表示を停止する場合にはCtrl + Cを押してください。

Coordinatorのログを確認する場合

```
$ sudo docker logs -f --tail=500 coordinator-gravio-1
```

ログファイルの保存

ログファイルはdockerで管理されており、サービスごとに最大ファイルサイズは100MBで3ファイルまで保存されます。

そのファイル数を超えるとログファイルは古いファイルが削除されて自動的にローテーションされます。

10.2. Coordinator / HubKitソフトウェアの更新

以下の画面からCoordinatorもしくはHubKitのバージョンを選択して「インストール」ボタンを押してアップデートしてください。

 Gravio Hub Update Manager

メンテナンスGravio Hub設定

Gravio 

メンテナンス

ソフトウェアアップデート

Gravioコーディネーターソフトウェアのアップデート

コーディネーターの新バージョンが公開されている場合は、バージョンを選択して「更新」ボタンをクリックしてください。

Gravioコーディネーターバージョン: 2.4 

インストール

再起動

Gravio HubKitソフトウェアのアップデート

Gravio HubKitの新バージョンが公開されている場合は、バージョンを選択して「更新」ボタンをクリックしてください。

Gravio HubKitバージョン: 4.1.0 

インストール

再起動

Zigbeeソフトウェアのアップデート

バージョン: 0.9.3.1 

インストール

10.3. Gravio Hubが運用時に利用するポート一覧

Gravio Hubから外部へのポート

Gravio Hub OS

DNS : UDP 53, TCP 53

NTP : UDP 123

Docker : HTTPS 443

HubKit

アクションで実行するコンポーネントが使用するポート(メールの場合SMTPポート、Slackの場合HTTPSポートなど)

外部からGravio Hubへのポート

Coordinator

Coordinator UI : 443

Update Manager : 8080

HubKit

HubKitのサーバーモジュールは以下のポートを利用しています。

プロセス名	プロトコル	ポート
Gravio Control Manager	HTTPS	29442

HubKitとGravio Studioを別のPCにインストールする場合は、これらのポート番号うち、「Gravio Control Manager -HTTPS:29442」をファイアウォールでポートを開ける必要があります。

- Gravio Hub以外のPCなどでの運用ではHubKit、Coordinatorの項目を参照してください。

11. Gravio Enterprise AI Edition

ここでは、Gravio Enterprise AI Edition Gold / Platinumで利用するGorilla社提供のGorilla IVARとGorilla BAPの設置と利用法について説明します。

11.1. Gorilla IVAR, BAPモジュールの取得

Gorilla IVAR, BAPインストーラ及びドキュメントの入手

Gorilla IVAR, BAPインストーラ及びドキュメントは [ここ](#) をクリックしログインして入手します。
ログイン後「ダウンロード」タブを選択すると、

製品	
Gravio	
Gravio Coordinator Setup	Download
Gorilla BAP	Download
Gorilla IVAR	Download

のようにそれぞれのダウンロードボタンが表示されます。
IVAR, BAPともzipファイル形式のファイルがダウンロードできます。
それぞれのzipファイルにインストーラ及びドキュメントが含まれています。

インストールは[BAP](#)、[IVAR](#) の順にインストールしてください。

なお、Gorilla IVAR/BAPの使い方の詳細は、ダウンロードしたファイルの中のマニュアル(PDF)を参照してください

11.2. Gorilla BAPの設置

事前に準備するもの

- ・BAPのアカウント Root, Administrator, Application ユーザのパスワード
- ・BAPのライセンスキー

BAPをアップデートする場合には [こちら](#) を参照してください。

インストールする環境

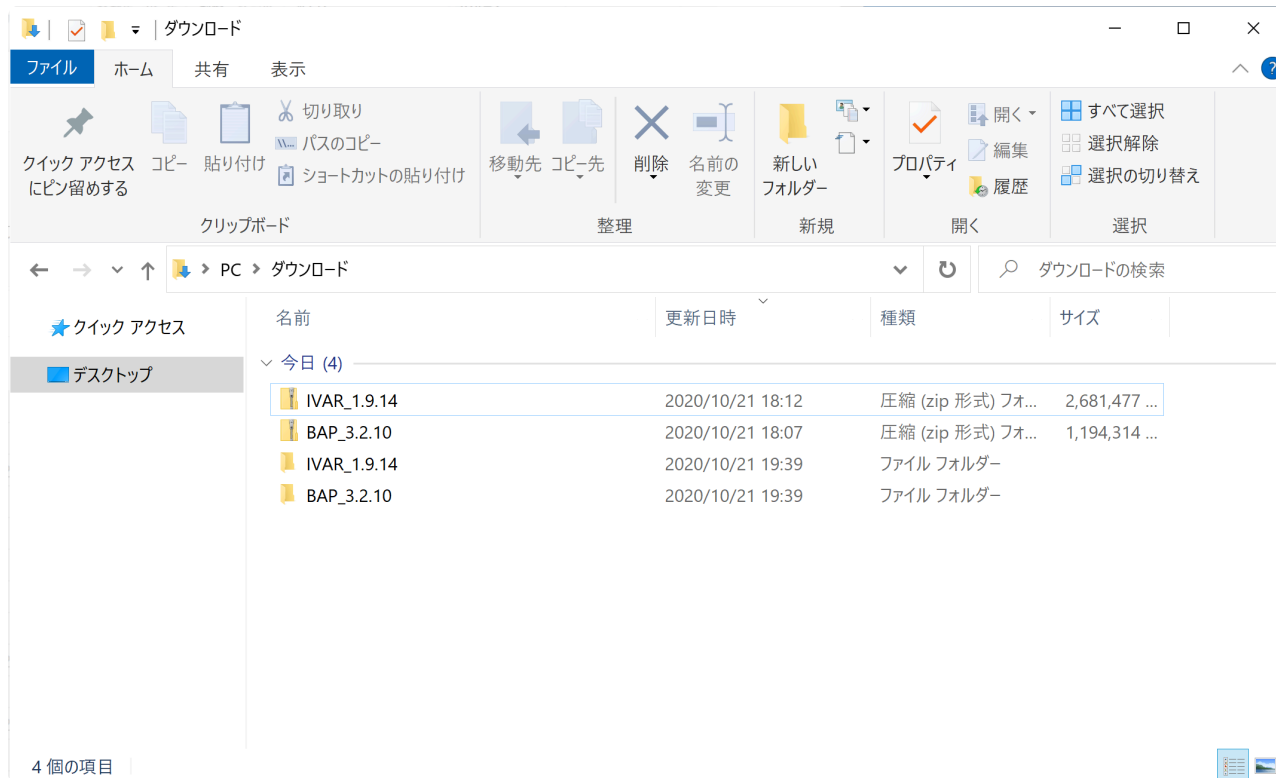
BAPをインストールするWindows10 PCとChromeブラウザを用意してください。
またライセンス登録をしますのでインターネットに接続されている必要があります。

インストールする前のご注意

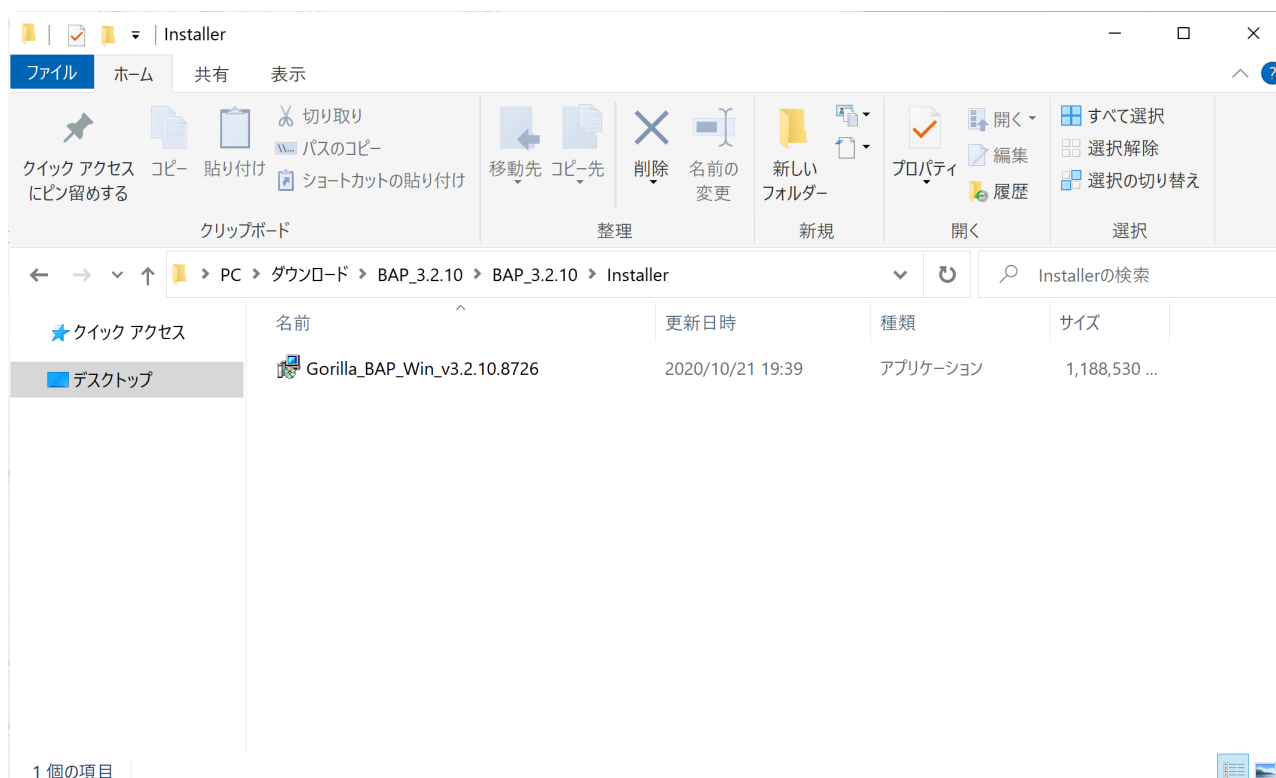
BAPはPostgreSQLを使用します。すでにPostgreSQLがインストールされているとバージョン違いなどの競合により正しくインストールできないことがあるため、PostgreSQLはアンインストールをお願いします。またデータフォルダも削除してください。

また、Windows10はWindows Updateを使用して最新バージョンへのアップデートをお願いします。

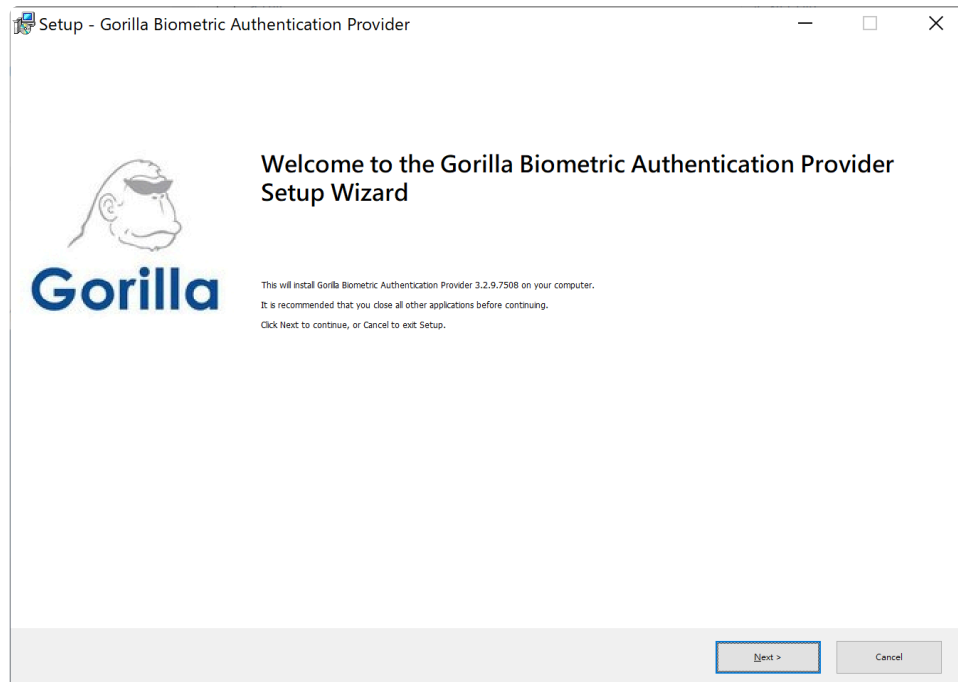
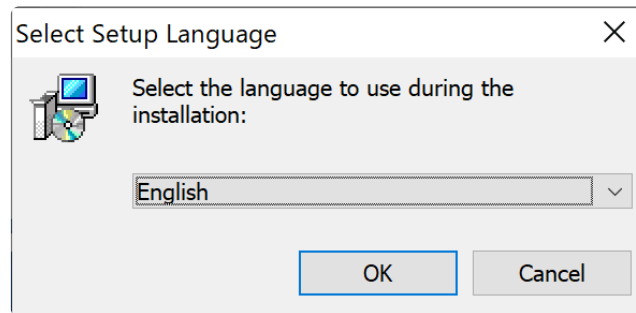
インストール手順



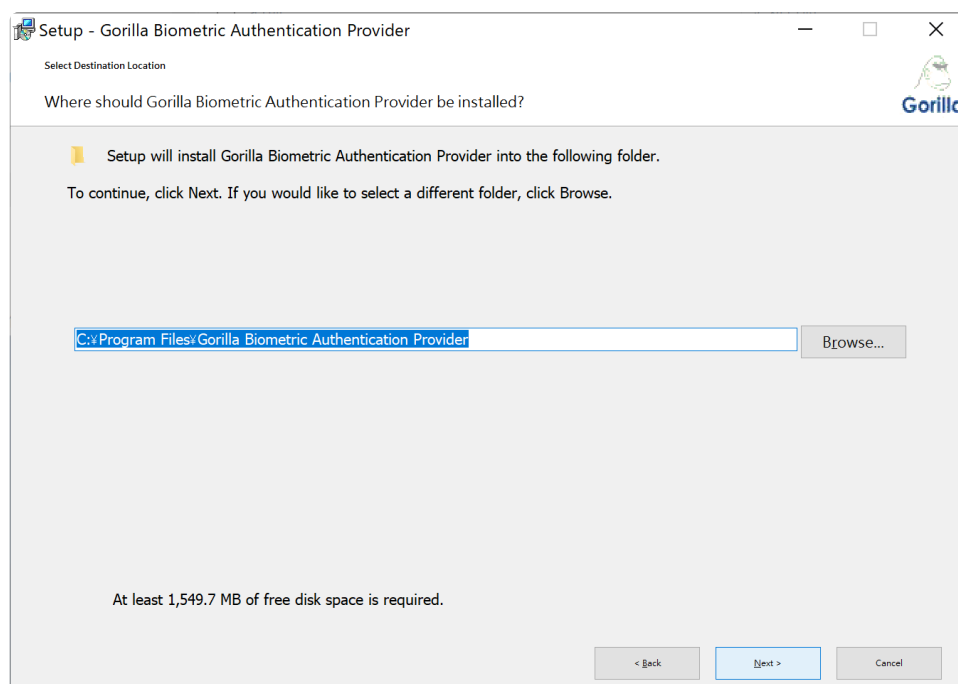
ダウンロードしたzipを展開してください。
展開するとBAPフォルダが出来ますので中を開いてください。



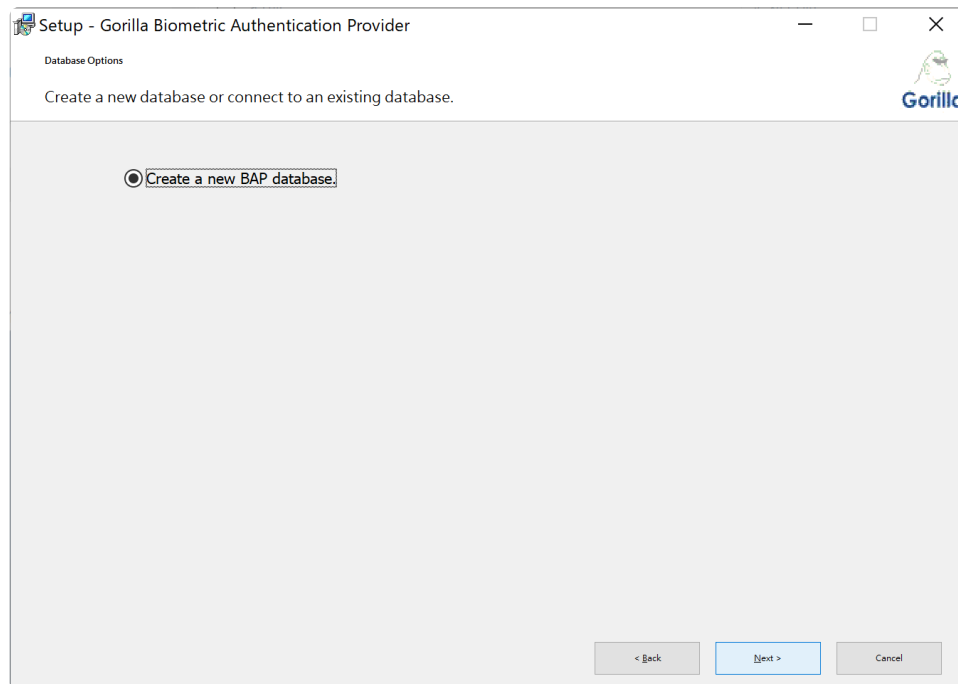
Gorilla_BAP_Win_<バージョン番号>.Setup アプリケーションがありますので、これを実行してください。



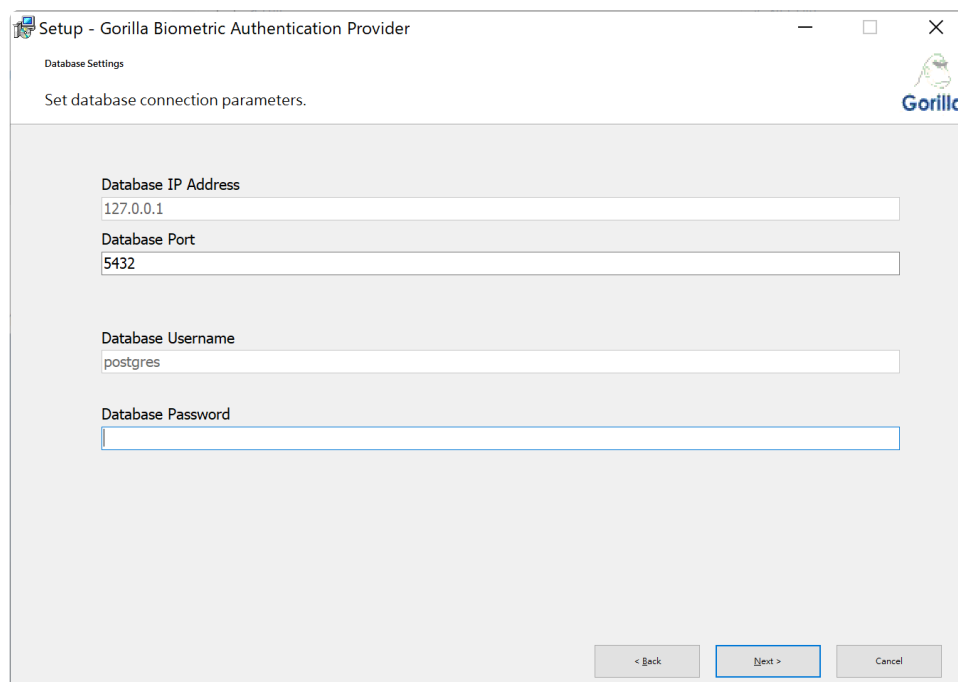
Next ボタンを押してインストールを進めてください。



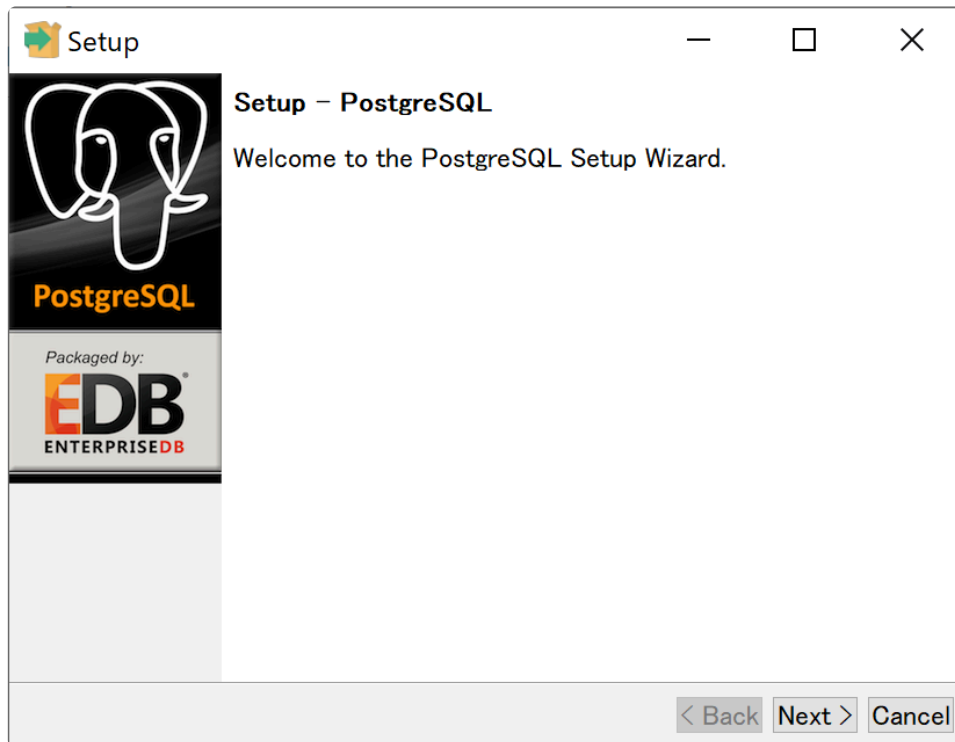
標準のフォルダにインストールするためそのまま Next ボタンを押してください。



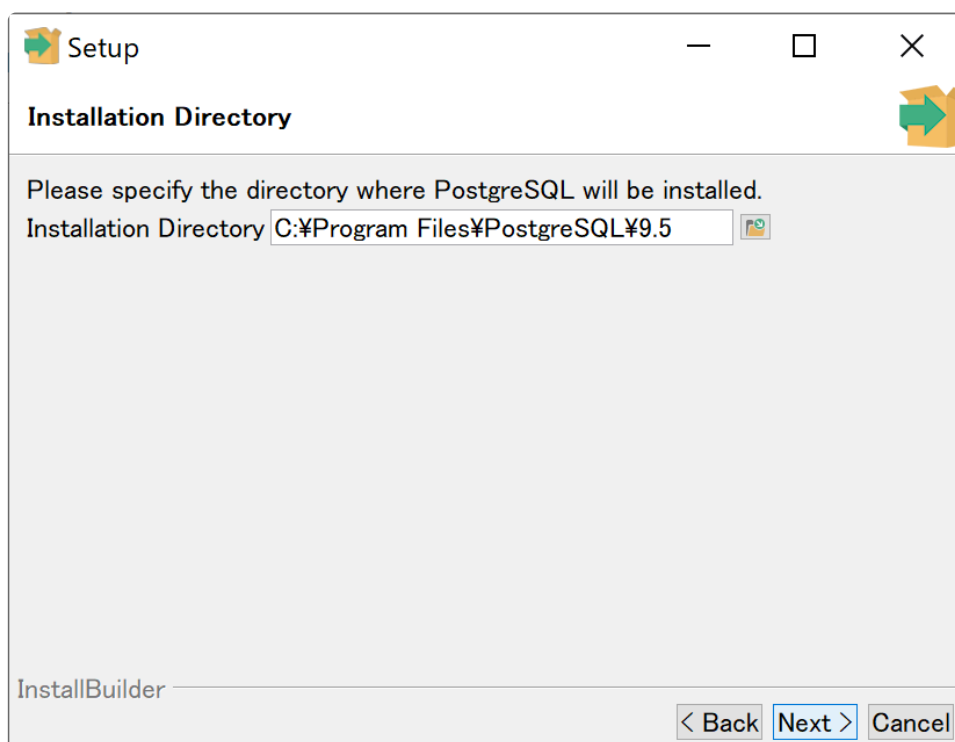
Next ボタンを押してください。



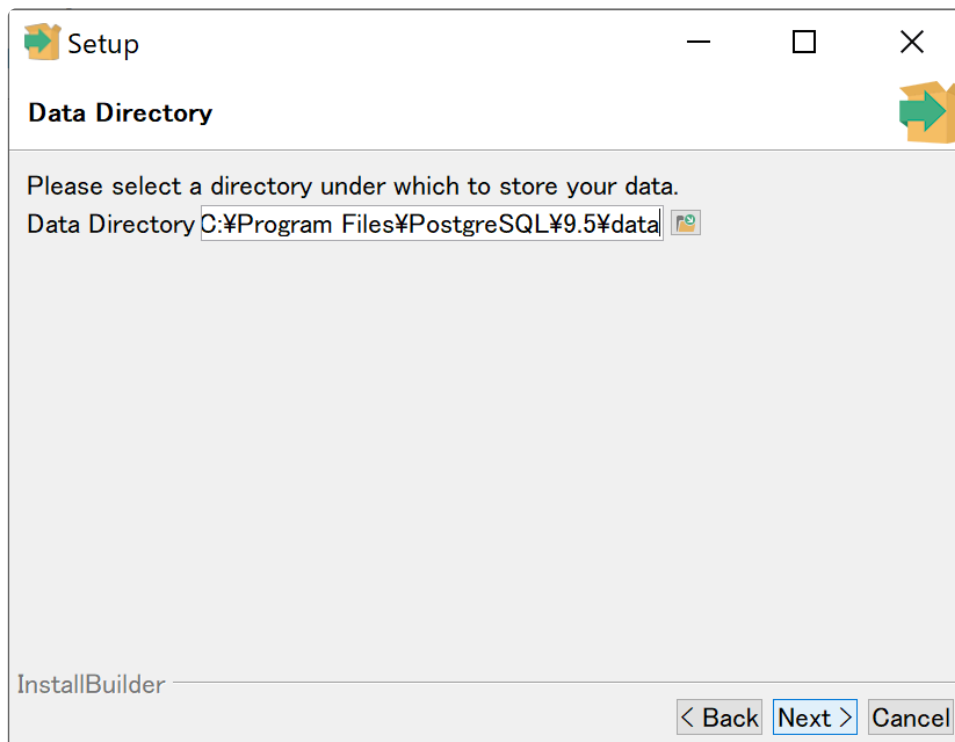
Database Passwordには後で設定するPostgreSQLのパスワードを設定してください。
Next ボタンを押すとPostgreSQLのインストーラが起動します。



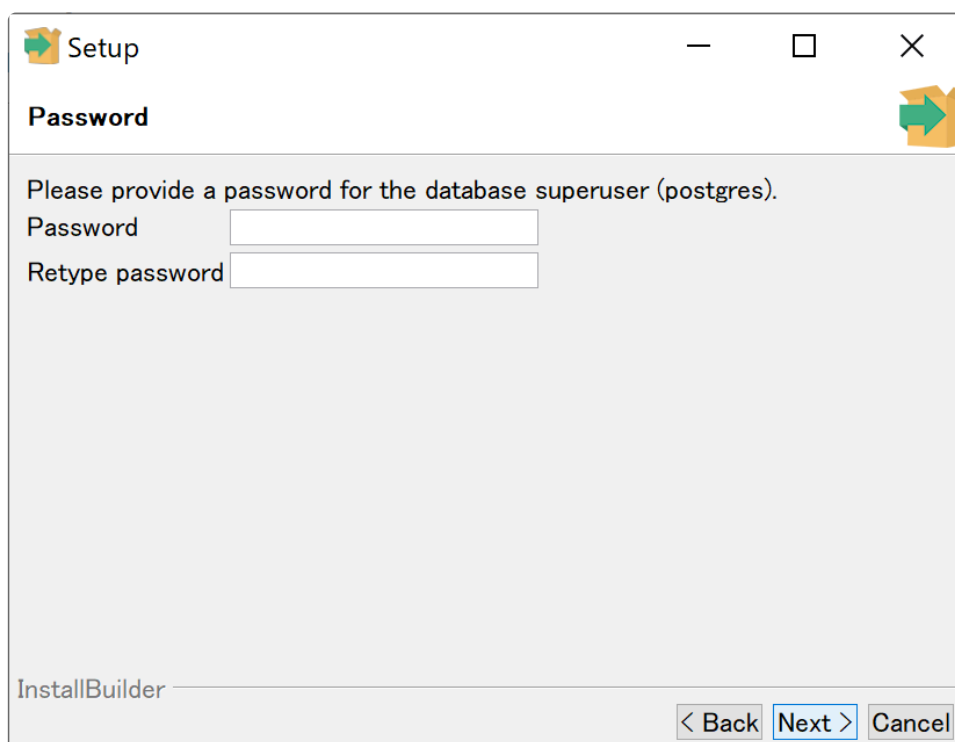
Next ボタンを押してください。



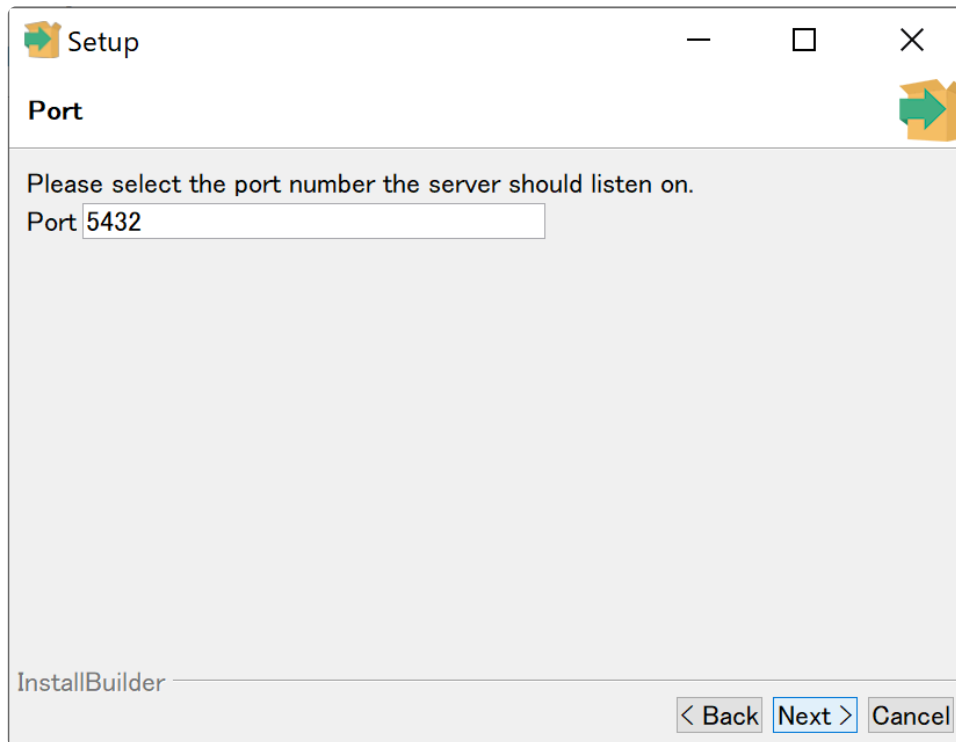
標準のフォルダにインストールするためそのまま Next ボタンを押してください。



標準のフォルダにインストールするためそのまま Next ボタンを押してください。



先ほど登録したPostgreSQLのパスワードを登録して Next ボタンを押してください。



The image shows a 'Setup' window with a title bar containing a green arrow icon, the text 'Setup', and standard window controls (minimize, maximize, close). The window has a 'Port' section header and a green arrow icon. Below the header, it says 'Please select the port number the server should listen on.' and 'Port 5432' is entered in a text box. At the bottom left is the text 'InstallBuilder'. At the bottom right are three buttons: '< Back', 'Next >', and 'Cancel'.

Setup

Port

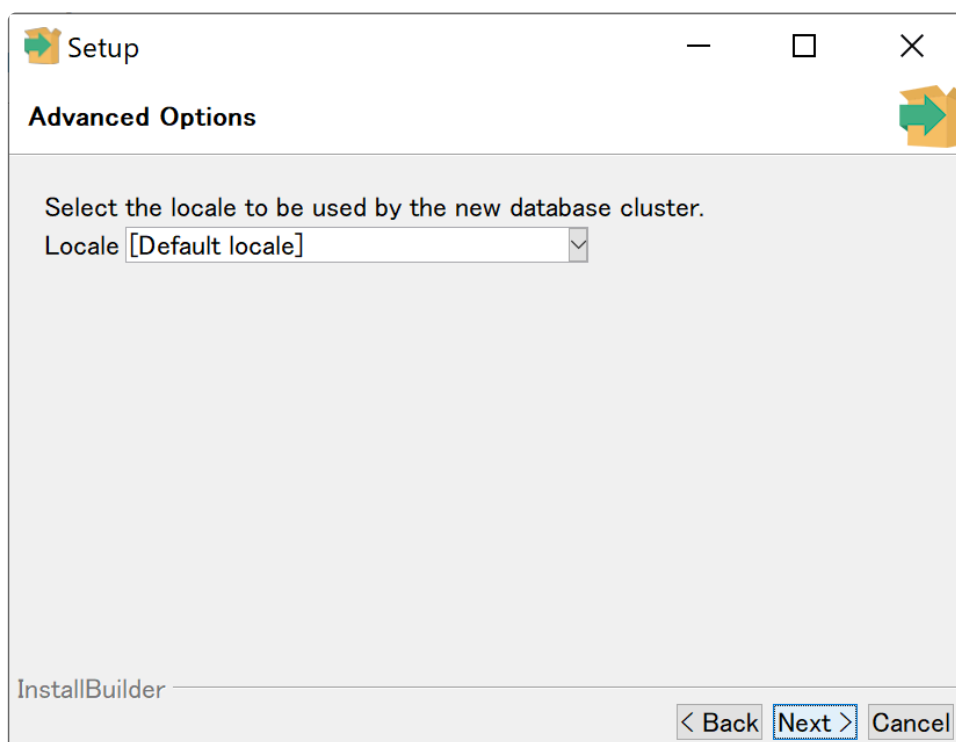
Please select the port number the server should listen on.

Port 5432

InstallBuilder

< Back Next > Cancel

標準のポートを使用するためそのまま Next ボタンを押してください。



The image shows a 'Setup' window with a title bar containing a green arrow icon, the text 'Setup', and standard window controls (minimize, maximize, close). The window has an 'Advanced Options' section header and a green arrow icon. Below the header, it says 'Select the locale to be used by the new database cluster.' and 'Locale [Default locale]' is shown in a dropdown menu. At the bottom left is the text 'InstallBuilder'. At the bottom right are three buttons: '< Back', 'Next >', and 'Cancel'.

Setup

Advanced Options

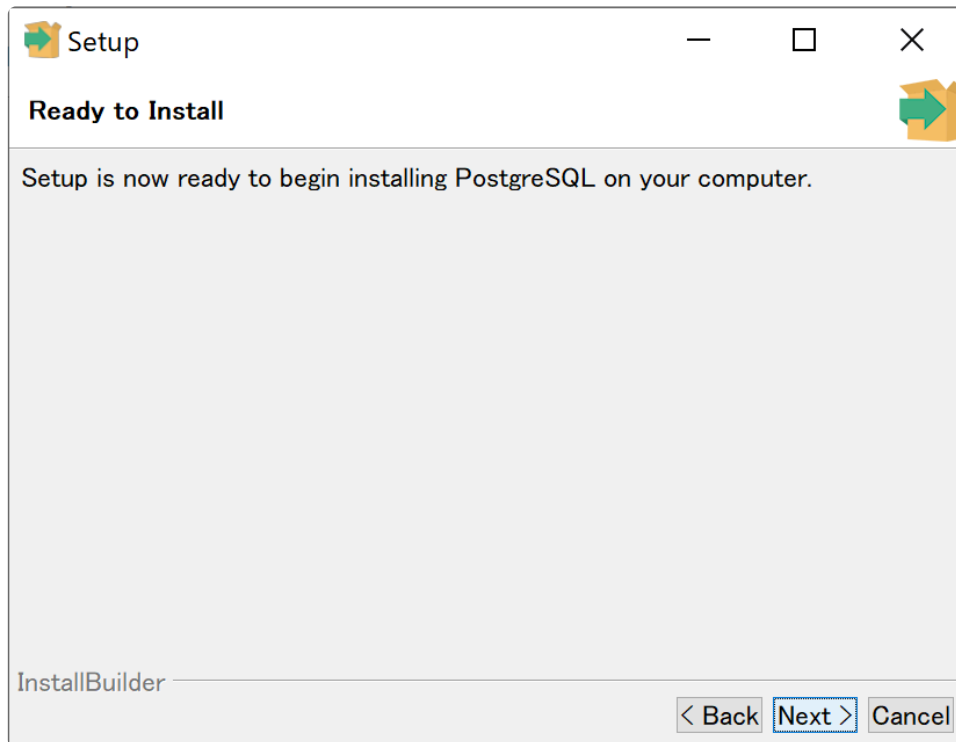
Select the locale to be used by the new database cluster.

Locale [Default locale]

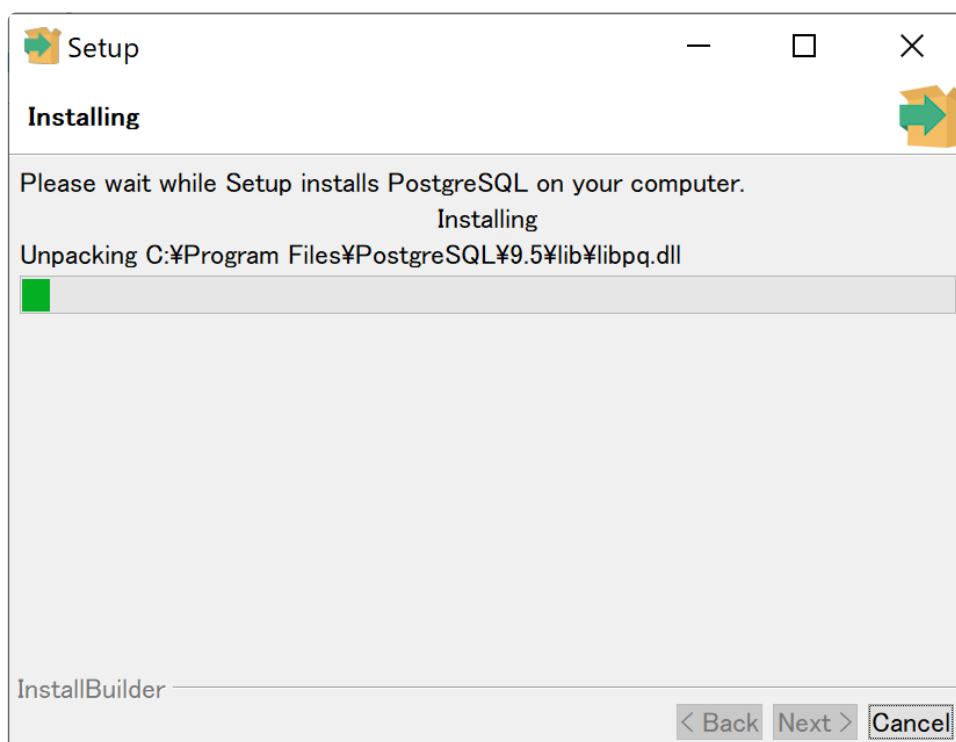
InstallBuilder

< Back Next > Cancel

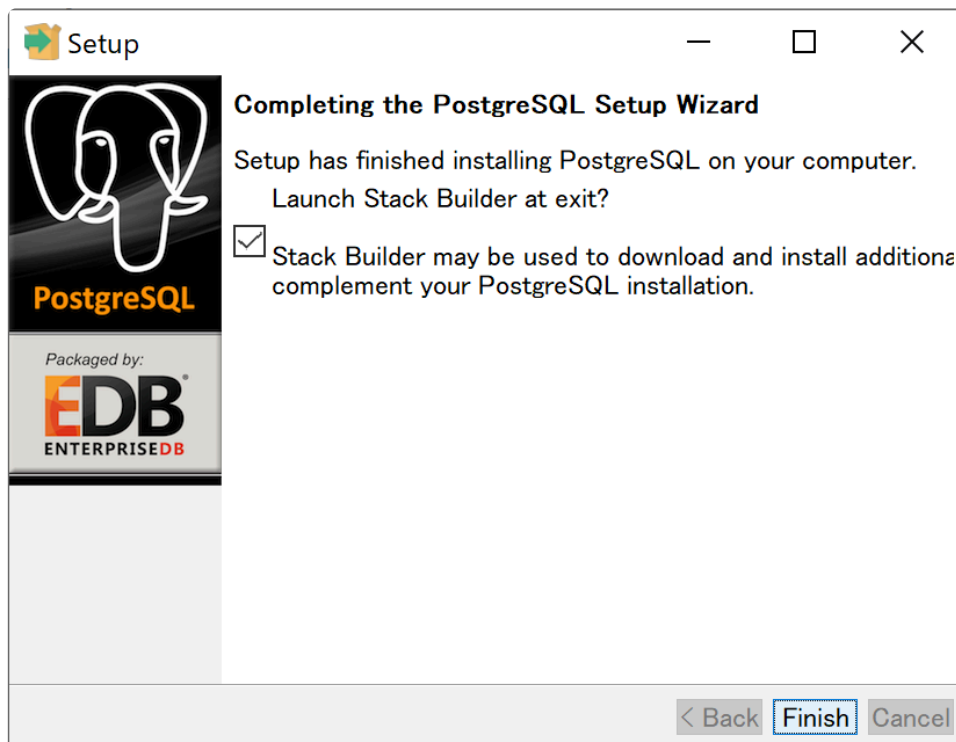
変更せずに Next ボタンを押してください。



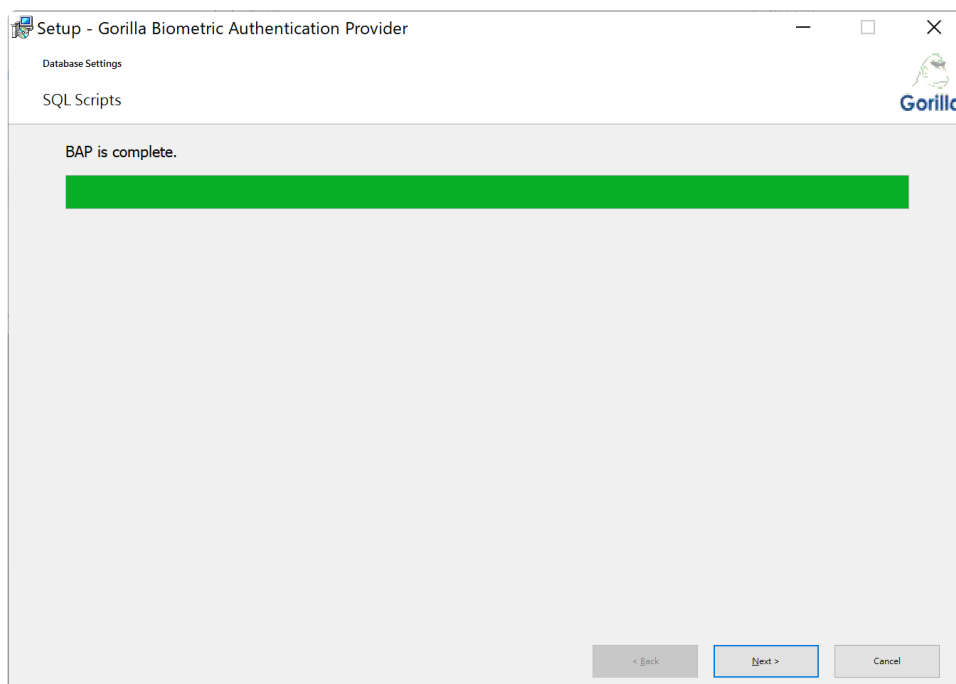
Next ボタンを押してください。



ファイルのコピーが開始します。

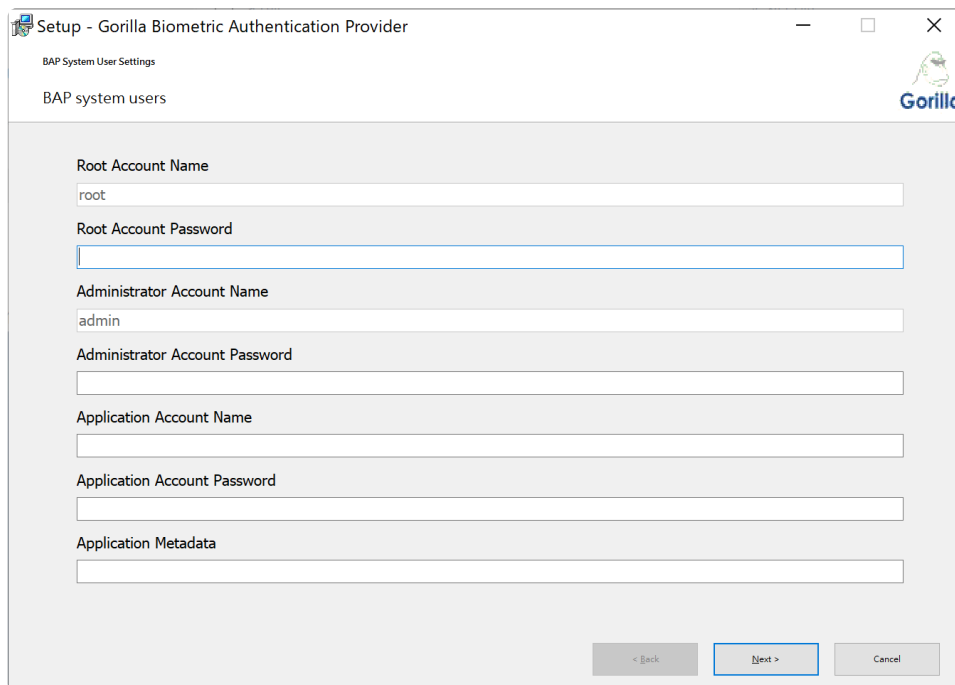


インストールが終了したら Stack Builder may be... のチェックを外して Finish ボタンを押してください。



BAPのインストールが終わりましたら続いて初期設定を行いますので Next ボタンを押してください。

初期設定



Setup - Gorilla Biometric Authentication Provider

BAP System User Settings

BAP system users

Root Account Name

root

Root Account Password

Administrator Account Name

admin

Administrator Account Password

Application Account Name

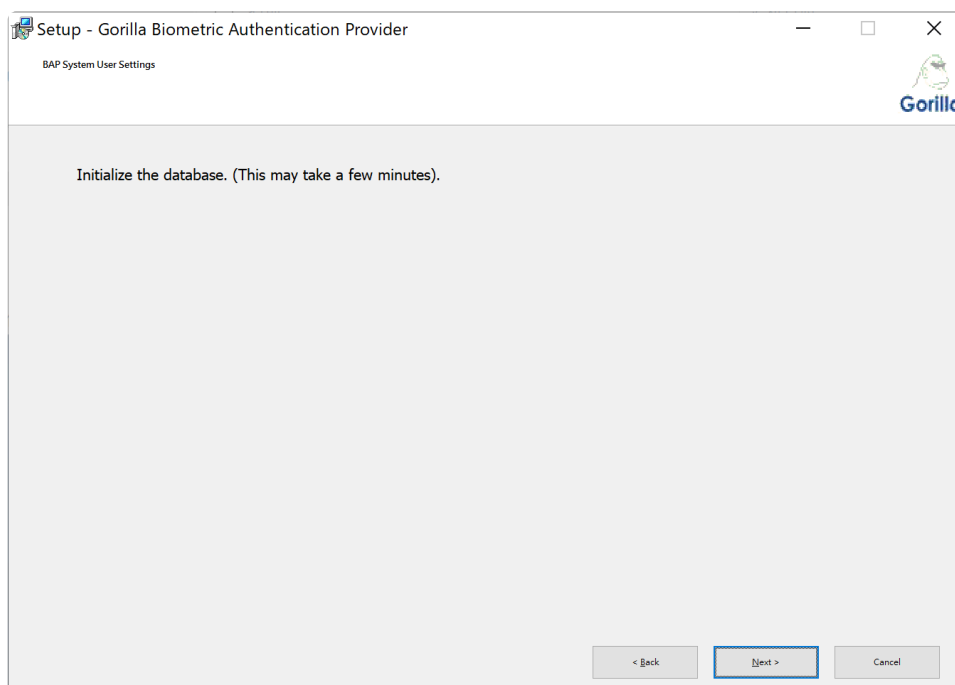
Application Account Password

Application Metadata

< Back Next > Cancel

BAPには Root, Administrator, Applicationの3つのユーザを作成します。
運用で使用するのは Admin アカウントとなります。

Root Account Password, Administrator Account Password, Application Account Name, Application Account Passwordにそれぞれ登録して Next ボタンを押してください。



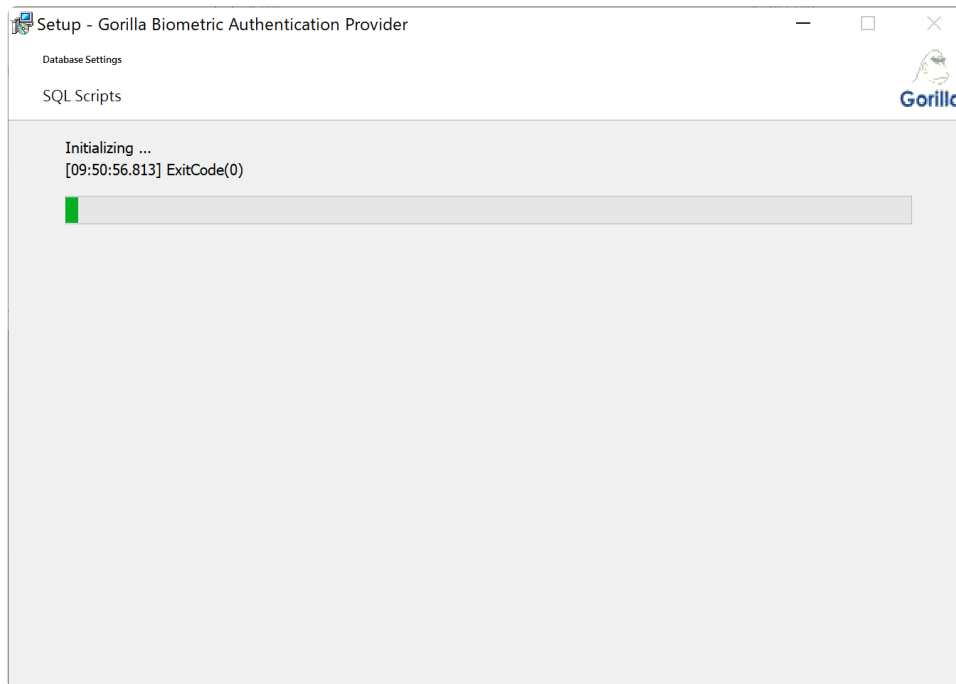
Setup - Gorilla Biometric Authentication Provider

BAP System User Settings

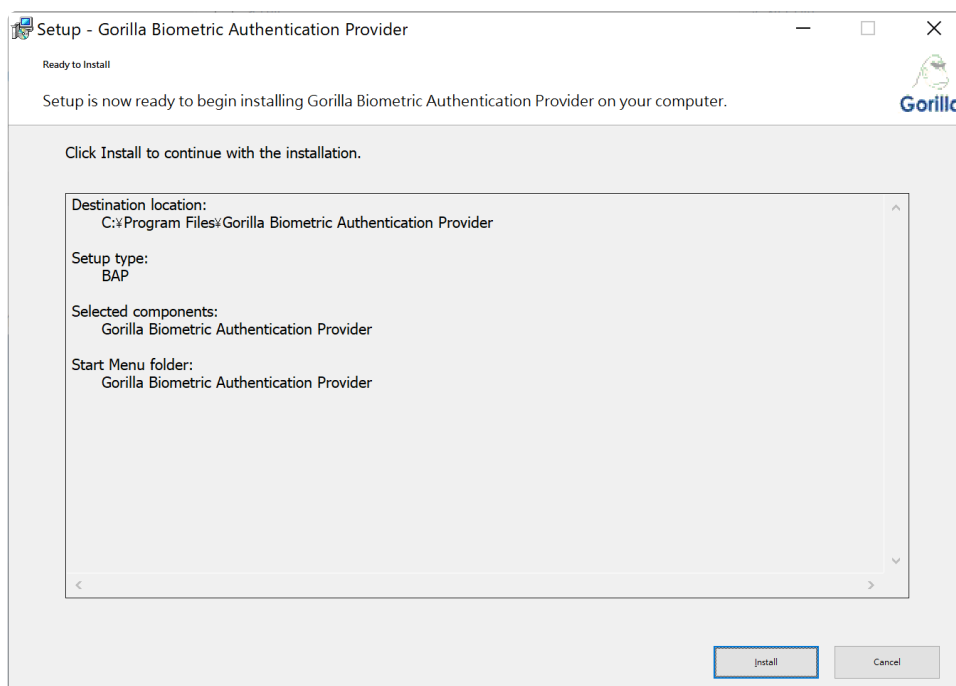
Initialize the database. (This may take a few minutes).

< Back Next > Cancel

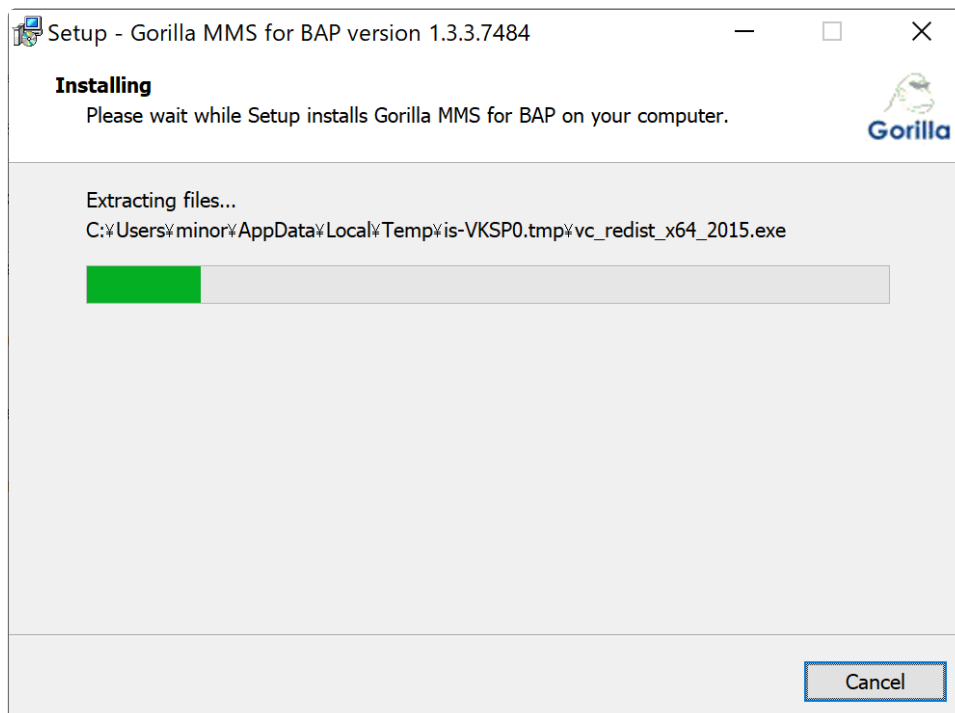
Next ボタンを押してください。



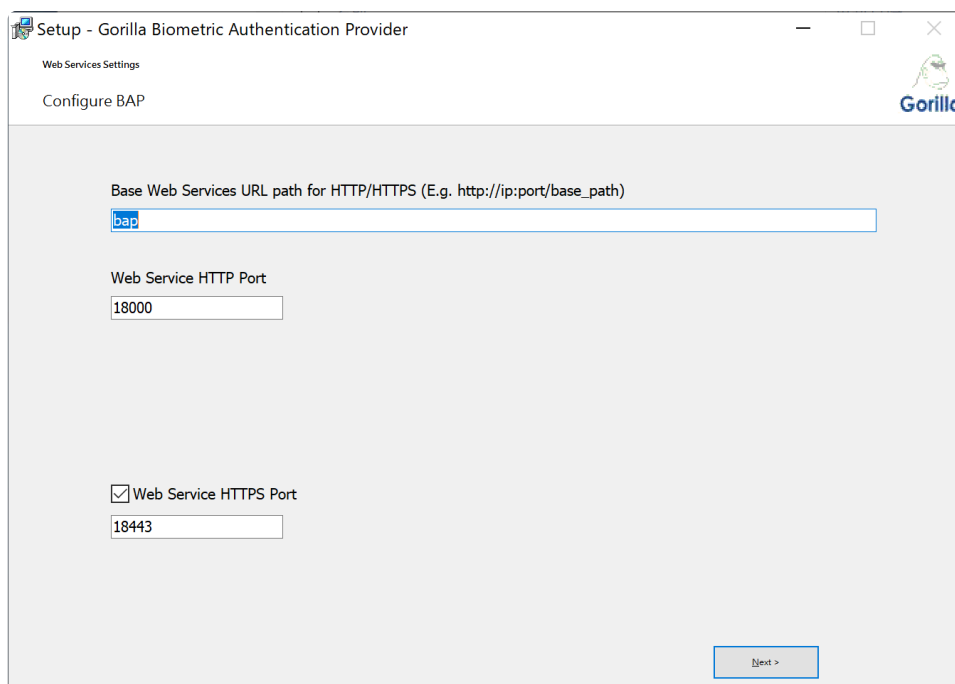
ファイルのコピーが開始します。



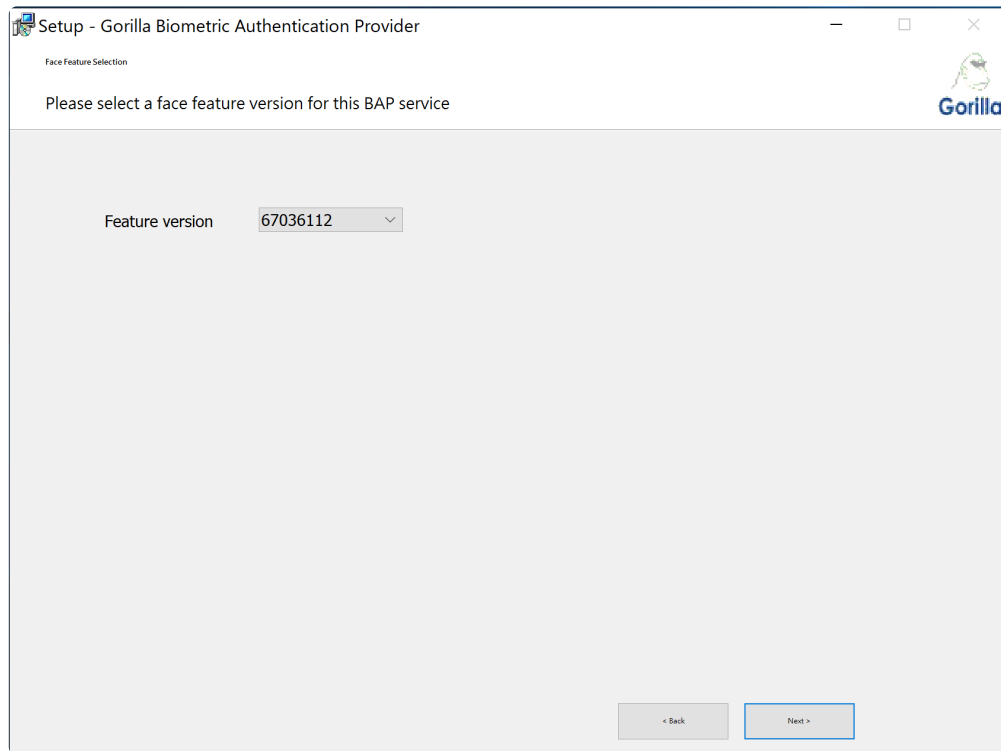
Install ボタンを押してください。MMSのインストールが開始します。



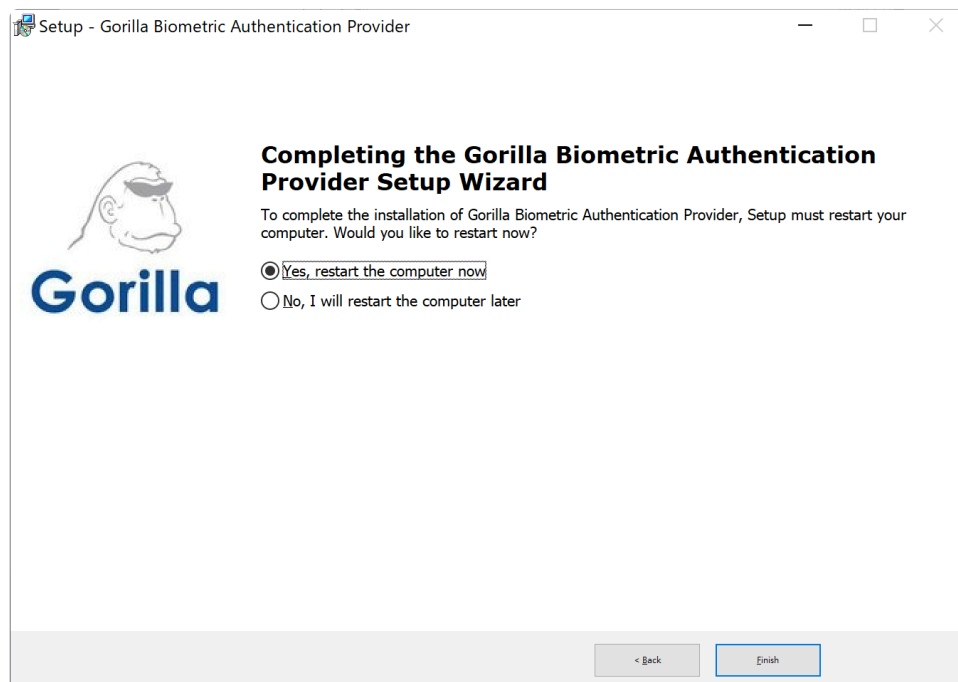
ファイルのコピーが開始します。



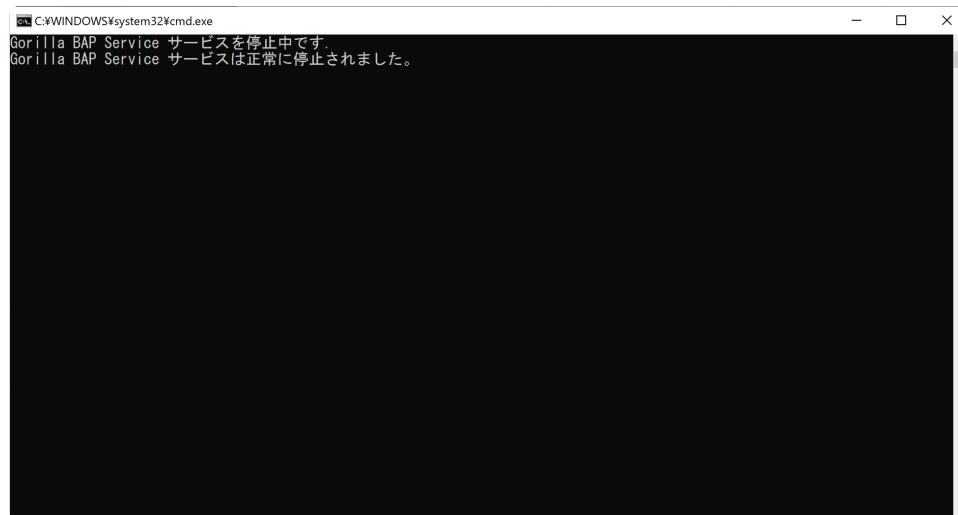
標準の設定のためそのまま Next ボタンを押してください。



Feature versionはIVAR 1.10を使用する場合には 70038900 を選択します。IAVR1.9以下を使用する場合にはデフォルトの 67036112 を選択してください。



インストールが終わりましたらPCを再起動しますので そのまま Finish ボタンを押してください。



インストールしているファイルが表示され、不定期にプロンプトが表示されますのでインストール中は画面操作をせずにお待ちください。

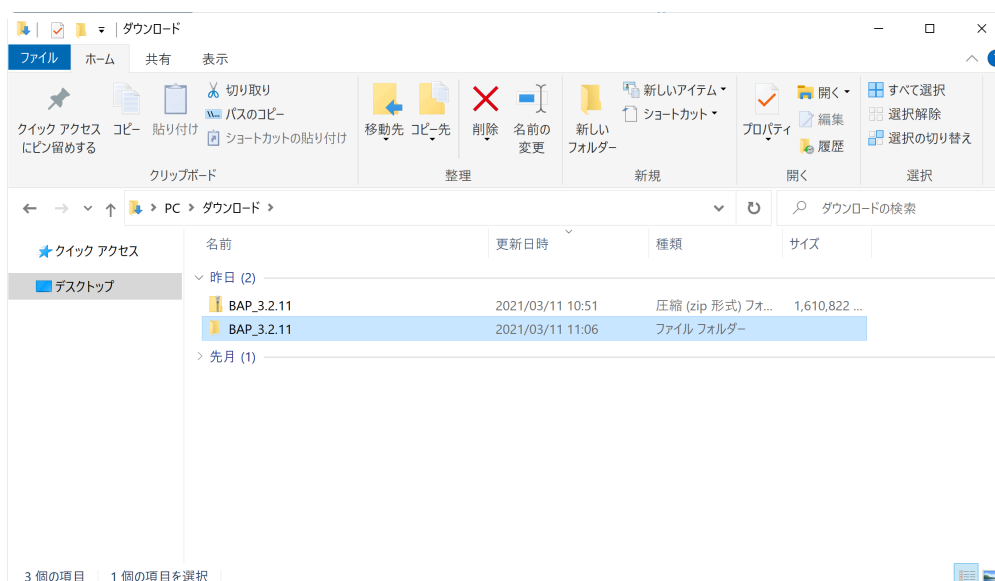
11.2.1. Gorilla BAPのアップデート

事前に準備するもの

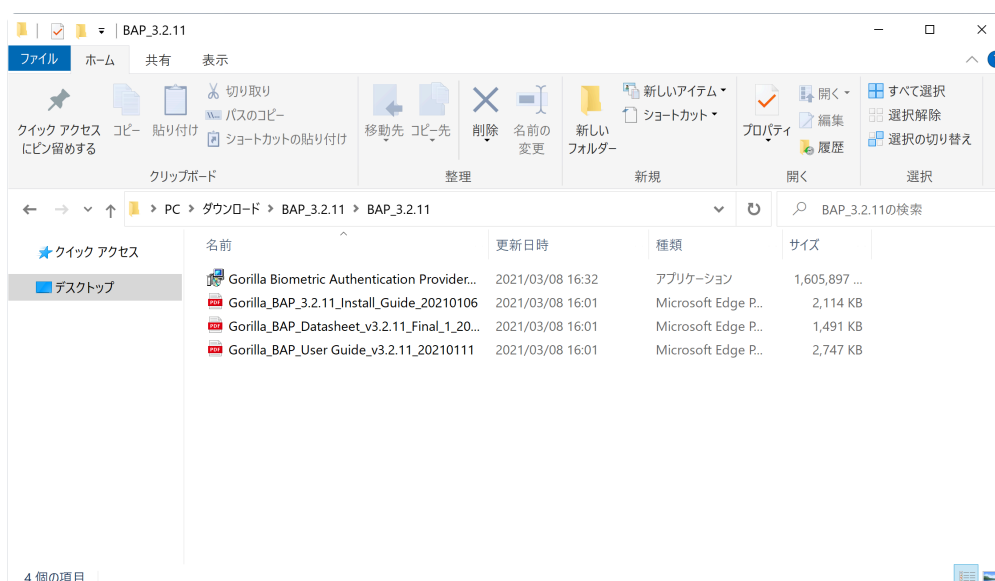
・PostgreSQLのパスワード

BAPを新規インストールする場合には [こちら](#) を参照してください。

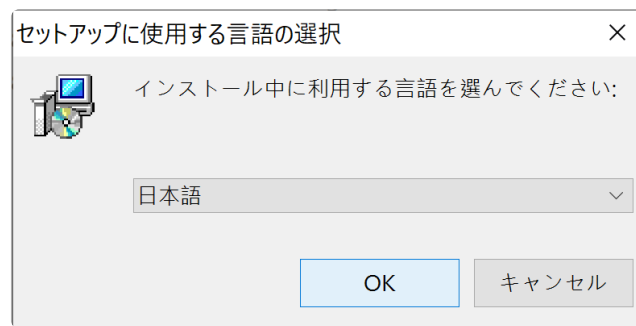
アップデート手順



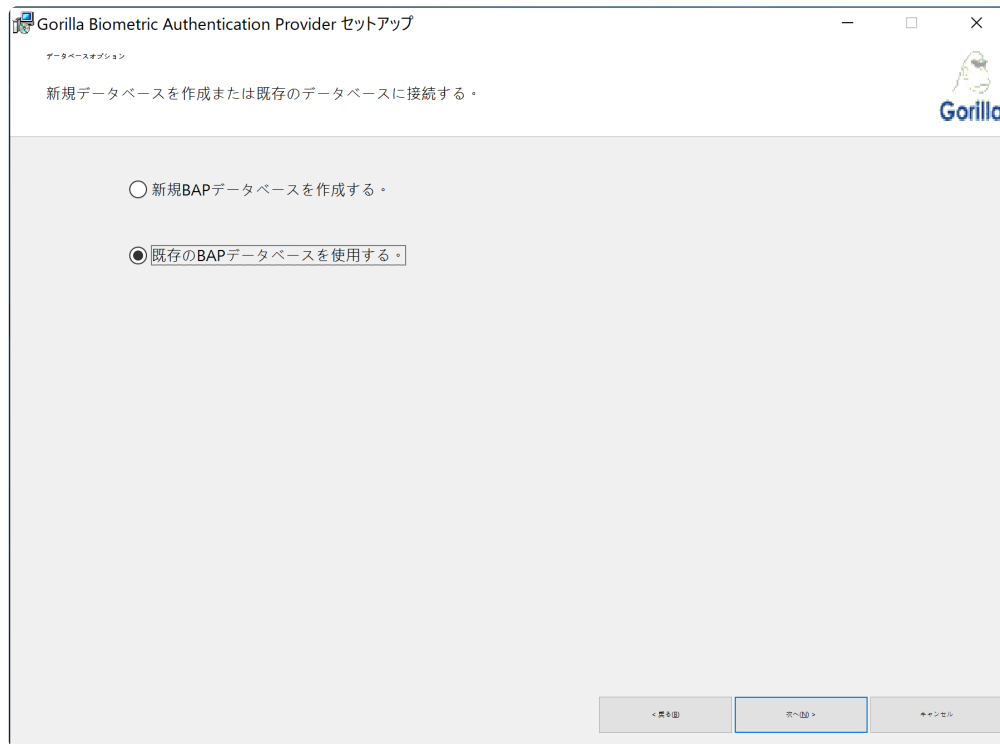
ダウンロードしたzipを展開してください。
展開するとBAPフォルダが出来ますので中を開いてください。



Gorilla Biometric Authentication Provider アプリケーションがありますので、これを実行してください。
詳細はInstall GuideやUser GuideのPDFを参照してください。



次へ ボタンを押してインストールを進めてください。



Gorilla Biometric Authentication Provider セットアップ

データベースオプション

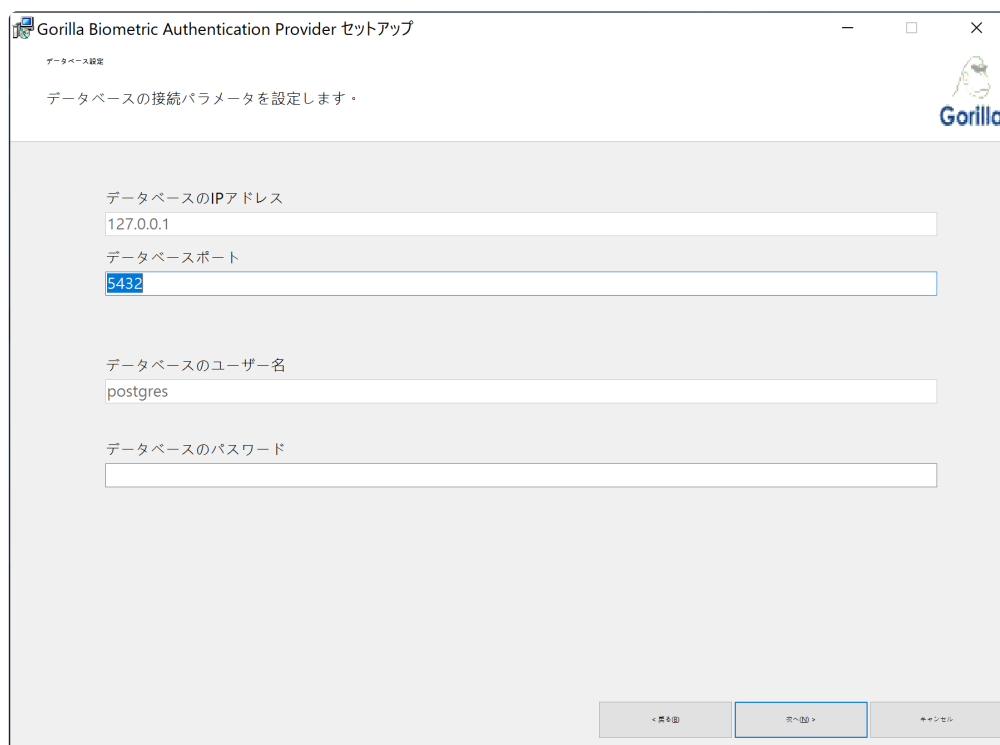
新規データベースを作成または既存のデータベースに接続する。

☐ 新規BAPデータベースを作成する。

☒ 既存のBAPデータベースを使用する。

戻る < 次へ > キャンセル

アップデートインストールするため、既存のデータベースを使用するが選択されたまま 次へ ボタンを押してください。



Gorilla Biometric Authentication Provider セットアップ

データベース設定

データベースの接続パラメータを設定します。

データベースのIPアドレス
127.0.0.1

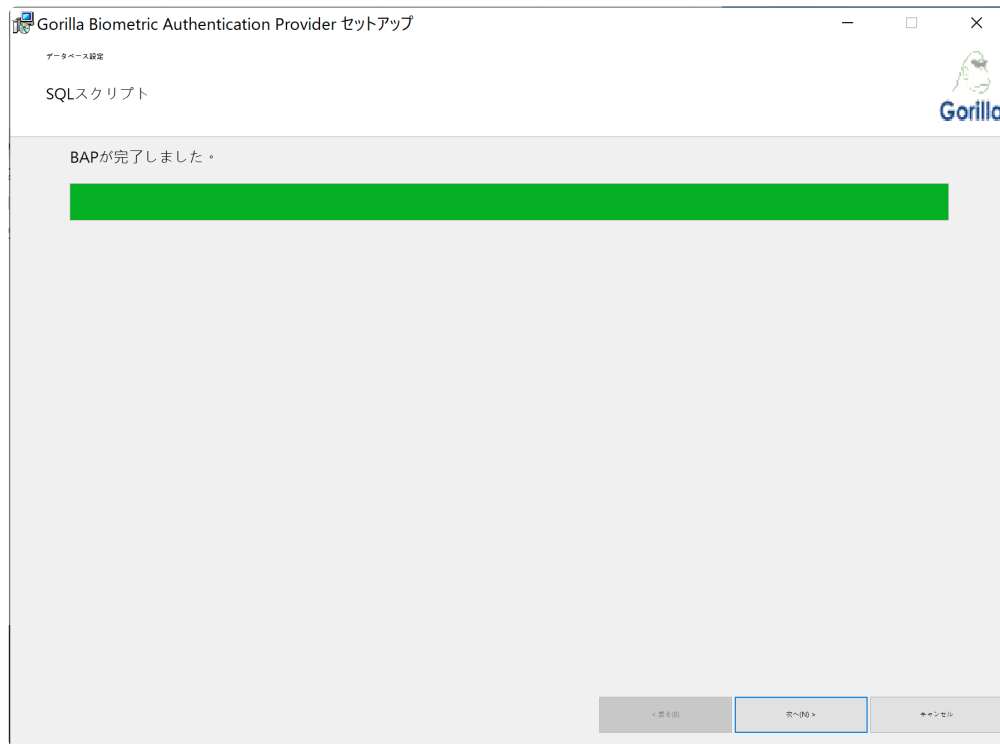
データベースポート
5432

データベースのユーザー名
postgres

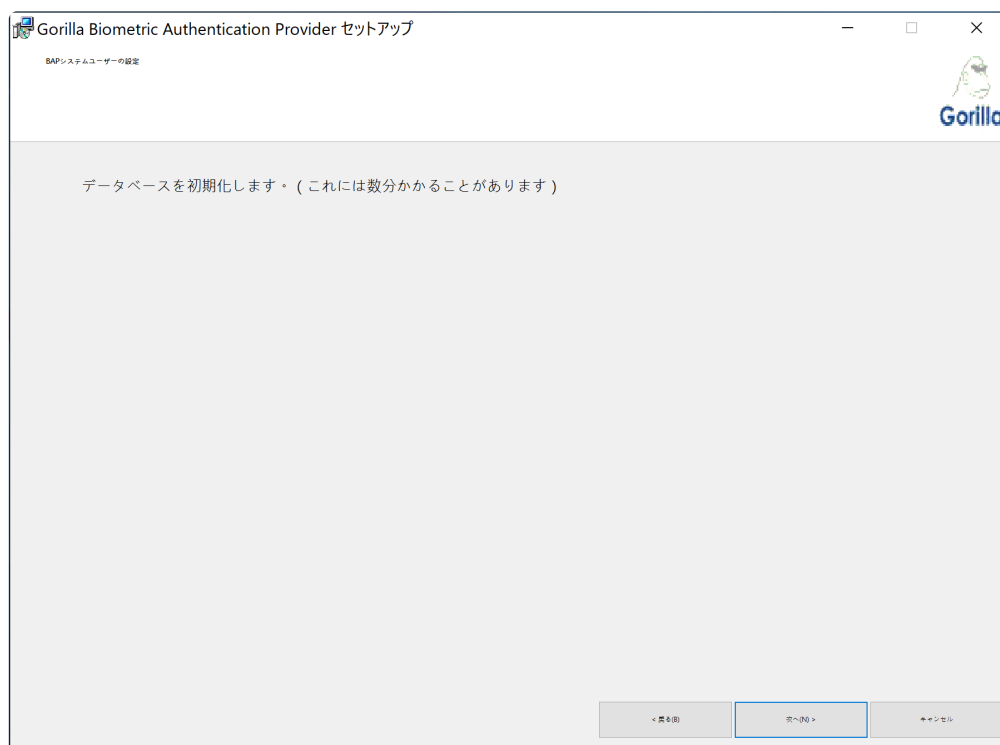
データベースのパスワード

戻る < 次へ > キャンセル

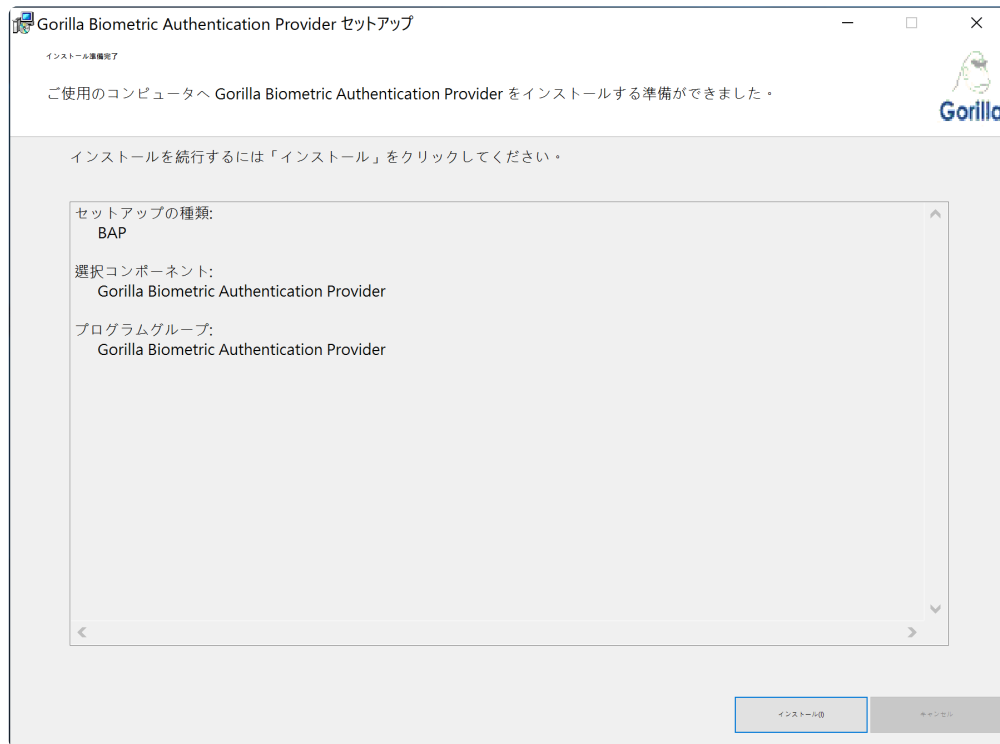
PostgreSQLのデータベースのパスワードを入力して次へ ボタンを押してください。



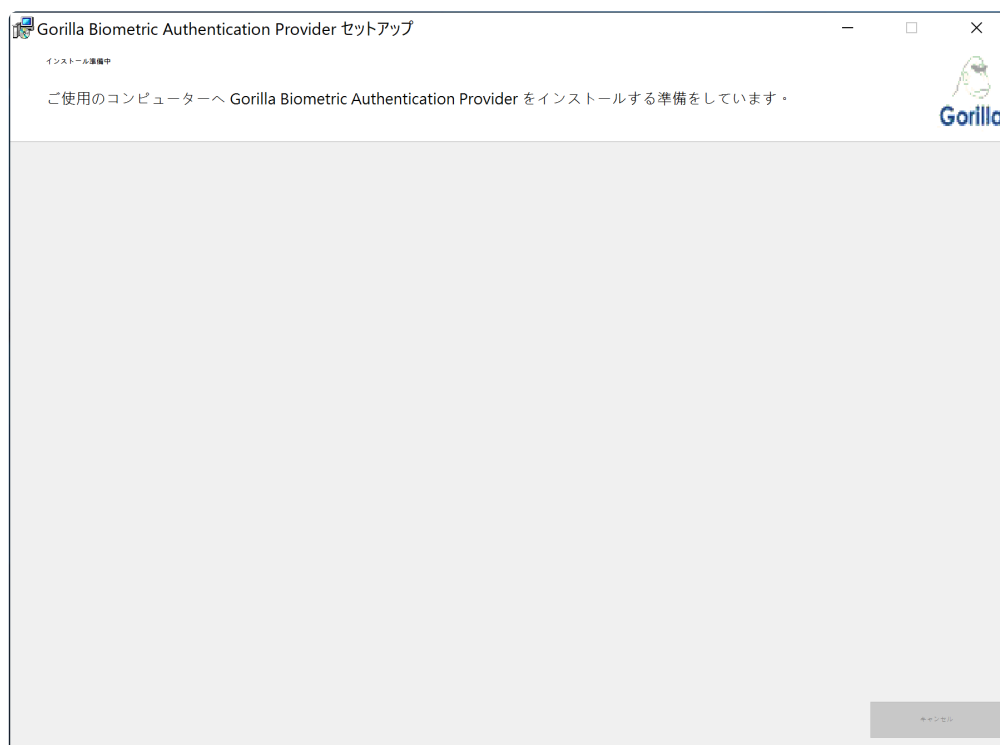
BAPへの接続が完了するまで待ってから次へ ボタンを押してください。



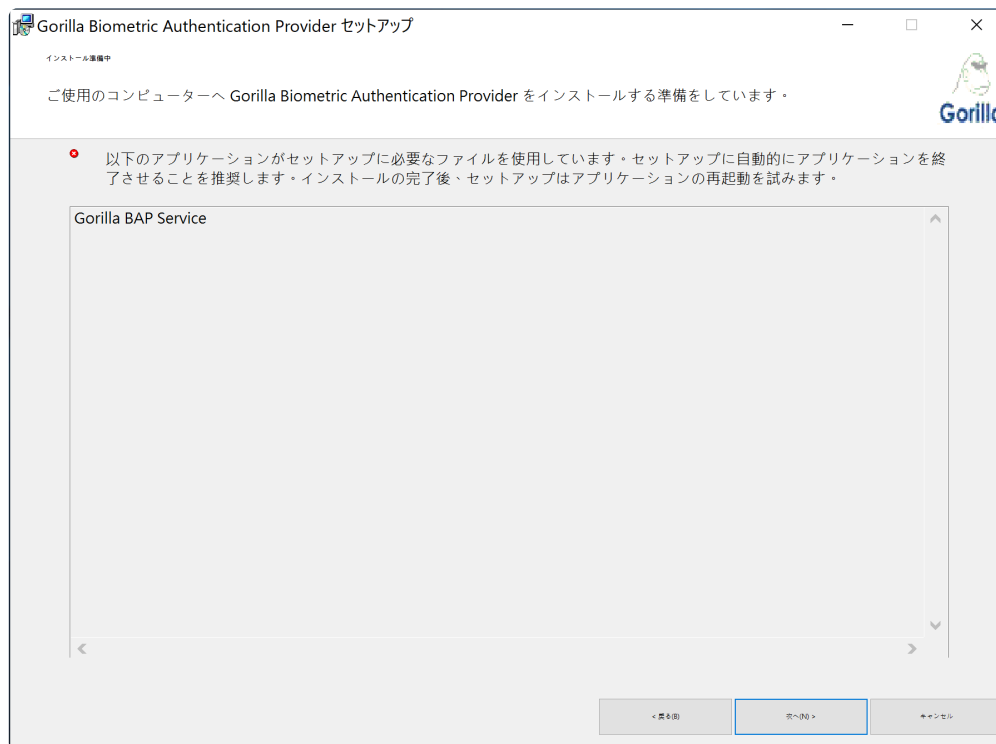
続いてデータベースを初期化しますので次へ ボタンを押してください。



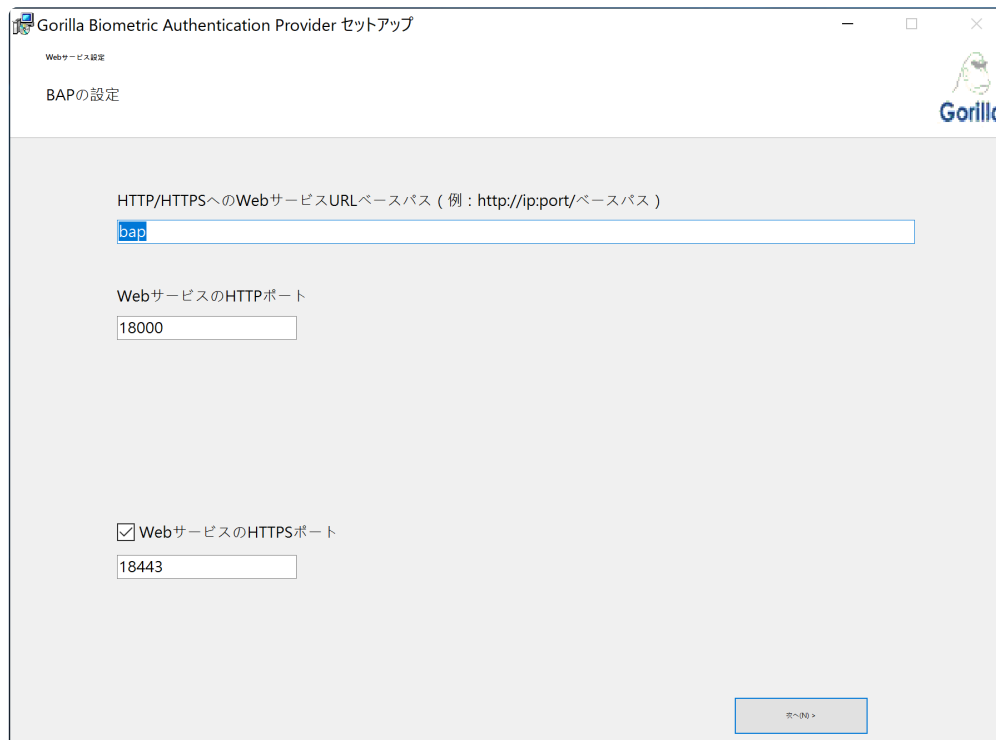
インストールの準備が完了しましたので インストール ボタンを押してください。



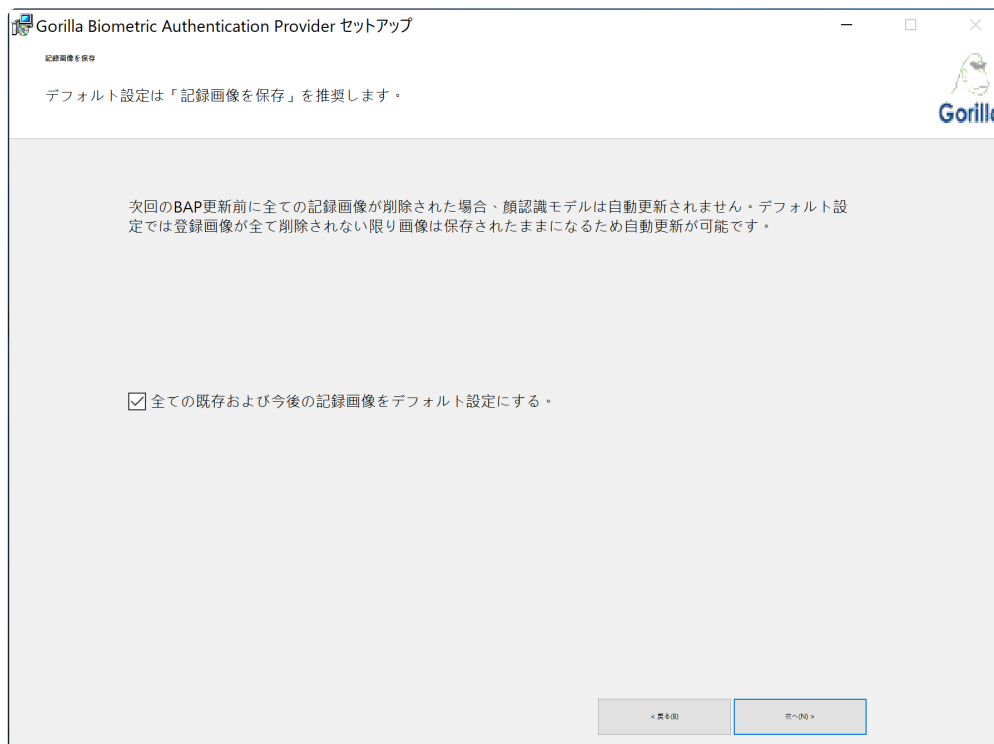
インストールの準備が進みますのでそのまま待ちます。



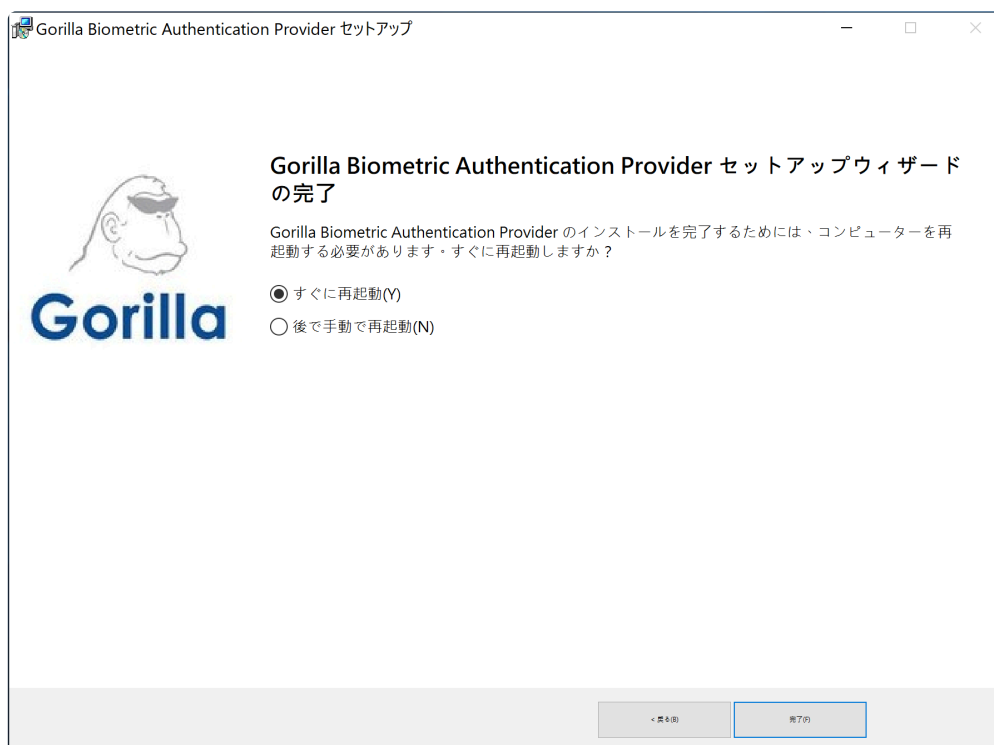
アップデートインストールのため、既存のBAPサービスが起動しているため警告が表示されますがそのまま 次へ ボタンを押してください。



BAPの設定は変更せずにそのまま 次へ ボタンを押してください。



そのまま 次へ ボタンを押してください。



Gorilla Biometric Authentication Provider のアップデートが完了しましたのでPCを再起動する必要があります。すぐに再起動を選択して 完了 ボタンを押してください。

11.2.2. Gorilla BAPのライセンス登録

ライセンスの登録

BAPのインストールが終わるとChromeを使用して下記のアドレスを開いてください。

注) BAPをインストールしたPCでChromeを操作することを想定しています。

異なるPCで操作する場合には“localhost”を環境に合わせて変更してください。

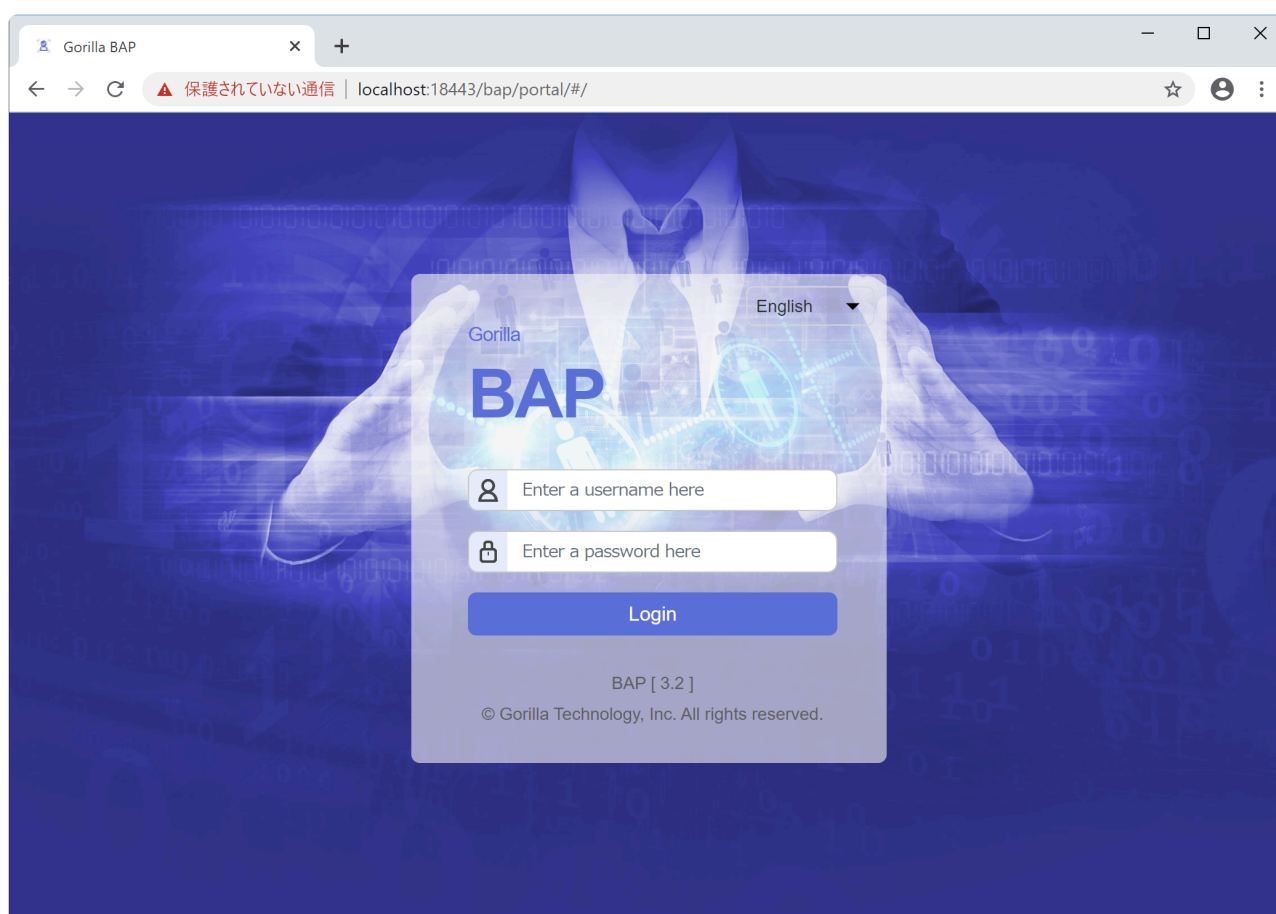
アドレス : <https://localhost:18443/bap/portal>



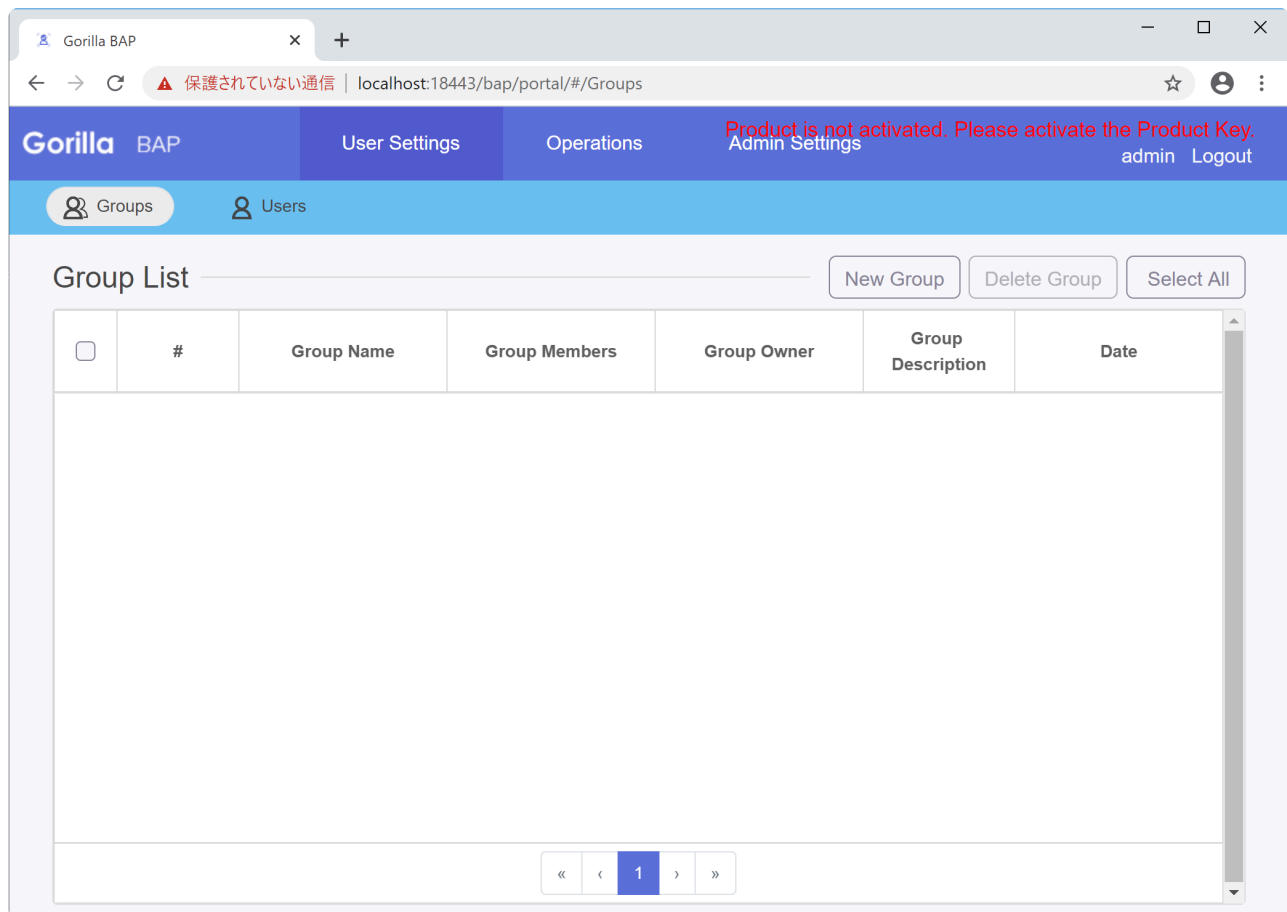
この接続ではプライバシーが保護されません

注) httpsでセルフサインの証明書を使用しているため最初に警告が表示されます。

この警告が表示された場合には 詳細設定 ボタンを押してlocalhostにアクセスする(安全ではありません) リンクをクリックして開いてください。



BAPのAdministratorの admin とパスワードを登録して Login ボタンを押してください。



ログインするとUser Setting 画面が表示されます。

The screenshot shows a web browser window with the URL `localhost:18443/bap/portal/#/SystemInformation`. The page has a blue header with the Gorilla BAP logo and navigation tabs: User Settings, Operations, Admin Settings (selected), and a red warning banner that says "Product is not activated. Please activate the Product Key." Below the header is a blue bar with "Accounts" and "System Information" (selected). The main content area is divided into three sections: BAP Information, System Information, and License. BAP Information contains a table with version and feature details. System Information contains a table with hardware and OS details. The License section contains a table for license details and an "Activate" button.

BAP Information	
BAP Version	3.2.9.7508
FDRCmdLib Version	6.9.2001.1209
FID Feature Version(s)	[60032084]
FDR-Core Version	6.9.2.38041
Software Edition	N/A
Web Portal Version	3.2.8.6800

System Information	
Operating System	Windows 10 Pro
Processor	Intel(R) Core(TM) i7-6650U CPU @ 2.20GHz
Graphics Processor	Intel(R) Iris(R) Graphics 540
Memory	15.9 GB
Time Zone	(UTC+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo

License	
Product Key	<input type="text"/>
Expiry Date	
Installation Path	
Identity limitation	
User identity limitation	
Proxy Support	

[Activate](#)

Admin Setting メニューから System Information を開いてください。
続いて取得したBAPのライセンスキーを登録して Activate ボタンを押すと認証が行われます。
認証を行うにはPCがインターネットに接続されている必要があります。

注) ライセンスの登録解除をせずにBAPをアンインストールするとライセンスは登録状態のままとなり、再インストールや別のPCでこのライセンスは使用できなくなります。

ライセンスの登録解除をせずにBAPをアンインストールしてライセンスが使用できなくなった場合には、サポートまでお問い合わせください。

11.2.3. Gorilla BAPのライセンスの登録解除

ライセンスの登録解除

BAPの運用を他のPCに移動させる場合には、必ずインストールしているライセンスを登録解除してください。

Admin Setting -> System Information -> License にある Deactivate ボタンを押して解除されたことを確認してください。

注) ライセンスの登録解除をせずにBAPをアンインストールするとライセンスは登録状態のままとなり、別のPCでこのライセンスは使用できなくなります。

登録解除を行うにはPCがインターネットに接続されている必要があります。

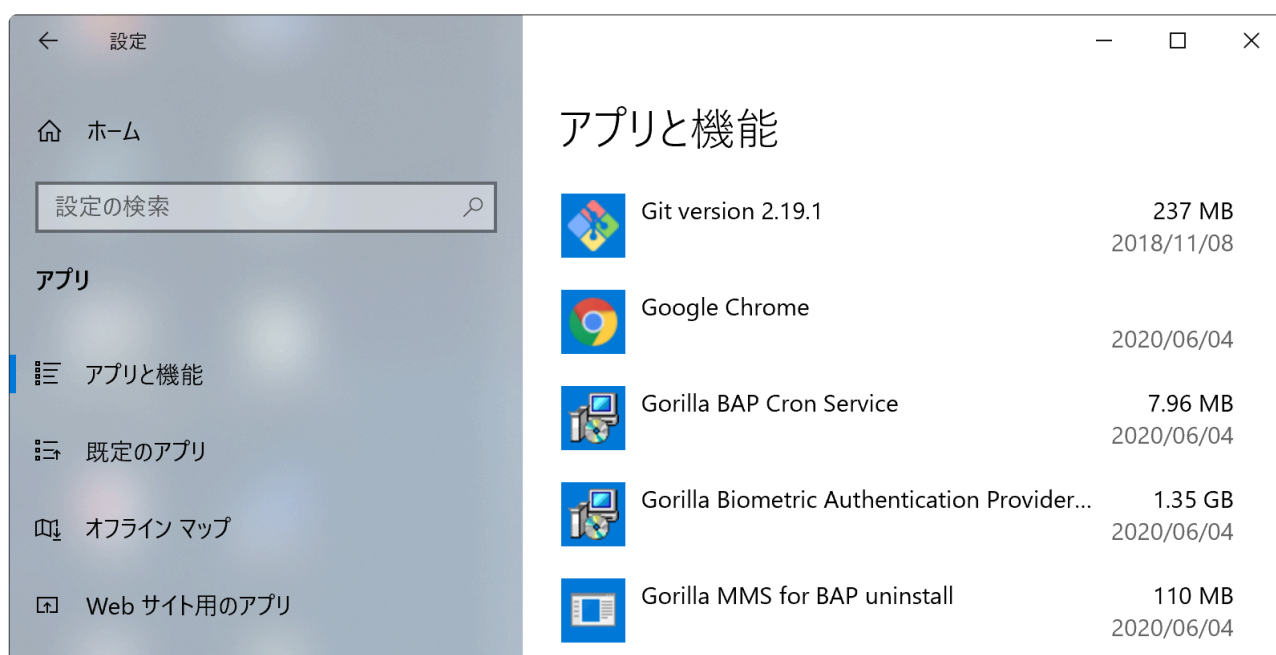
ライセンスの登録解除をせずにBAPをアンインストールしてライセンスが使用できなくなった場合には、サポートまでお問い合わせください。

11.2.4. Gorilla BAPのアンインストール

アンインストール

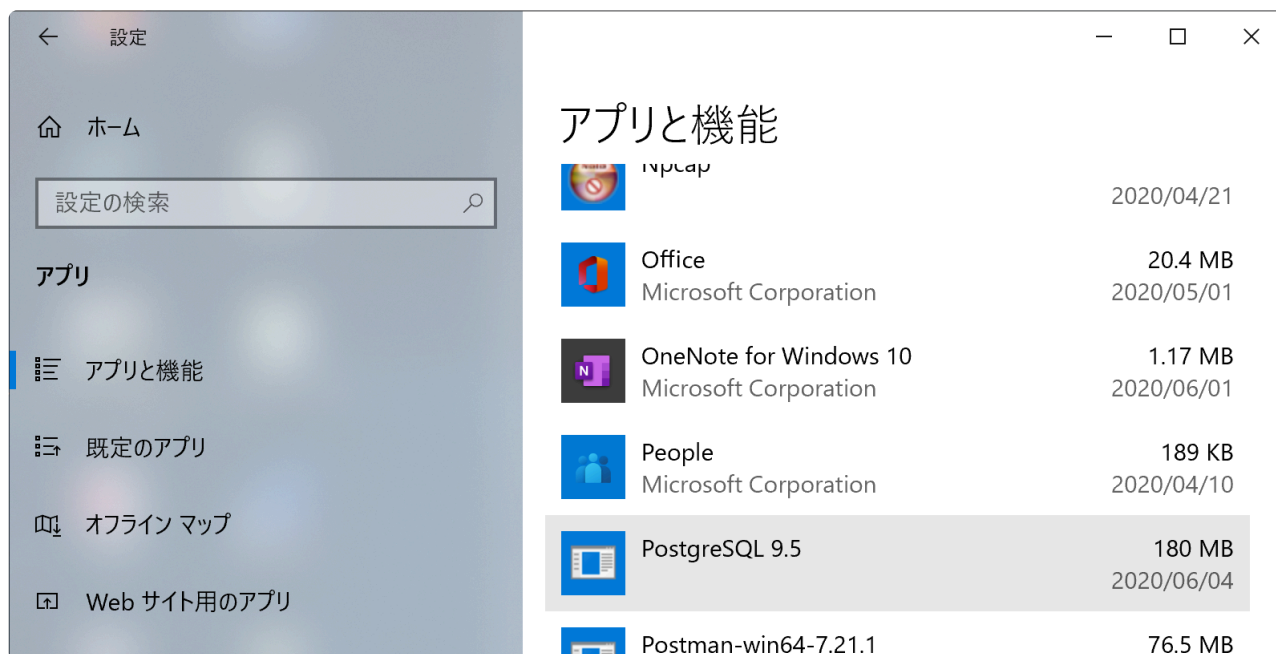
注) ライセンスの登録解除をせずにBAPをアンインストールするとライセンスは登録状態のままとなり、再インストールや別のPCでこのライセンスは使用できなくなります。アンインストールする前にライセンスを登録解除したかもう一度確認してください。

Windowsのスタートメニューから設定を開き、アプリと機能を開いてください。



Gorilla Bap Cron Service をアンインストールしてください

続いて Gorilla Biometric Authentication Provider, Gorilla MMS for BAP uninstall をそれぞれアンインストールしてください。



続いて PostgreSQL をアンインストールしてください。

データフォルダの削除

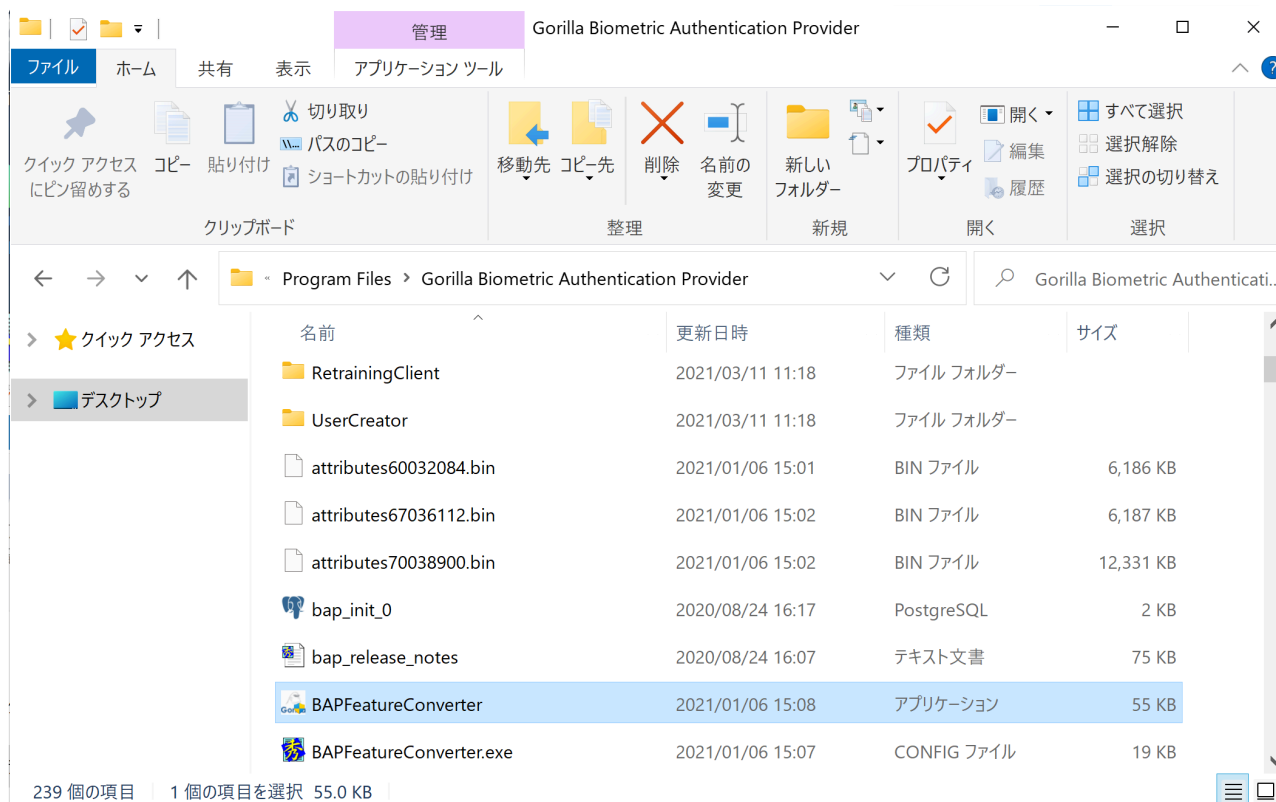
BAPが使用していたデータ書きのフォルダも削除してください。

PostgreSQL	c:\Program Files\PostgreSQL
データ	c:\ProgramData\Gorilla Biometric Authentication Provider
Gorillaデータ	c:\Program Files\Gorilla Biometric Authentication Provider, c:\Program Files\Gorilla Technology Group, Inc.

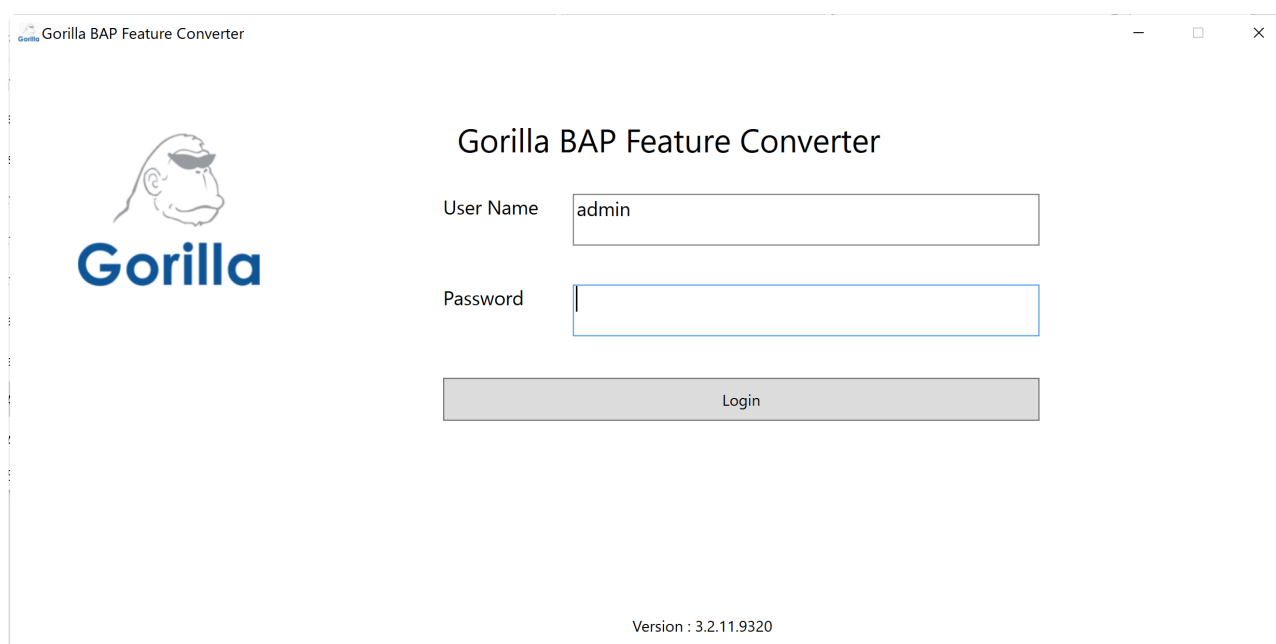
11.2.5. Feature versionの変更

BAPをインストール後にFeature versionを変更する方法

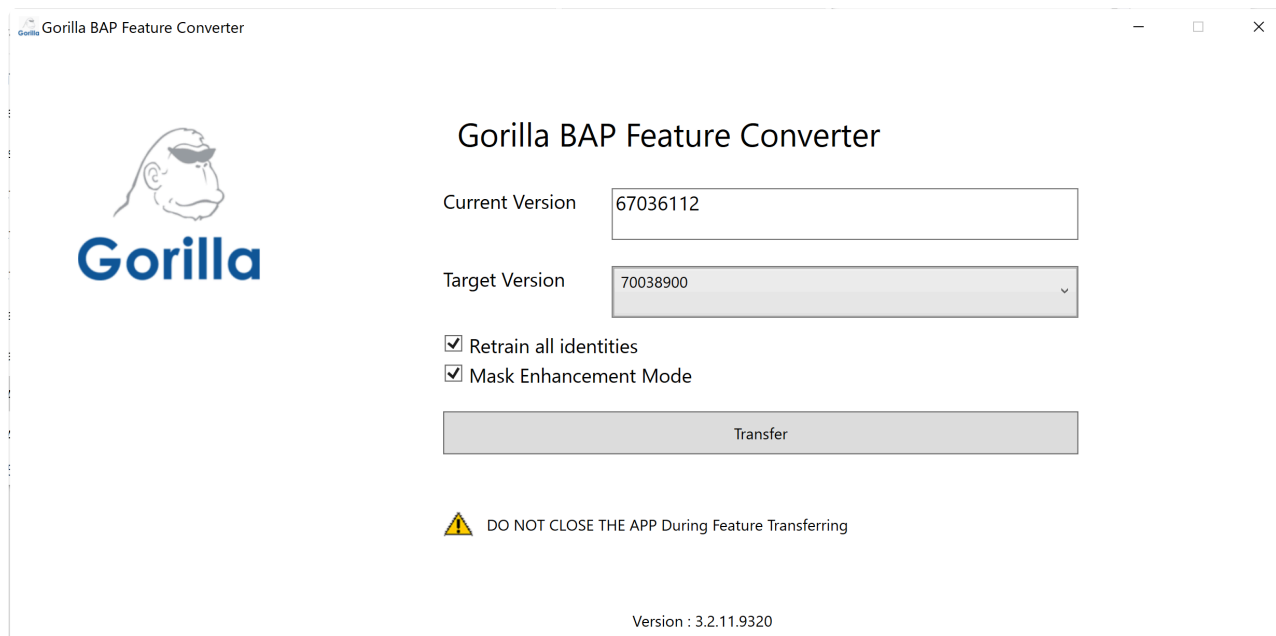
C:\Program Files\Gorilla Biometric Authentication Providerをエクスプローラーで開きます。



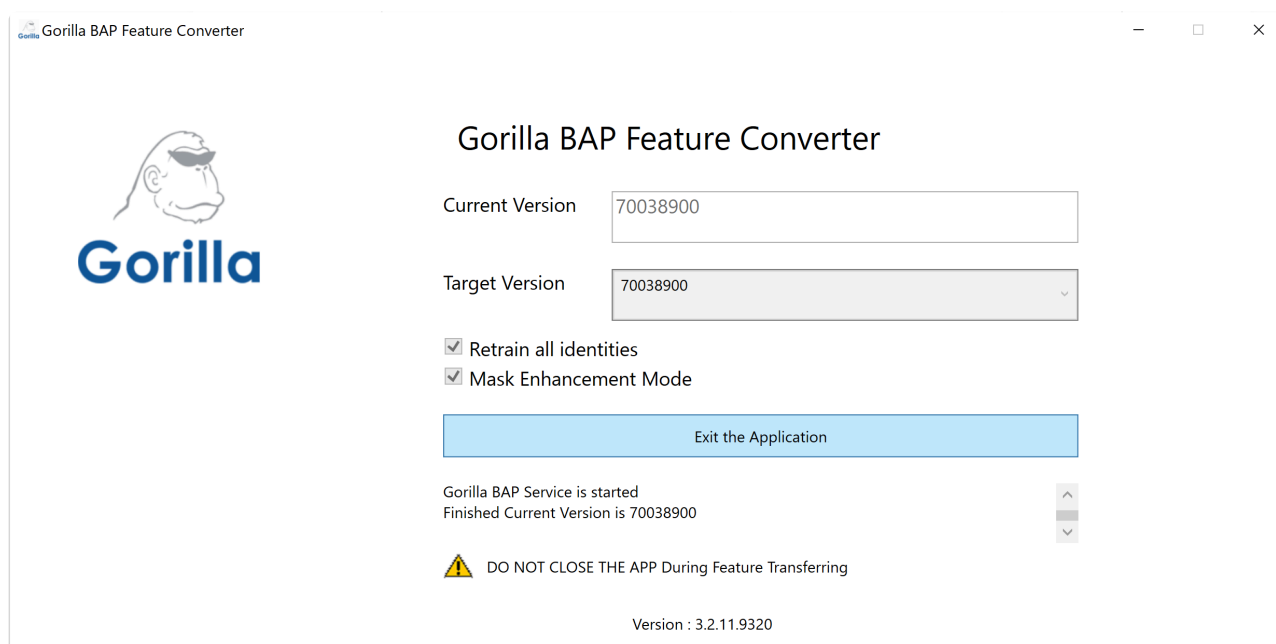
BAPFeatureConverter.exe を実行します。



BAPの管理者アカウントでログインします。



Target Version を 70038900 に選択して Transfer ボタンを押して変換を実行します。



変換が終わると “Finish Current Version is 70038900” と表示されますので Exit the Application ボタンを押して終了します。

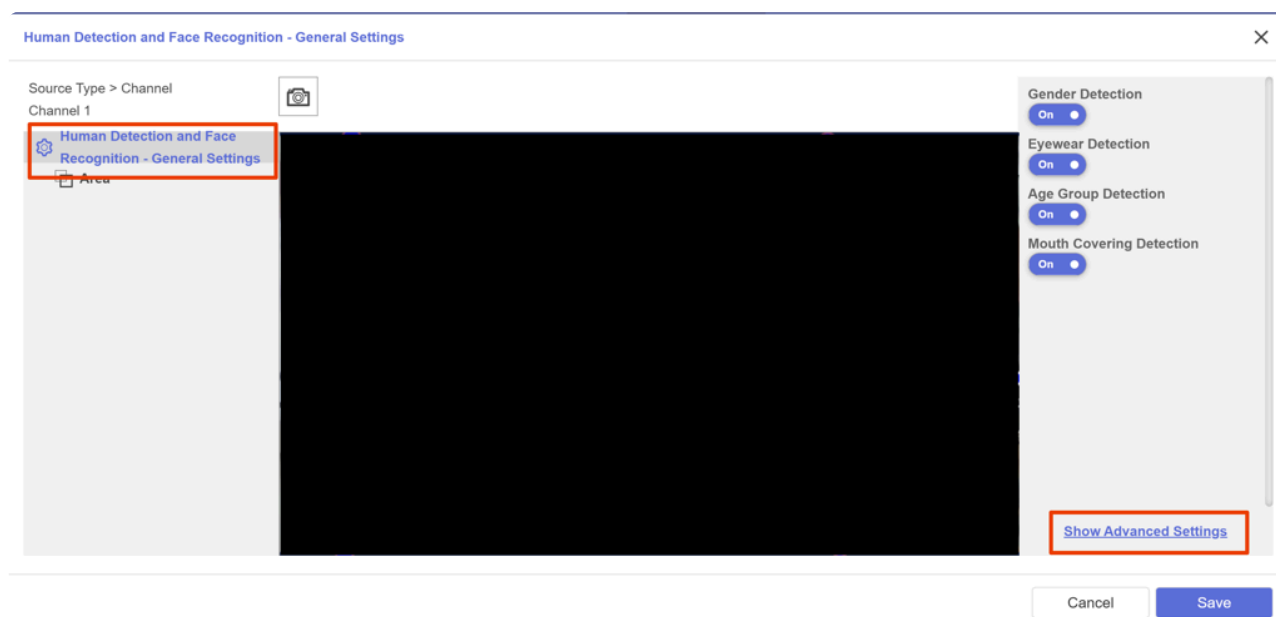
Feature versionを確認する方法

Feature versionが更新されていることを確認するには BAPの管理画面にログインして Admin Settings メニューから BAP Information の FID Feature Version(S) を確認します。

Gorilla BAP User Settings Opera	
Accounts	System Information
BAP Information	
BAP Version	3.2.11.9320
FDRCmdLib Version	6.10.5003.1320
FID Feature Version(s)	[70038900]
FDR-Core Version	6.10.5.39975
Software Edition	Professional
Web Portal Version	3.2.11.9316

IVARでのFeature versionの変更方法

IVARの管理画面からIVAR Serupメニューを選択して、チャンネルに設定しているプロファイルの、既に設定してある“Human Detection and Face Recognition – General Settings”を開きます。
右下の“Show Advances Settings”を選択すると詳細設定が開きます。



この Feature Version も 70038900 に変更して保存します。

Human Detection and Face Recognition - General Settings

Source Type > Channel
Channel 1

Human Detection and Face Recognition - General Settings

Area

Feature Version

67036112

60032084

67036112

70038900

Eyewear Detection

On

Age Group Detection

On

Mouth Covering Detection

On

Recognizable Factors

Face

Minimum Object Width (px)

130

Maximum Object Width (px)

[Hide Advanced Settings](#)

Cancel

Save

11.3. Gorilla IVARの設置

事前に準備するもの

- ・IVARの運用アカウント Administrator のパスワード
- ・IVARのライセンスキー

インストールする環境

IVARをインストールするWindows10 PCとChromeブラウザを用意してください。
またライセンス登録をしますのでインターネットに接続されている必要があります。

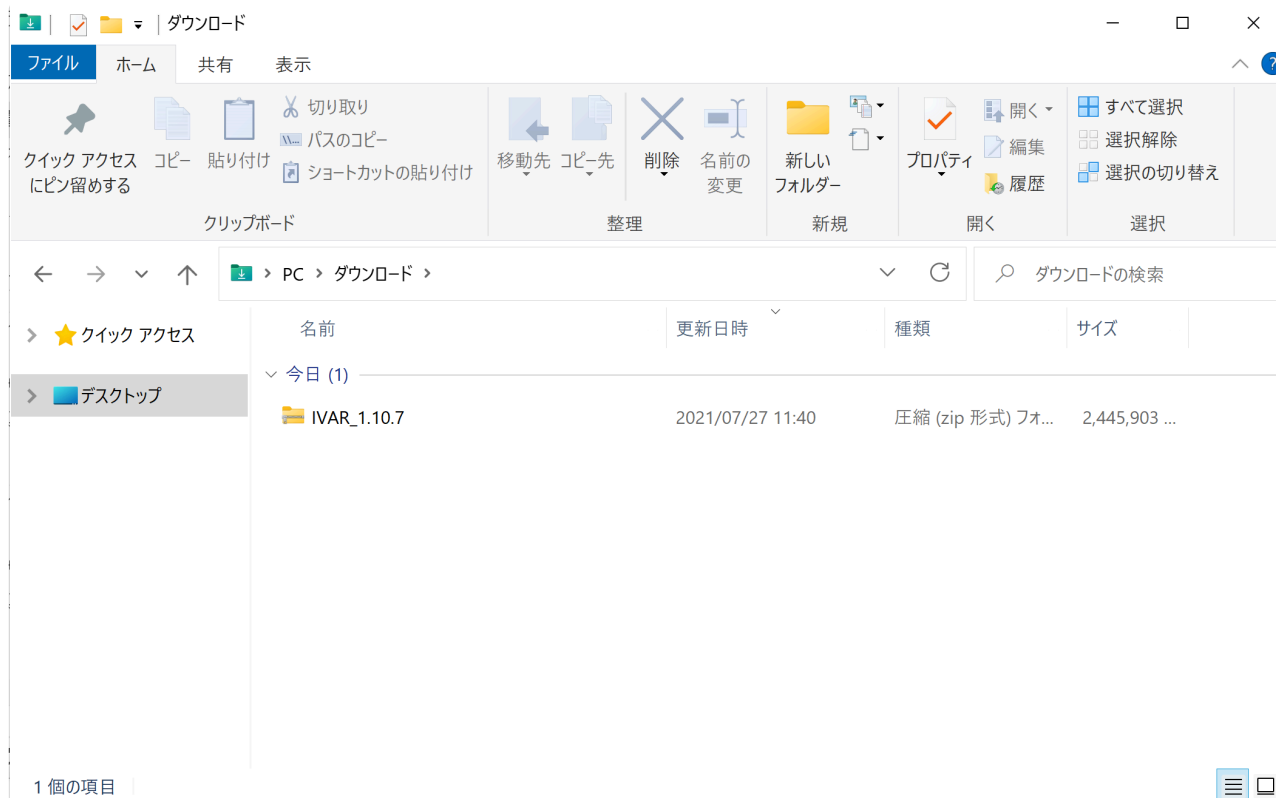
インストールする前のご注意

IVARはMongoDBを使用します。すでにMongoDBがインストールされているとバージョン違いなどの競合により正しくインストールできないことがあるため、MongoDBはアンインストールをお願いします。またデータフォルダも削除してください。

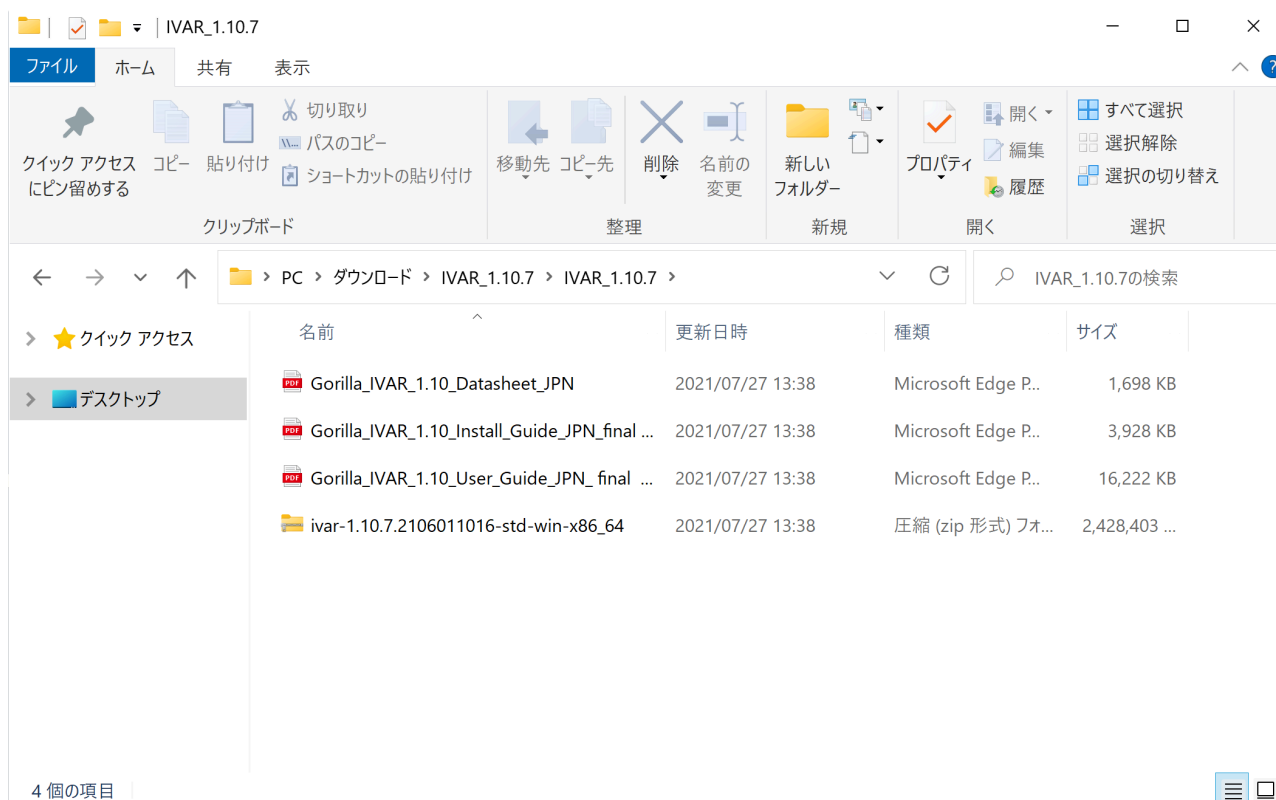
また、Windows10はWindows Updateを使用して最新バージョンへのアップデートをお願いします。

インストール手順

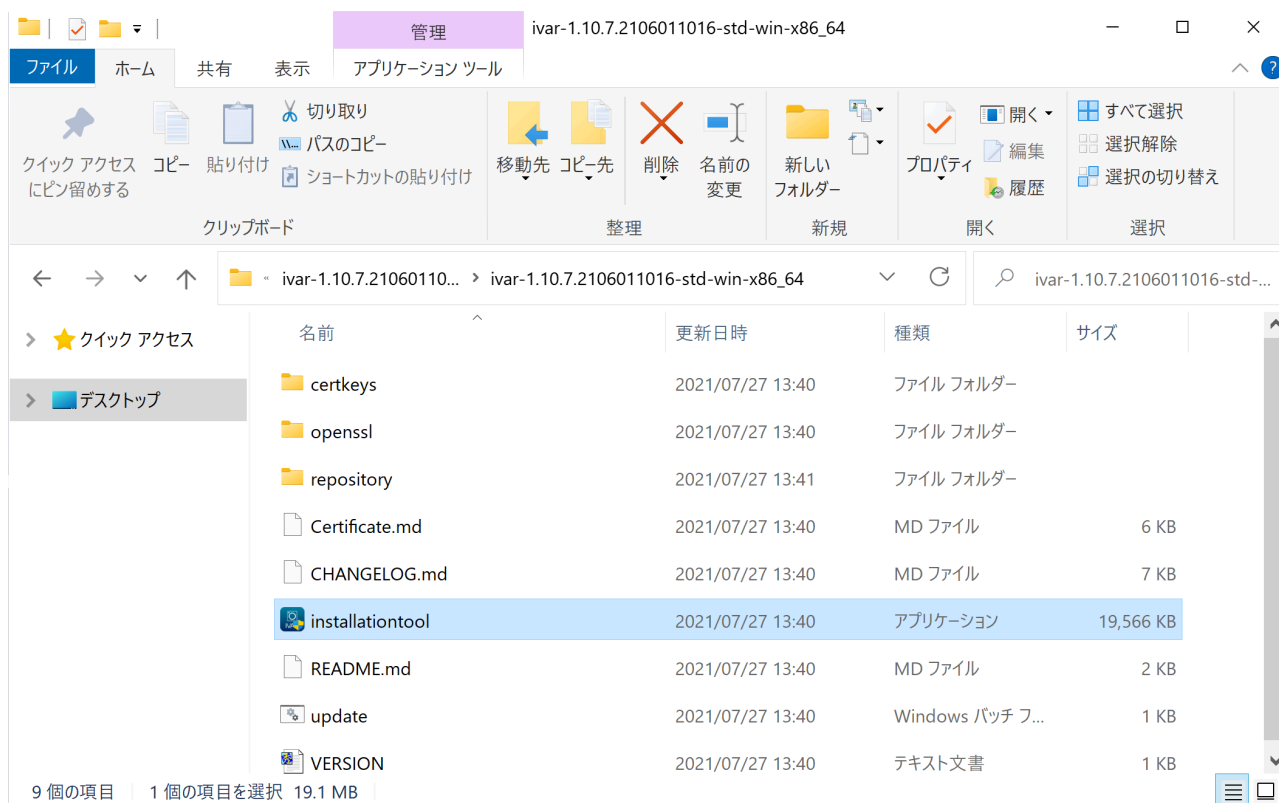
ダウンロードしたzipを展開してください。



展開するとIVARフォルダが出来ますので中を開いてください。



さらにzipファイルがありますので展開して中を開いてください。



installationtool アプリケーションがありますので、これを「管理者として実行」で実行してください。

※管理者権限のないユーザでインストールした場合には正しくインストールが出来ません。



Gorilla IVAR Setup

Setup - Gorilla IVAR

Welcome to the Gorilla IVAR Setup Wizard.

Settings

Next

Quit






















起動するとGollira IVARインストーラが表示されますので Nextボタンを押してください。



←  Gorilla IVAR Setup

Select Components

Please select the components you want to install.

Default	Select All	Deselect All																					
<table><tr><td>Base</td><td></td><td>^</td></tr><tr><td>Microsoft Visual C++ 2015 Redistrib...</td><td></td><td></td></tr><tr><td>Gorilla MMS</td><td></td><td></td></tr><tr><td>proxy service</td><td></td><td></td></tr><tr><td>Service Manager</td><td></td><td></td></tr><tr><td>Account Manager</td><td></td><td></td></tr><tr><td>Comm Server</td><td></td><td>v</td></tr></table>			Base		^	Microsoft Visual C++ 2015 Redistrib...			Gorilla MMS			proxy service			Service Manager			Account Manager			Comm Server		v
Base		^																					
Microsoft Visual C++ 2015 Redistrib...																							
Gorilla MMS																							
proxy service																							
Service Manager																							
Account Manager																							
Comm Server		v																					

This component will occupy
approximately 136.59 MB on your
hard disk drive.

Next

Cancel

Select Components にはIVARに必要なモジュールが表示されます。
そのまま Next ボタン押してください。



Gorilla IVAR Setup

Ready to Install

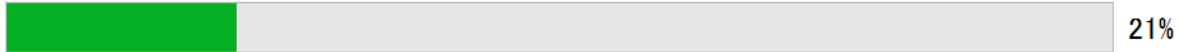
Setup is now ready to begin installing Gorilla IVAR on your computer. Installation will use 4.44 GB of disk space.

インストールの準備ができましたので Install ボタンを押すとインストールが開始されます。



Gorilla IVAR Setup

Installing Gorilla IVAR



Downloading archive "1.10.7.2106011016ivar-core.7z" for component IVAR Core.

Download finished.

[Show Details](#)[Install](#)[Cancel](#)

インストールしているファイルが表示され、不定期にプロンプトが表示されますのでインストール中は画面操作をせずにお待ちください。



Gorilla IVAR Setup

Completing the Gorilla IVAR Wizard

Click Finish to exit the Gorilla IVAR Wizard.

Finish

インストールが終わる Finish ボタンを押してください。

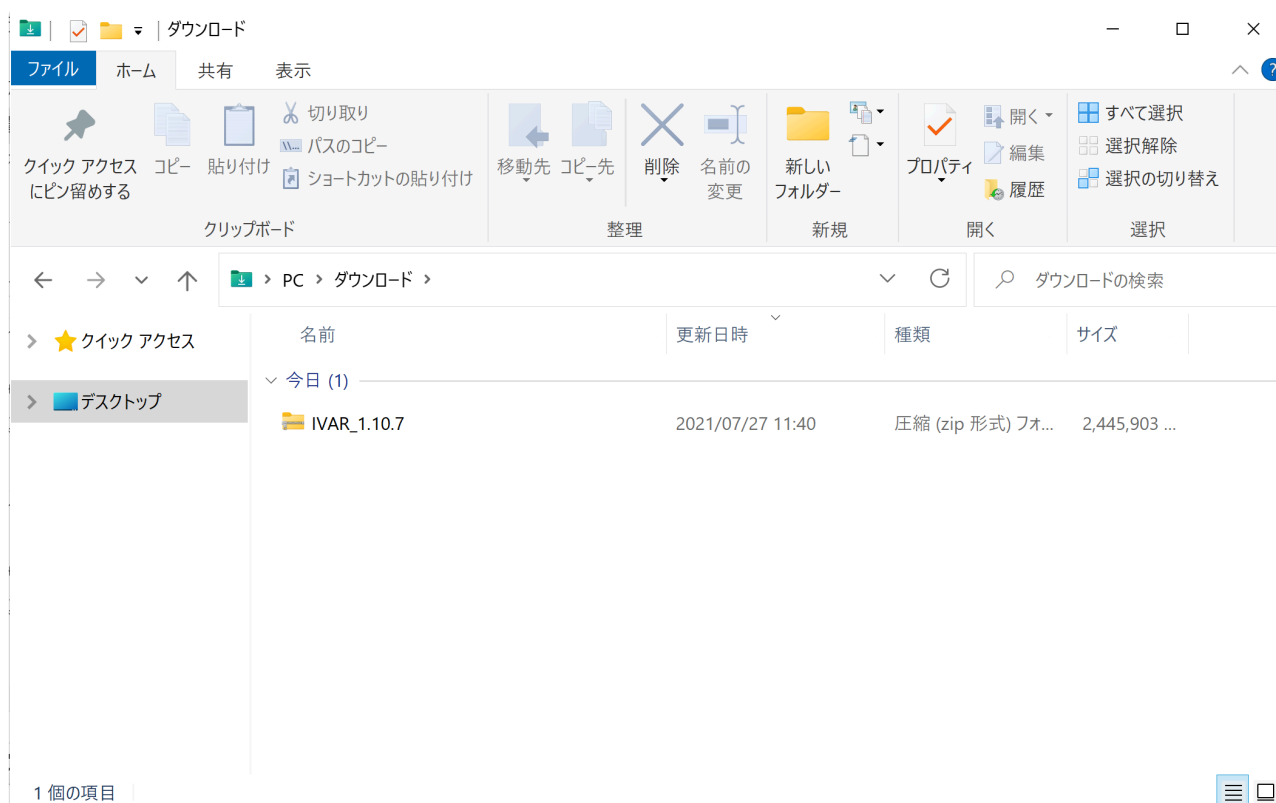
11.3.1. Gorilla IVARのアップデート

IVARを新規インストールする場合には [こちら](#) を参照してください。

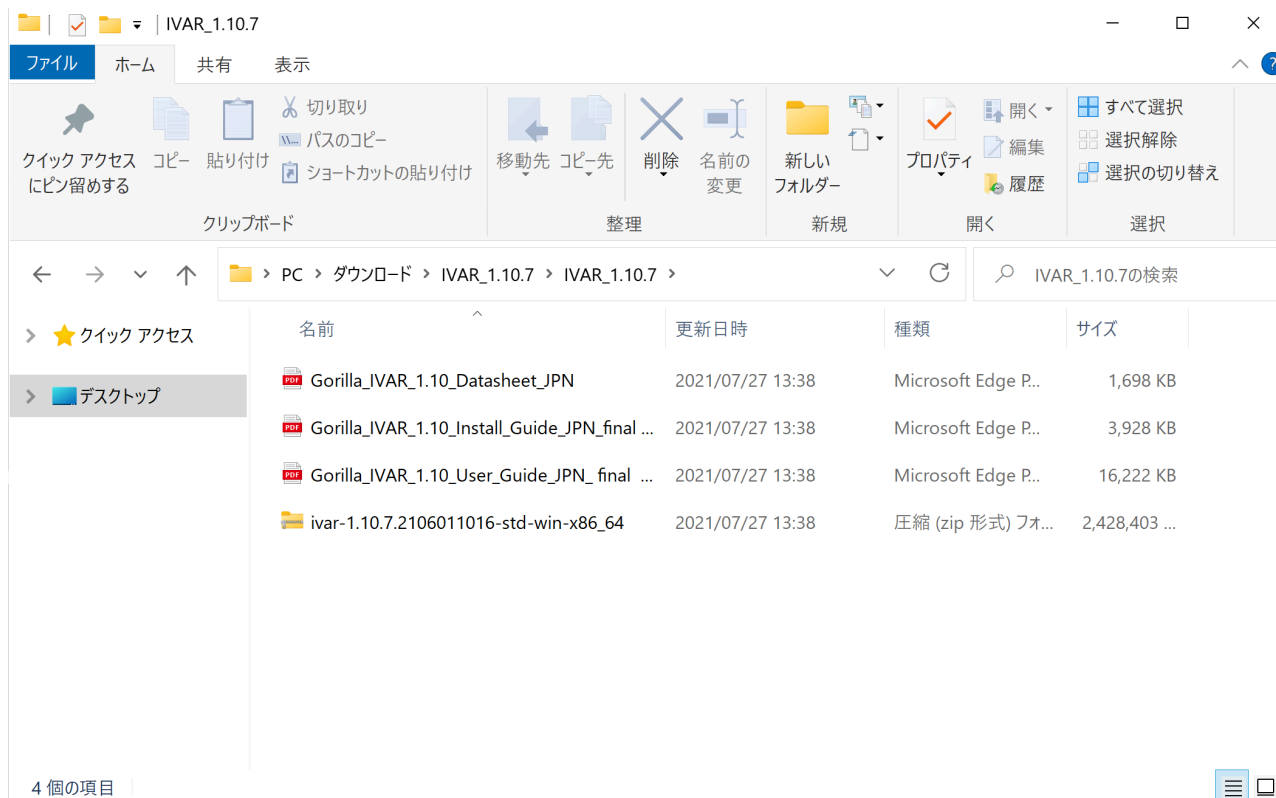
アップデート手順

ダウンロードしたzipを展開してください。

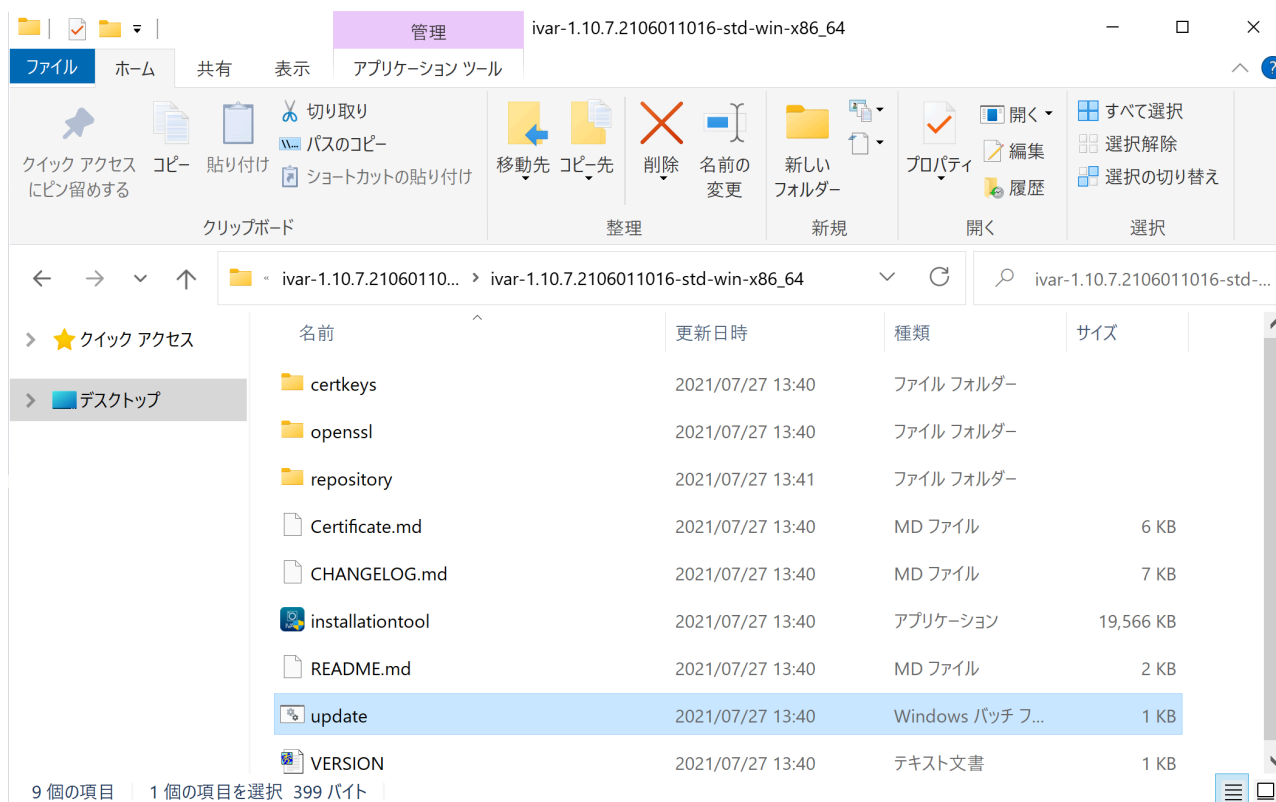
展開するとIVARフォルダが出来ますので中を開いてください。



さらにzipファイルがありますので展開して中を開いてください。



update.bat Windows バッチファイルがありますので、これを実行してください。



実行するとコンソール画面が開きIVARがアップデートされます。

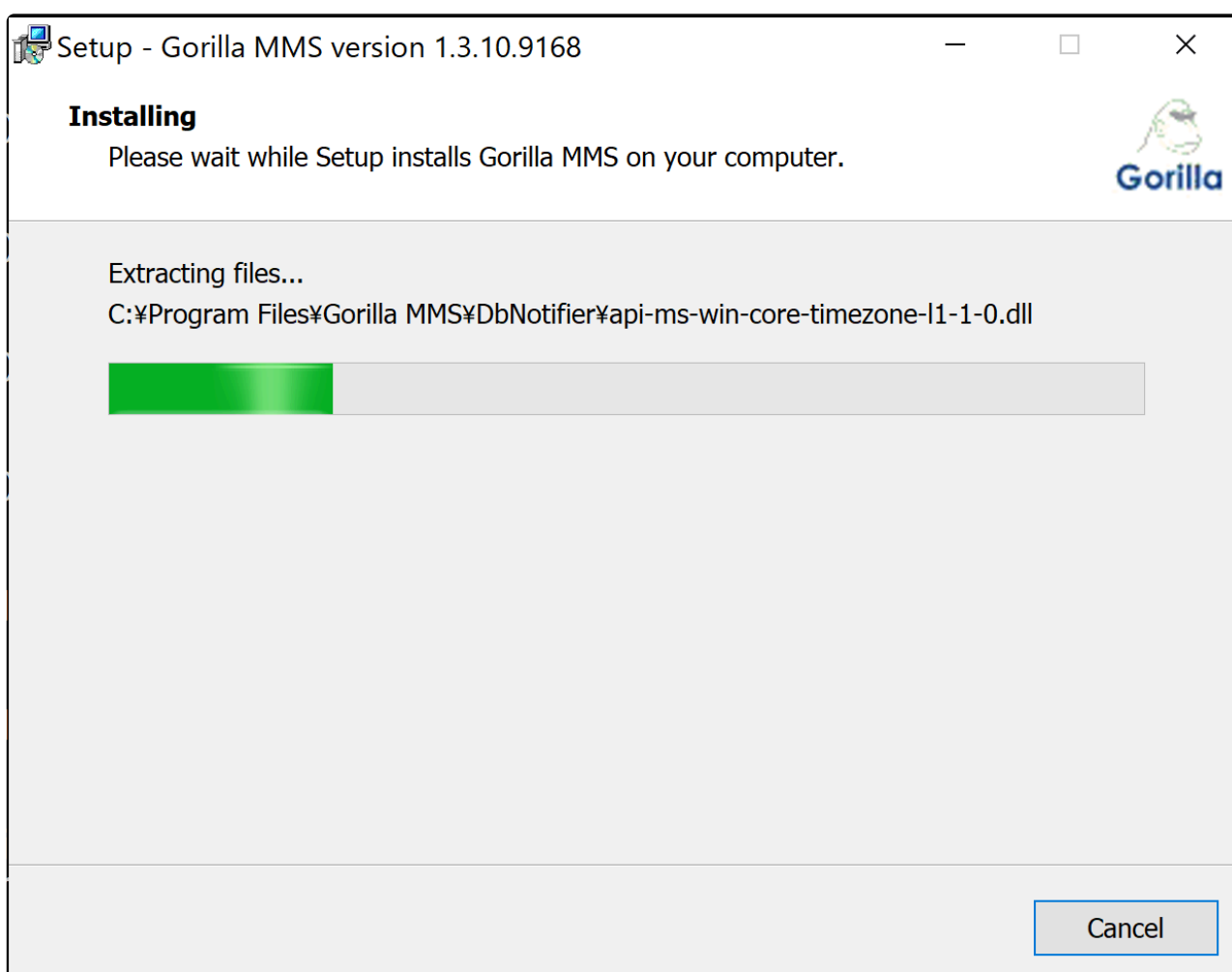
```

C:\WINDOWS\system32\cmd.exe
[3026] [EVENT], installationStarted, update
[3029] perform operation: Execute
[3032] - arguments: taskkill, /f, /im, DbNotifier.exe
[3051] taskkill started, arguments: "/f /im DbNotifier.exe
[3260] Warning: ?G???[: ?v???Z?X "DbNotifier.exe" ????????????????B

[3261] Done
[3266] undo operation: Execute
[3269] - arguments: taskkill, /f, /im, DbNotifier.exe
[3270] Done
[3277] [UPDATING]mms
[3279] [UPDATING]proxy-service
[3286] perform operation: Execute
[3286] - arguments: C:\Program Files\Gorilla\IVAR\proxy-service\ServiceWrapper.exe, /stop
[3294] C:\Program Files\Gorilla\IVAR\proxy-service\ServiceWrapper.exe" started, arguments: "/stop
[5432] ¥r¥nGorilla proxy-service ¥x83T¥x81[¥x83r¥x83X¥x82¥xCD¥x90¥xB3¥x8F¥xED¥x82¥xC9¥x92¥xE2¥x8E~¥x82¥xB3¥x82¥xEA¥x82¥x
DC¥x82¥xB5¥x82¥xBD¥x81"B¥r¥n¥r¥n
[5434] Done
[5438] [UPDATING]account-manager
[5441] perform operation: Execute
[5442] - arguments: C:\Program Files\Gorilla\IVAR\account-manager\ServiceWrapper.exe, /stop
[5455] C:\Program Files\Gorilla\IVAR\account-manager\ServiceWrapper.exe" started, arguments: "/stop
[7602] ¥r¥nGorilla Account Manager ¥x83T¥x81[¥x83r¥x83X¥x82¥xC9¥x90¥xB3¥x8F¥xED¥x82¥xC9¥x92¥xE2¥x8E~¥x82¥xB3¥x82¥xEA¥x82
¥xDC¥x82¥xB5¥x82¥xBD¥x81"B¥r¥n¥r¥n
[7602] Done
[7606] [UPDATING]comm-server
[7611] perform operation: Execute
[7612] - arguments: C:\Program Files\Gorilla\IVAR\comm-server\ServiceWrapper.exe, /stop
[7624] C:\Program Files\Gorilla\IVAR\comm-server\ServiceWrapper.exe" started, arguments: "/stop

```

アップデート中にMMSのインストーラも起動します。



アップデートが終わるとコンソール画面が閉じます。

IVARを 1.10にアップデートした場合、BAPのFeature versionも 70038900 に変更する必要があります。
Feature versionの変更方法につきましては [こちら](#) を参照してください。

IVARを1.10にアップデートして、BAPのFeature versionを 70038900 に変更するとアップデートは完了です。

11.3.2. Gorilla IVARの初期設定とライセンス登録

初期設定

IVARのインストールが終わるとChromeを使用して下記のアドレスを開いてください。

注) IVARをインストールしたPCでChromeを操作することを想定しています。
異なるPCで操作する場合には“localhost”を環境に合わせて変更してください。

アドレス : <https://localhost:8002/>

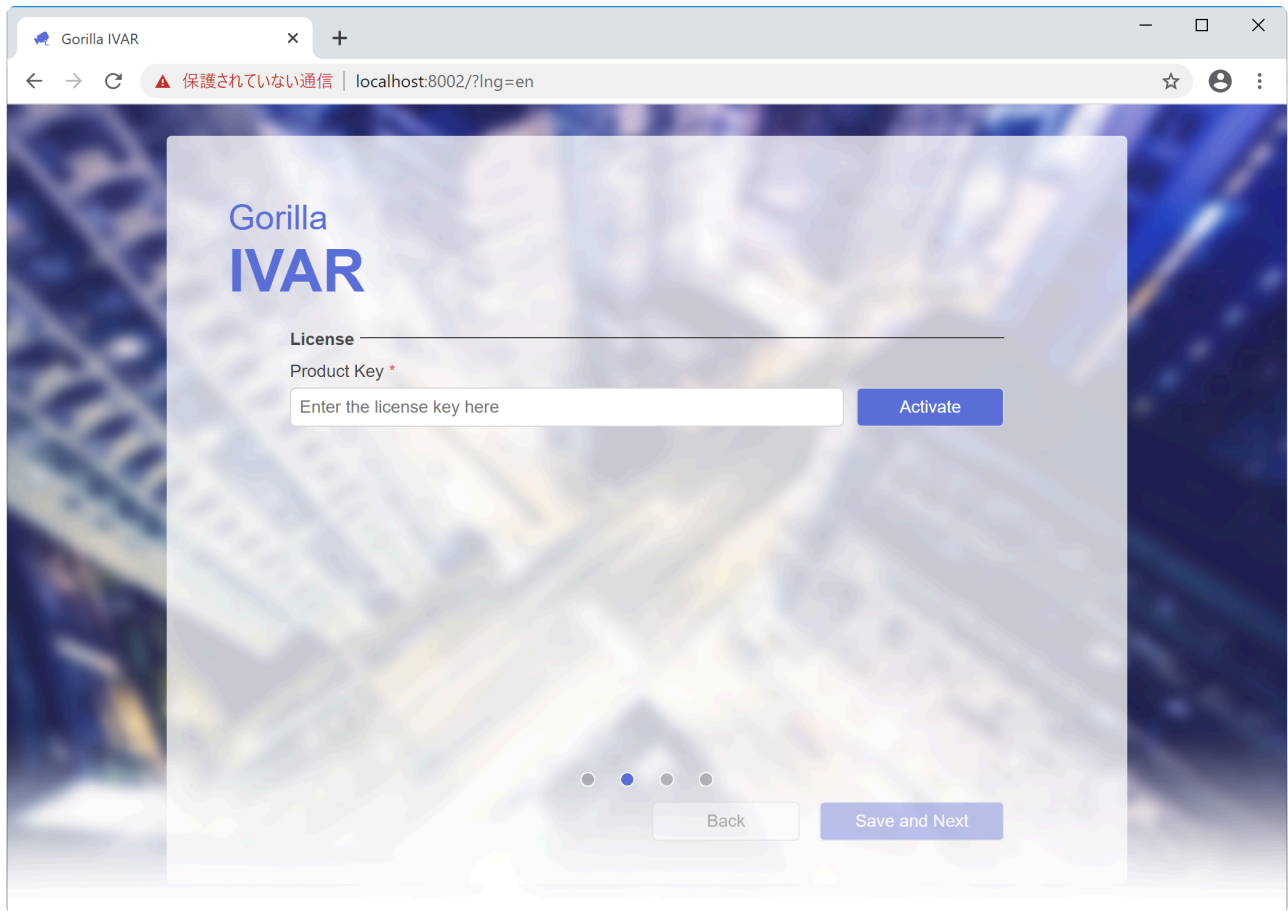


この接続ではプライバシーが保護されません

注) httpsでセルフサインの証明書を使用しているため最初に警告が表示されます。
この警告が表示された場合には 詳細設定 ボタンを押してlocalhostにアクセスする(安全ではありません) リンクをクリックして開いてください。

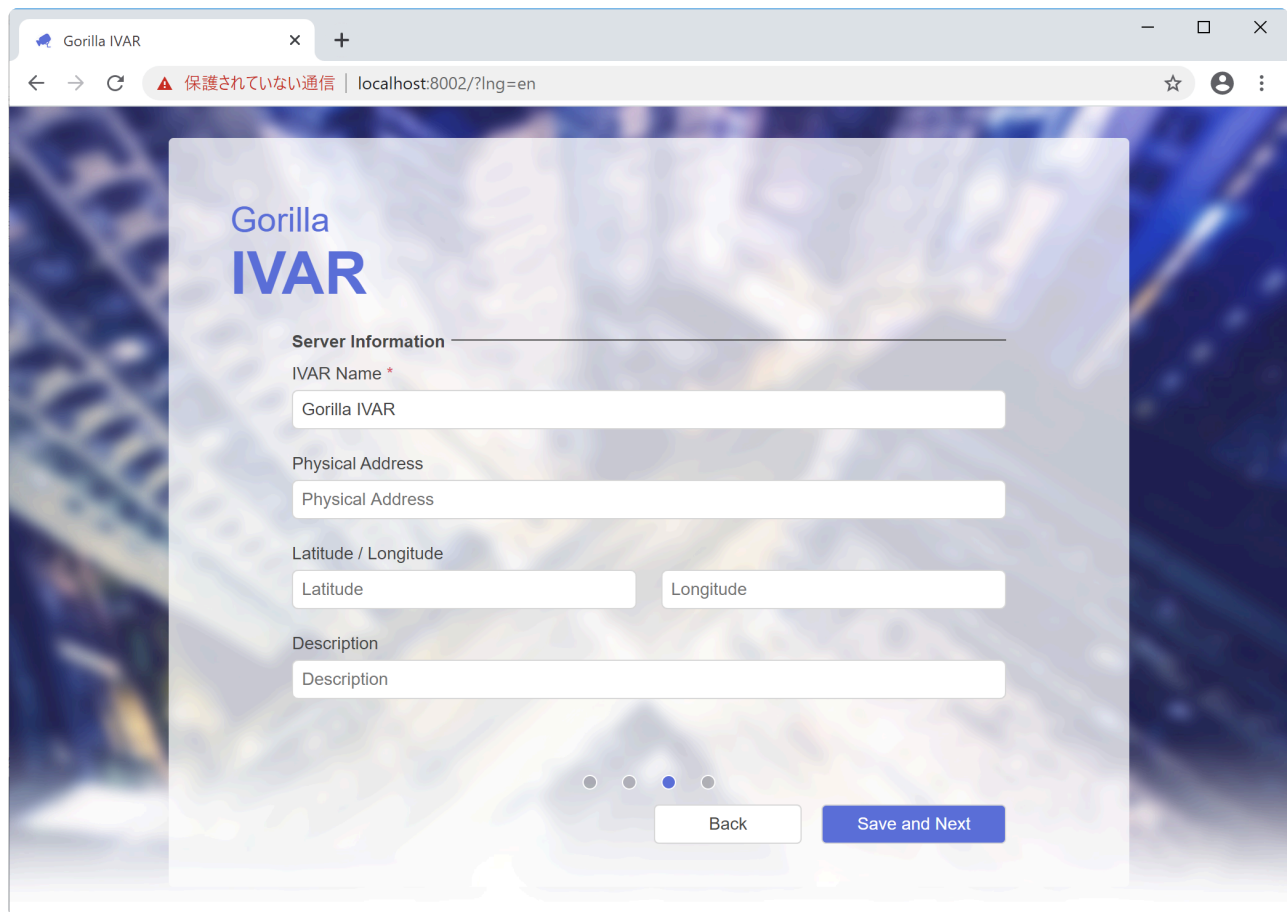
IVARのAdministratorのパスワードを登録して Create ボタンを押してください。

ライセンスの登録



続いて取得したIVARのライセンスキーを登録して **Activate** ボタンを押すと認証が行われます。
認証を行うにはPCがインターネットに接続されている必要があります。

認証が終わりますと **Save and Next** ボタンを押してください。



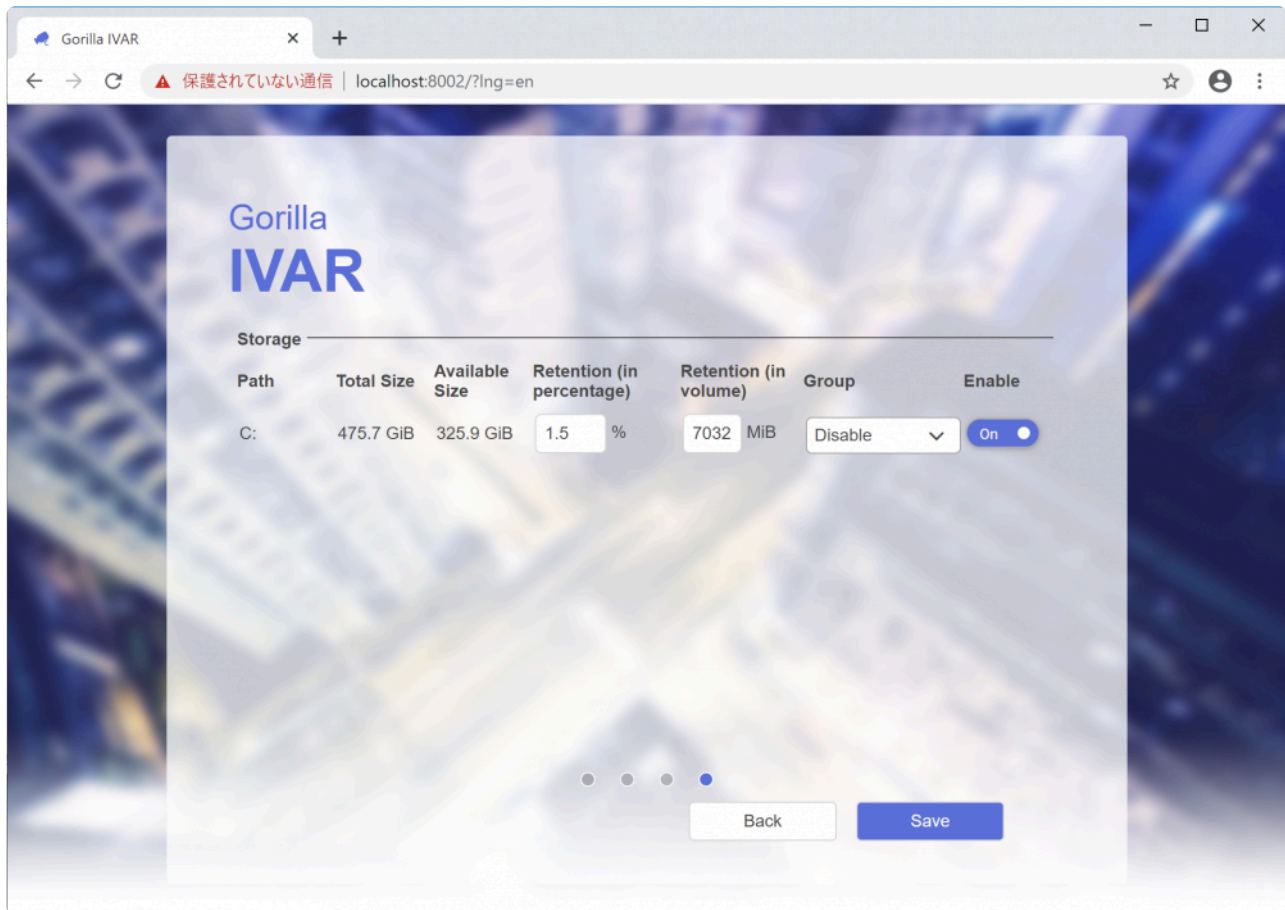
The screenshot shows a web browser window with the title "Gorilla IVAR". The address bar displays "localhost:8002/?lng=en" with a warning icon and the text "保護されていない通信". The main content area features the "Gorilla IVAR" logo at the top left. Below the logo, the section "Server Information" is highlighted with a horizontal line. The form includes the following fields:

- IVAR Name ***: A text input field containing "Gorilla IVAR".
- Physical Address**: A text input field containing "Physical Address".
- Latitude / Longitude**: Two text input fields, one for "Latitude" and one for "Longitude".
- Description**: A text input field containing "Description".

At the bottom of the form, there are four small circular progress indicators, with the third one (corresponding to the current step) being filled. Below the indicators are two buttons: "Back" and "Save and Next".

続いて Server Information の登録画面となりますが特に初期設定のままで Save and Next ボタンを押してください。

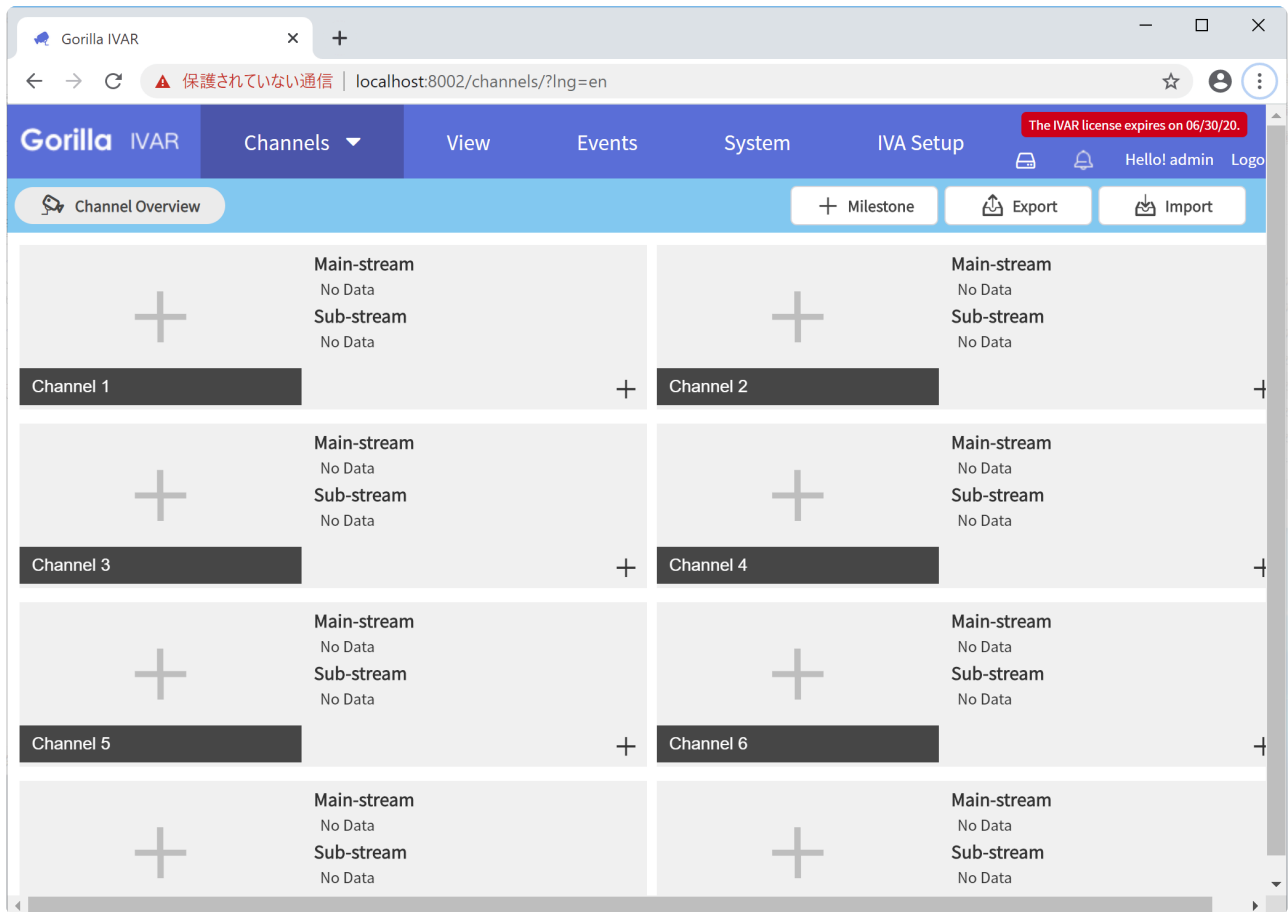
注) 情報を登録するにはインストール後の設定画面で行うことができます。



続いて Storage の登録画面となります。ビデオデータを保存するドライブを指定してください。

設定が終わりますと Save ボタンを押してください。

これで初期設定が完了してチャンネルの画面に移行します



ライセンスの確認

登録したライセンスを確認するには、System メニューから About を開いてください。

IVAR Information

ID	{00000000-0000-1000-1000-100000000000}
Version	ivar-1.8.16.42905-std-win-x86_64
Total Channels	8
Maximum Analytic Channels	2
Analytic Core Channels	All : 1 Business Intelligence : 0 Human Detection : 1 Behavior Analysis : 0 License Plate : 0
Analytic Channel Expiry Date	2099-01-01 21:00:00
Analytic Core Version	BI-CORE v2.3.3 FDR-CORE v6.7.0 IPM-CORE v3.3.0 ODC-CORE v1.5.0 LPR-CORE v5.8.1 MMS/MMSC v1.3.1

General Settings

IVAR Name	Gorilla IVAR
Physical Address	
Latitude	
Longitude	
Description	

[Revert](#) [Save](#)

License

Product Key	
Details	License Check Verified
Expiry Date	

[Deactivate](#) [Resync](#)

System Information ⓘ

License に登録したライセンスが表示されます。

注) ライセンスの登録解除をせずにIVARをアンインストールするとライセンスは登録状態のままとなり、再インストールや別のPCでこのライセンスは使用できなくなります。

ライセンスの登録解除をせずにIVARをアンインストールしてライセンスが使用できなくなった場合には、サポートまでお問い合わせください。

11.3.3. Gorilla IVARのライセンスの登録解除

ライセンスの登録解除

IVARの運用を他のPCに移動させる場合には、必ずインストールしているライセンスを登録解除してください。

System -> About -> License にある Deactivate ボタンを押して解除されたことを確認してください。

注) ライセンスの登録解除をせずにIVARをアンインストールするとライセンスは登録状態のままとなり、再インストールや別のPCでこのライセンスは使用できなくなります。

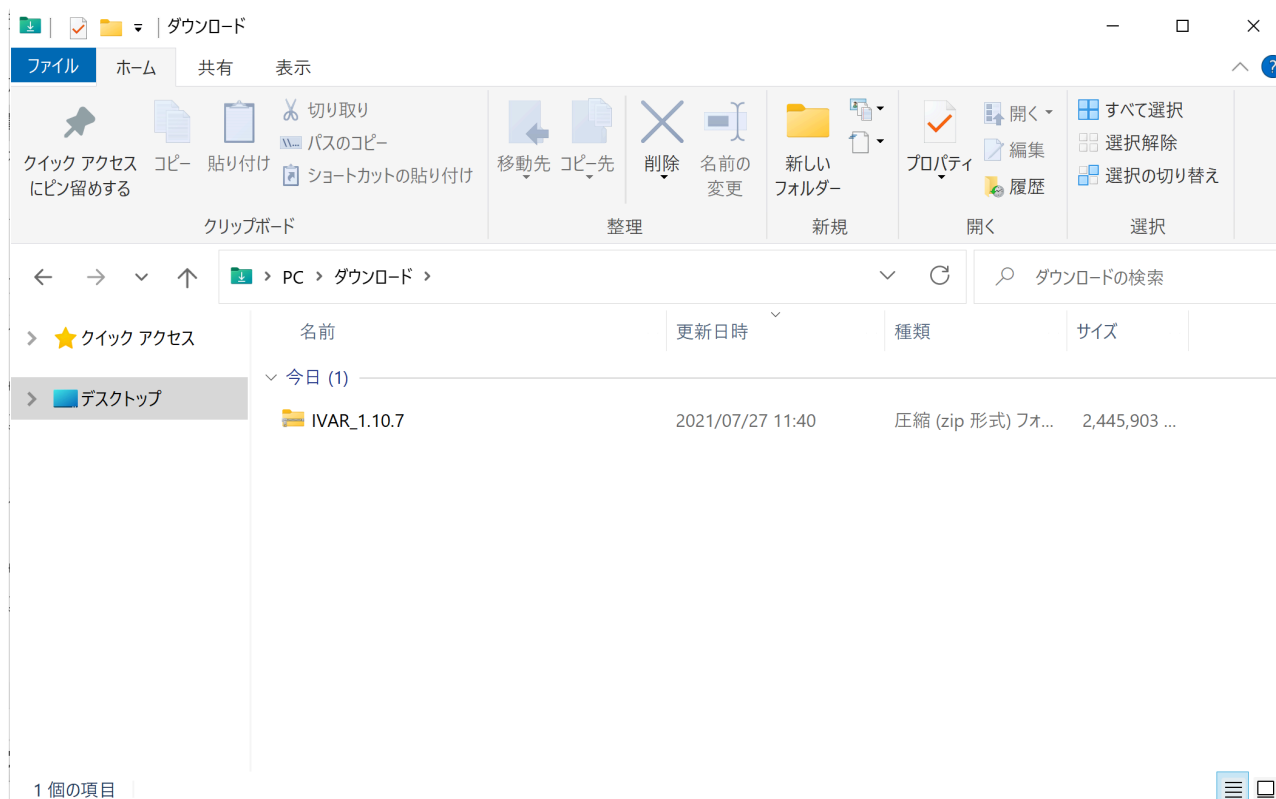
登録解除を行うにはPCがインターネットに接続されている必要があります。

ライセンスの登録解除をせずにIVARをアンインストールしてライセンスが使用できなくなった場合には、サポートまでお問い合わせください。

11.3.4. Gorilla IVARのアンインストール

アンインストール

注) ライセンスの登録解除をせずにIVARをアンインストールするとライセンスは登録状態のままとなり、再インストールや別のPCでこのライセンスは使用できなくなります。アンインストールする前にライセンスを登録解除したかもう一度確認してください。



インストール時に取得したzipを展開し、さらにzipファイルがありますので展開して中を開いてください。

IVAR_1.10.7

ファイル ホーム 共有 表示

クイック アクセスにピン留めする コピー 貼り付け 切り取り パスのコピー ショートカットの貼り付け 移動先 コピー先 削除 名前の変更 新しいフォルダー プロパティ 開く 履歴 すべて選択 選択解除 選択の切り替え

クリップボード 整理 新規 開く 選択

← → ↓ ↑ > PC > ダウンロード > IVAR_1.10.7 > IVAR_1.10.7 > IVAR_1.10.7の検索

名前	更新日時	種類	サイズ
Gorilla_IVAR_1.10_Datasheet_JPN	2021/07/27 13:38	Microsoft Edge P..	1,698 KB
Gorilla_IVAR_1.10_Install_Guide_JPN_final ...	2021/07/27 13:38	Microsoft Edge P..	3,928 KB
Gorilla_IVAR_1.10_User_Guide_JPN_final ...	2021/07/27 13:38	Microsoft Edge P..	16,222 KB
ivar-1.10.7.2106011016-std-win-x86_64	2021/07/27 13:38	圧縮 (zip 形式) フォ...	2,428,403 ...

4 個の項目

管理 ivar-1.10.7.2106011016-std-win-x86_64

ファイル ホーム 共有 表示 アプリケーション ツール

クイック アクセスにピン留めする コピー 貼り付け 切り取り パスのコピー ショートカットの貼り付け 移動先 コピー先 削除 名前の変更 新しいフォルダー プロパティ 開く 履歴 すべて選択 選択解除 選択の切り替え

クリップボード 整理 新規 開く 選択

← → ↓ ↑ > ivar-1.10.7.21060110... > ivar-1.10.7.2106011016-std-win-x86_64 > ivar-1.10.7.2106011016-std-...

名前	更新日時	種類	サイズ
certkeys	2021/07/27 13:40	ファイル フォルダー	
openssl	2021/07/27 13:40	ファイル フォルダー	
repository	2021/07/27 13:41	ファイル フォルダー	
Certificate.md	2021/07/27 13:40	MD ファイル	6 KB
CHANGELOG.md	2021/07/27 13:40	MD ファイル	7 KB
installationtool	2021/07/27 13:40	アプリケーション	19,566 KB
README.md	2021/07/27 13:40	MD ファイル	2 KB
update	2021/07/27 13:40	Windows バッチ フ...	1 KB
VERSION	2021/07/27 13:40	テキスト文書	1 KB

9 個の項目 | 1 個の項目を選択 19.1 MB

installationtool アプリケーションがありますので、これを実行してください。



Gorilla IVAR Setup

Setup - Gorilla IVAR

Welcome to the Gorilla IVAR Setup Wizard.

- ☐ Add or remove components
- ☐ Update components
- ☒ Remove all components

[Next](#)[Quit](#)

起動して Setup – Gollira IVAR から Remove all components を選択してください。
そして Next ボタンを押してください。



Gorilla IVAR Setup

Ready to Uninstall

Setup is now ready to begin removing Gorilla IVAR from your computer.

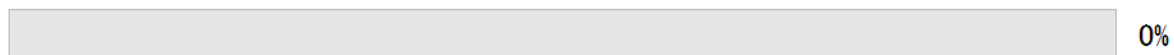
The program directory C:¥Program Files¥GorillaIVAR will be deleted completely, including all content in that directory!

さらに Uninstall ボタンを押すとアンインストールが開始されます。



←  Gorilla IVAR Setup

Uninstalling Gorilla IVAR

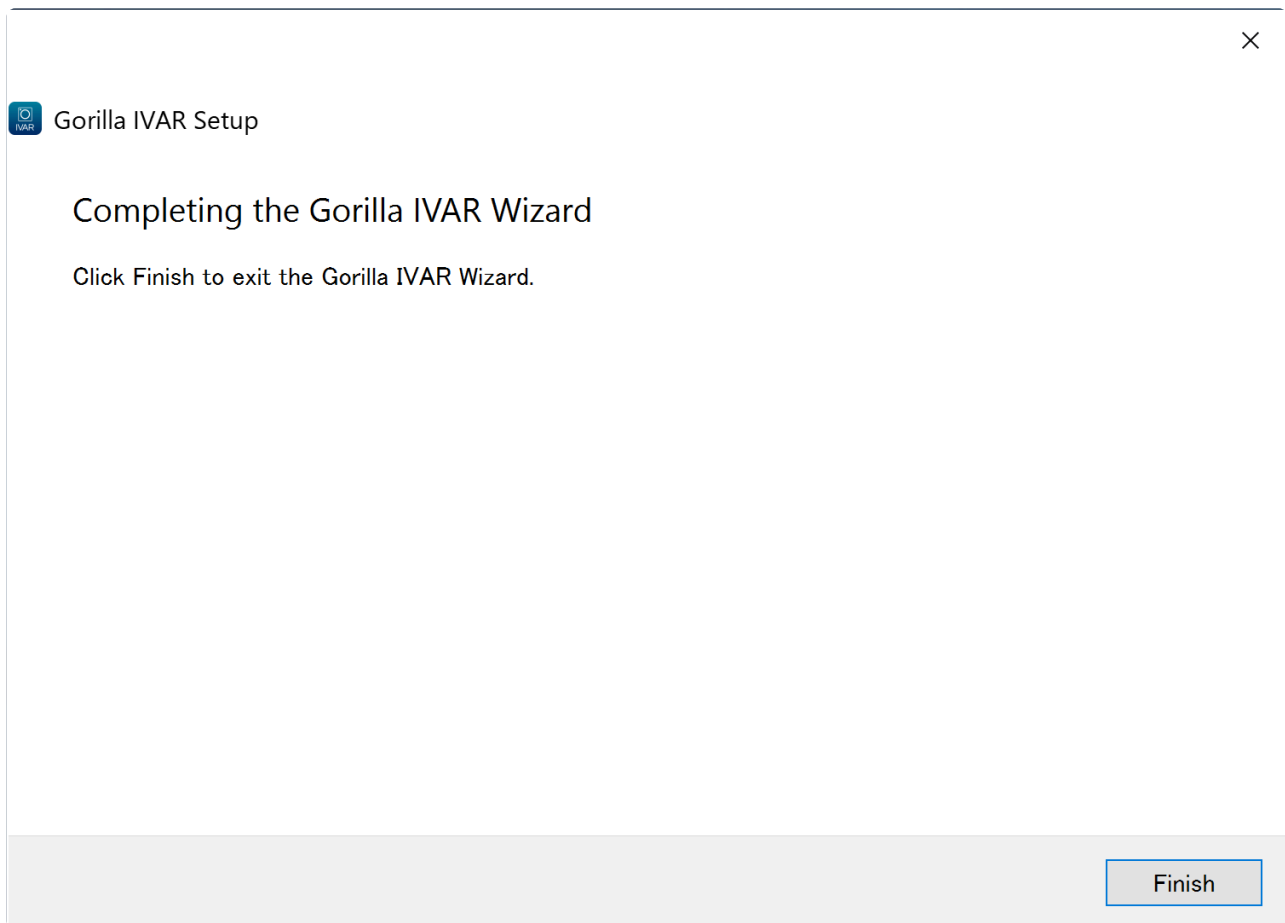


Show Details

Uninstall

Cancel

ファイルがアンインストールされます。



アンインストールが完了すると、Finish ボタンを押してください。

データフォルダの削除

IVARが使用していたデータ書きのフォルダも削除してください。

ビデオデータ	c:¥records
Gorillaデータ	c:¥Program Files¥Gorilla MMS,c:¥Program Files¥GorillaIVAR

11.4. Gravioへの接続テスト – 人数カウント

Gorilla と Gravioの連携

この章では、Gorillaのカメラ映像を画像認識処理で人数をカウントし、それをトリガとしてGravioに処理データを送信します。

Gravioでは IVARトリガを指定して任意のアクションを起動します。

準備するもの

Gorilla IVAR/BAPをインストールしているPCと、onvifカメラ1台、Gravio GS/HubKitをインストールしているPCとChromeブラウザを準備します。

GravioはEnterpriseのライセンスが必要です。また **HubKitはCoordinator**に事前に登録が必要です。

ここではonvifカメラはIO Data社のTS-NA220Wを使用します

設定の流れ

IVARのカメラ+画像認識の設定

1. IVARでonvifカメラを登録
2. 画像認識の設定
3. Liveでの画像認識の確認

GravioとIVAR連携の設定

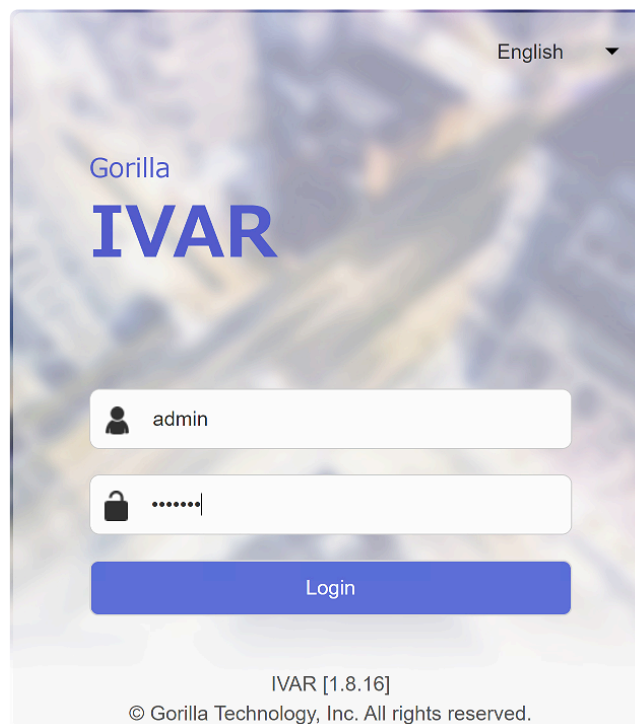
4. Gravio Studio での IVARの設定
5. イベントの登録
6. Gravio Studioでの データビューアでのイベント受信の確認

Gravio IVARトリガーの設定

7. 呼び出し用アクションの作成
8. IVARトリガーの設定
9. IVARトリガーでのアクションの実行の確認

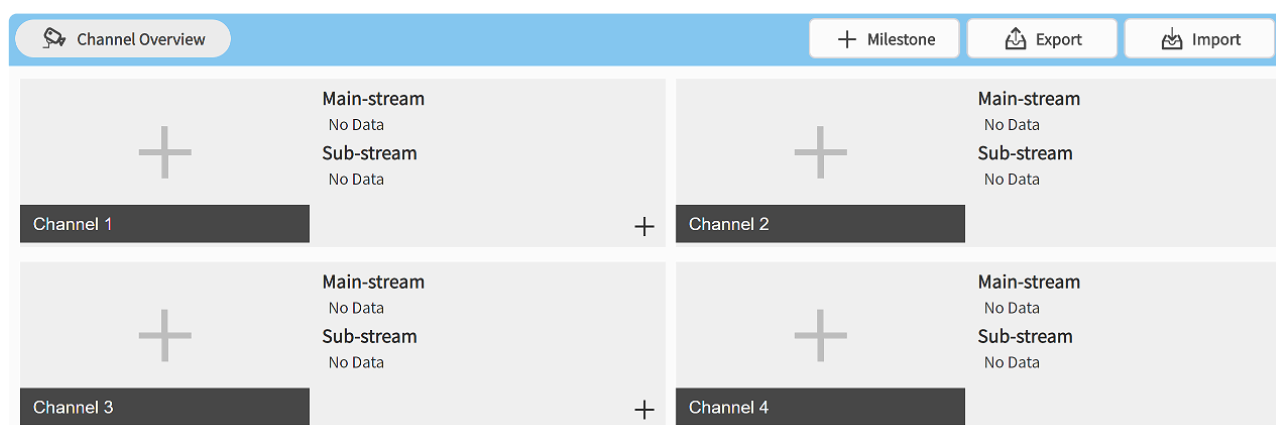
11.4.1. IVARのカメラ+画像認識の設定

IVARのカメラ+画像認識の設定



IVARにadminアカウントを使ってログインします。

1. IVARでonvifカメラを登録します



ログインするとチャンネル画面が表示されます。
+ボタンを押してチャンネル1を登録します。

The screenshot shows the 'Device' tab in the Gravio Coordinator interface. The 'Device Type' section has four radio button options: 'RTSP' (Manually add an RTSP streaming camera), 'ONVIF' (Automatically search ONVIF Profile S IP cameras), 'Video File' (Upload a video clip), and 'Capture Card/USB Camera' (Select a local streaming device). The 'ONVIF' option is selected. A 'Next' button is located at the bottom right.

使用するカメラはONVIFカメラですのでONVIFを選択して Next ボタンを押します。

The screenshot shows the 'ONVIF Device List' screen. It features a table with columns 'Item', 'IP Address', and 'Device Name'. One device is listed: Item 1, IP Address 192.168.68.140:80, Device Name IODATA%20TS-NA220W. Below the table, there is a section 'Log into the Device : Unselected' with input fields for 'IP Address', 'Username', and 'Password'. 'Back' and 'Next' buttons are at the bottom.

Item ▲	IP Address ▲	Device Name ▲
<input type="checkbox"/> 1	192.168.68.140:80	IODATA%20TS-NA220W

Log into the Device : Unselected

IP Address:

Username:

Password:

Back Next

同一ネットワークに設置されているカメラが一覧に表示されます。

This screenshot is similar to the previous one, but the first device in the 'ONVIF Device List' table is now selected, indicated by a checked checkbox and a yellow background. The 'Log into the Device' section now shows 'Log into the Device : IODATA%20TS-NA220W'. The input fields are pre-filled with '192.168.68.140' for IP Address, 'admin' for Username, and '*****' for Password.

Item ▲	IP Address ▲	Device Name ▲
<input checked="" type="checkbox"/> 1	192.168.68.140:80	IODATA%20TS-NA220W

Log into the Device : IODATA%20TS-NA220W

IP Address:

Username:

Password:

Back Next

今回はIO DATAのTS-NA220Wを使用しますので、チェックボックスをオンにしてUsernameとPasswordを入力し

て Next ボタンを押します。

Device Profile List

Item ▲	Profile Name ▲	Codec ▲	Resolution ▲
1	profile1	H264	1920 x 1080
2	profile2	H264	1280 x 720

Choose an ONVIF Profile

Main-stream: profile2 Sub-stream: Please select a profile

Main-stream: RTSP over TCP On Sub-stream: RTSP over TCP On

Enable Sub-stream Off

Back Apply

カメラで使用できるプロファイルが一覧に表示されますのでMain-streamで選択します。顔認識の場合は、解像度が高い方が望ましいためフルHD(1920×1080)を選択します。今回はテストですので profile2 を選択して Apply ボタンを押します。

Device Information

Type ONVIF

IP Address 192.168.68.140

Camera ID {177b22e7-e3bf-da55-177b-22e7e3bfda55}

MAC 34:76:C5:B6:A5:AE

Model TS-NA220W

Vendor IODATA

Version 1.03.09

File Time

Main-stream Profile profile2

Main-stream Path rtsp://192.168.68.140:20930/ipcam_h264s1.sdp

RTSP over TCP Yes

Remove Device

Video Stream Profile Settings

profile1		profile2	
Encoding	h264	Encoding	h264
H.264 Profile	Main	H.264 Profile	Main
Resolution	1920x1080	Resolution	1280x720
Frame Rate	15	Frame Rate	15

カメラが登録されました、削除する場合には Remove ボタンを押します。

View
Device
Settings
Channel:Channel

Description
Maximum Retention (in days) 7
Location
Recording Path C:
Longitude Coordinates
Latitude Coordinates
Revert Save
Revert Save

Recording Schedule

Recording Type Selection

All

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
Mon																								
Tue																								
Wed																								
Thu																								
Fri																								
Sat																								
Sun																								

All Main-stream Sub-stream Erase
Reset Revert Save

カメラの設定が完了すると自動的に映像を保存しますので、ハードディスクを圧迫しないようにテストでは映像を保存しないように設定を変更します。

Settingボタンを押して、下にある Recording Schedule を開きます。

Recording Schedule

Recording Type Selection

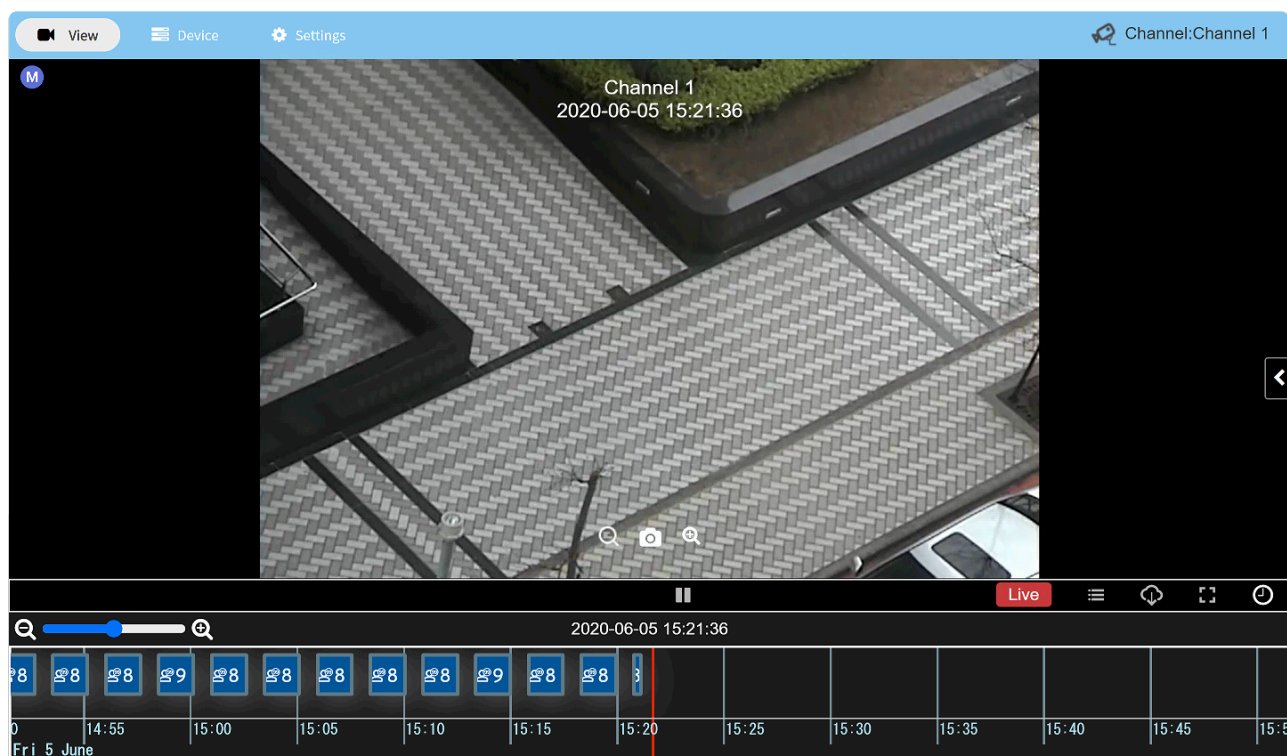
Erase

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
Mon																								
Tue																								
Wed																								
Thu																								
Fri																								
Sat																								
Sun																								

All Main-stream Sub-stream Erase
Reset Revert Save

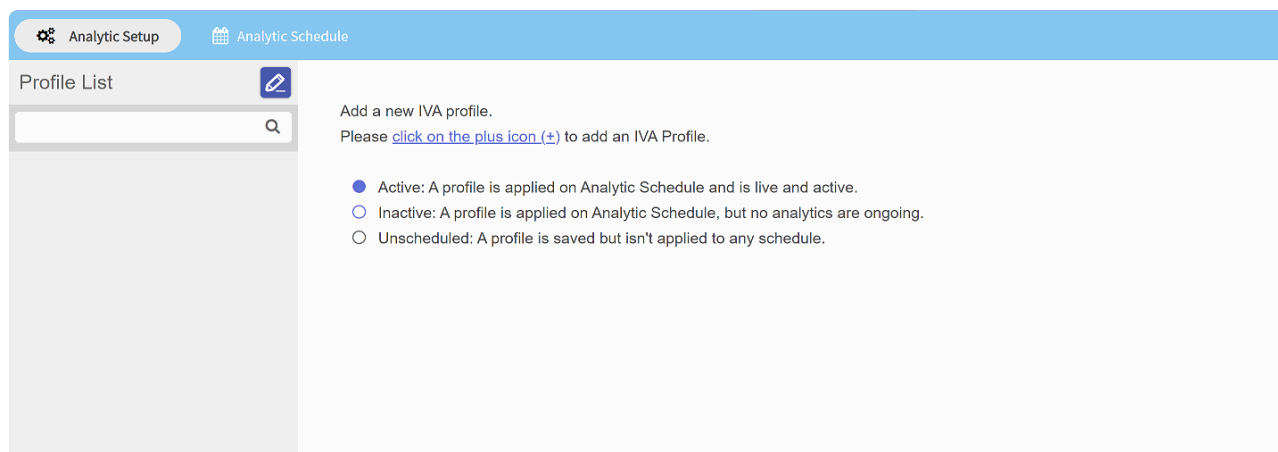
Recording Type Selectionで Erase を選択してからMain-stream(黄色)が録画されているのを範囲を指定して解除(白色)にします。

Save ボタンを押すと設定が変更されます。



View ボタンを押してライブ映像に切り替えます。

2. 画像認識の設定

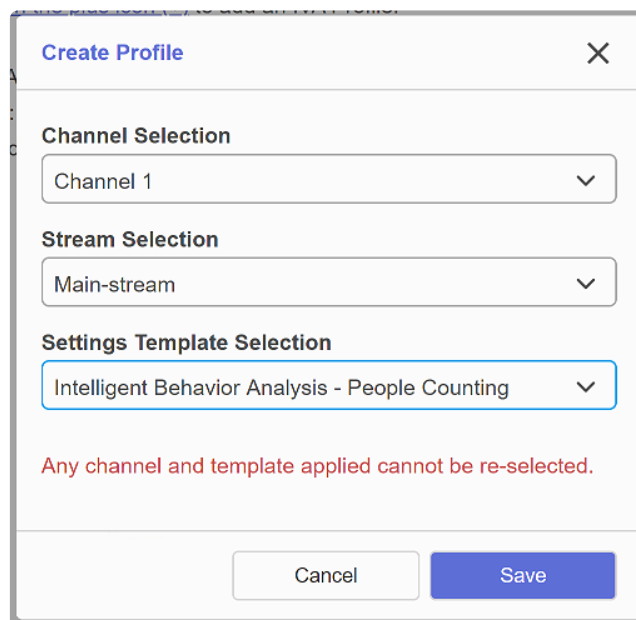


続いて画像認識の設定を行います。今回はテストとしてカメラに写る人の数を数える People Count の設定を行います。

他にもユーザを事前に登録しておく顔認識やユーザの行動遷移を認識する機能もあります。

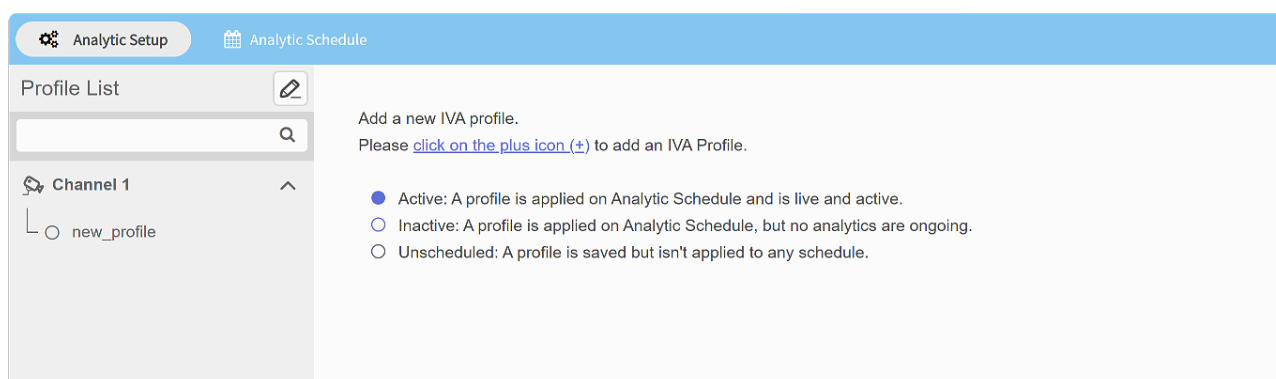
IVA Setup メニューから Analytic Setup を開きます。

左下の+ボタンか click on the plus icon (+) リンクをクリックしてください。



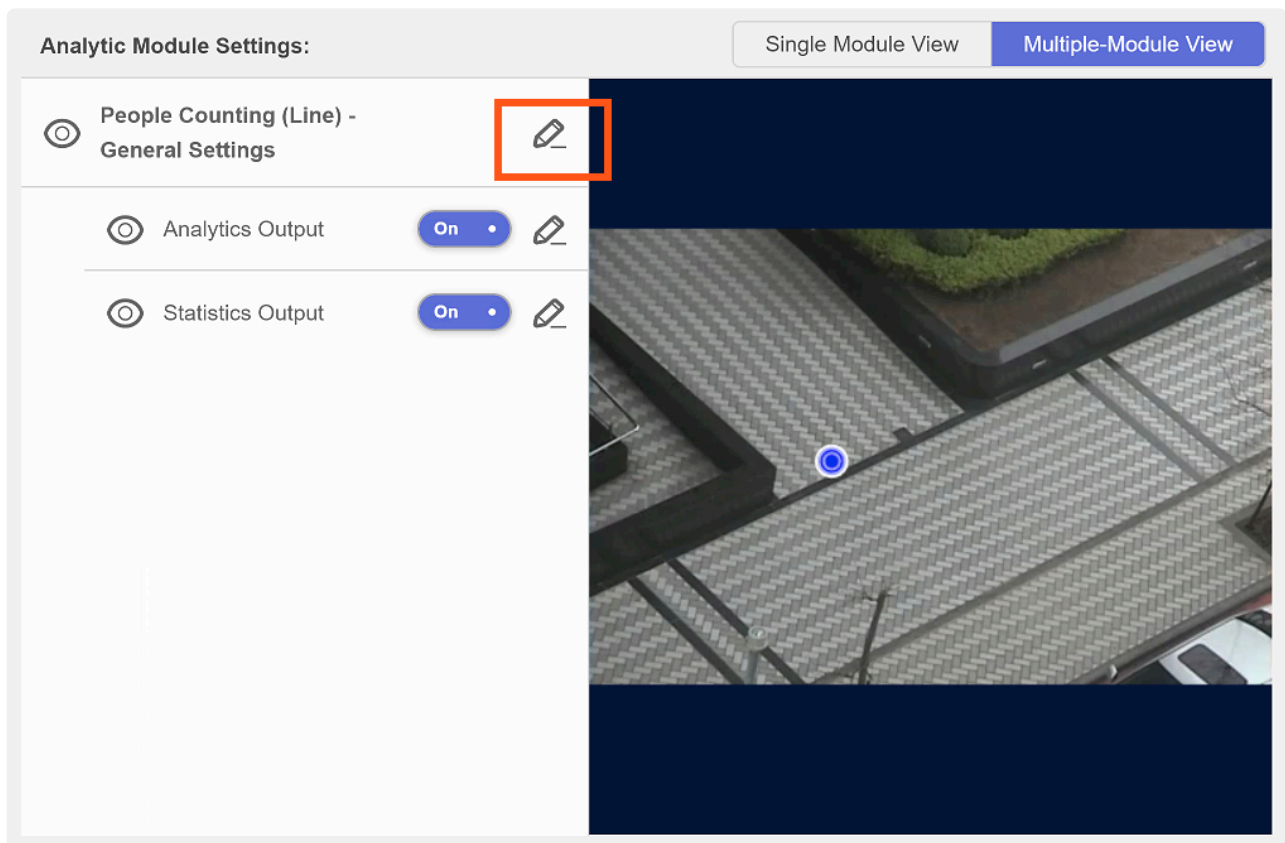
The 'Create Profile' dialog box contains three dropdown menus: 'Channel Selection' with 'Channel 1' selected, 'Stream Selection' with 'Main-stream' selected, and 'Settings Template Selection' with 'Intelligent Behavior Analysis - People Counting' selected. Below these is a red error message: 'Any channel and template applied cannot be re-selected.' At the bottom are 'Cancel' and 'Save' buttons.

Create Profile で Channel Selection は Channel 1 を、Settings Template Selection は Intelligent Behavior Analysis – People Count を選択して Save ボタンを押して保存します。



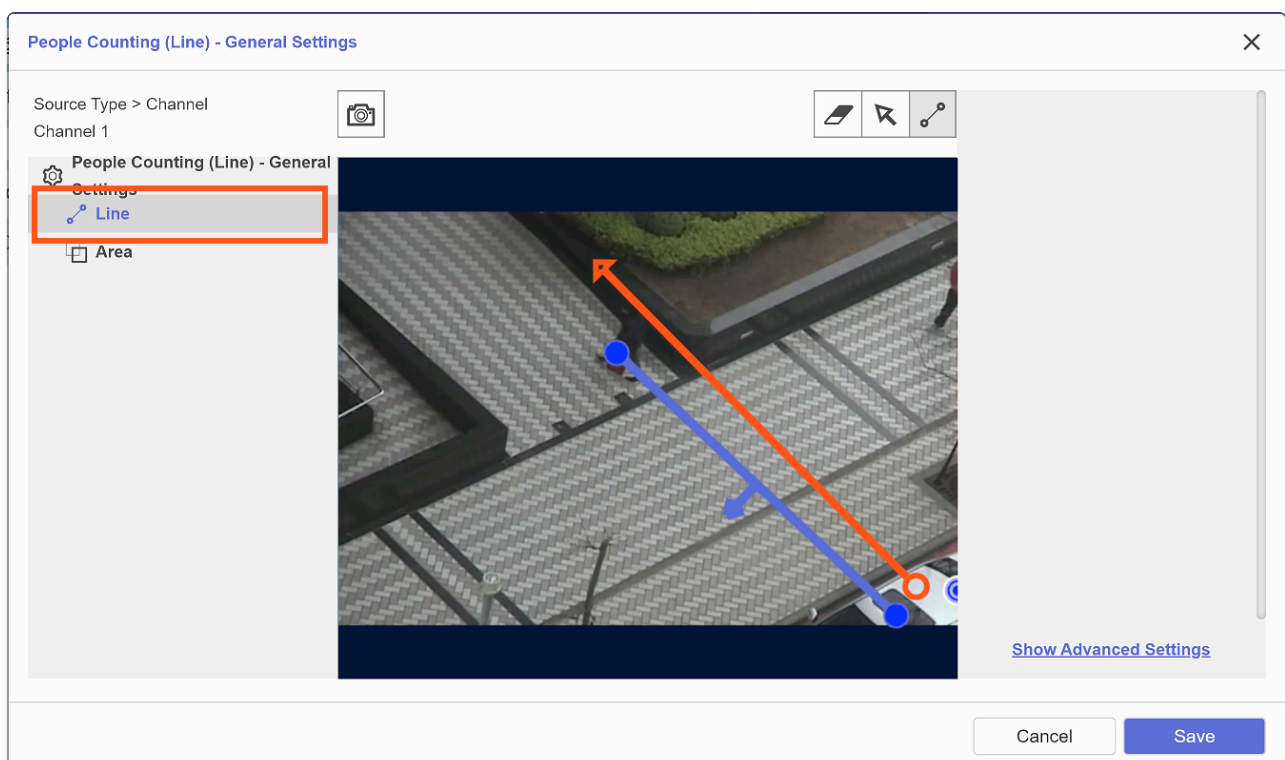
The 'Analytic Setup' interface shows a 'Profile List' on the left with a search bar and a list containing 'Channel 1' and 'new_profile'. The main area has a heading 'Add a new IVA profile.' and a note: 'Please [click on the plus icon \(+\)](#) to add an IVA Profile.' Below this are three radio buttons: 'Active' (selected), 'Inactive', and 'Unscheduled', each with a descriptive text.

保存すると左の Channel 1 に new_profile が表示されますので選択します。

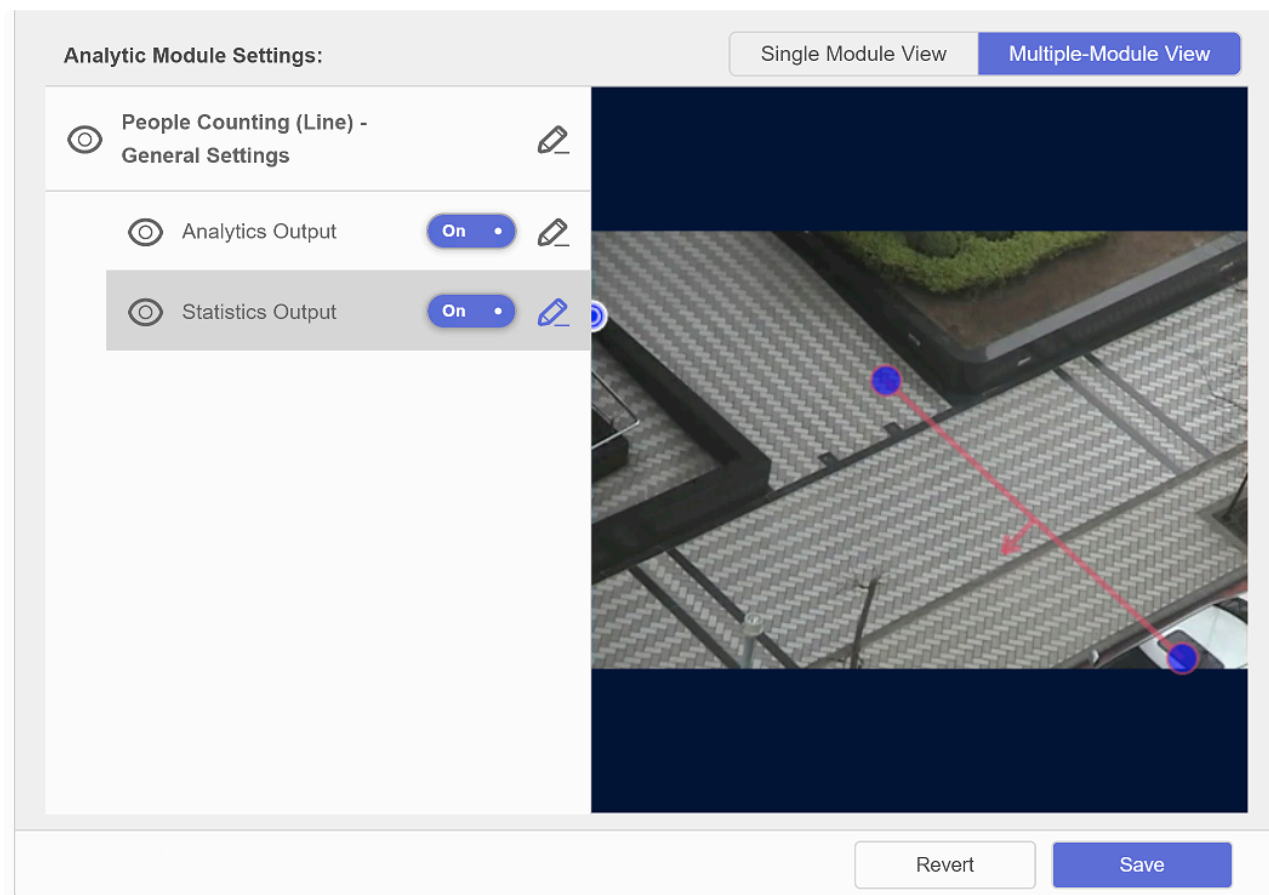


People Count が有効となる条件を設定します。テストでは認識するラインを設定して、そのラインを超えて移動する人の数を数えます。

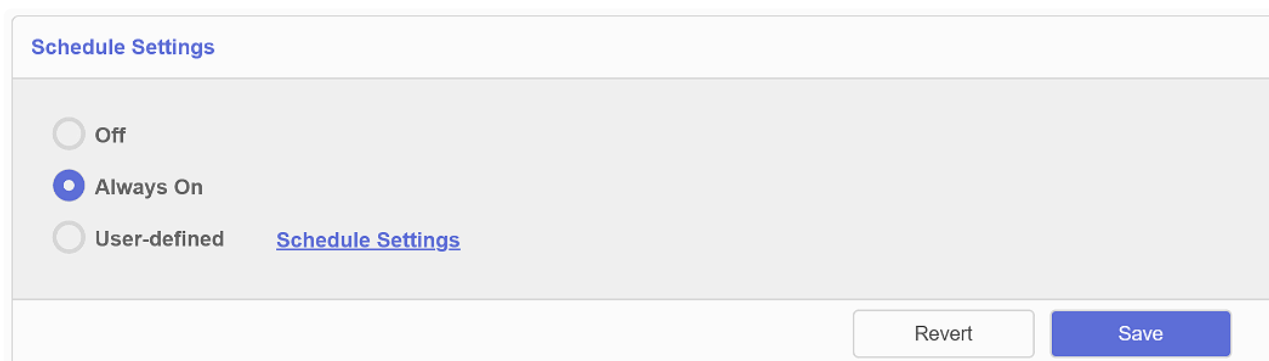
鉛筆のアイコンをクリックします。



LINE を選択して、映像の認識する箇所にマウスで線を引きます。確定はダブルクリックです。
線を引く向きによって線を左から右に越えたときか、右から左に超えたときかの指定が出来ます。
テストでは線を右から左に超えたときの設定です。
Save ボタンを押して保存します。



認識する設定条件を確認して Save ボタンを押して保存します。



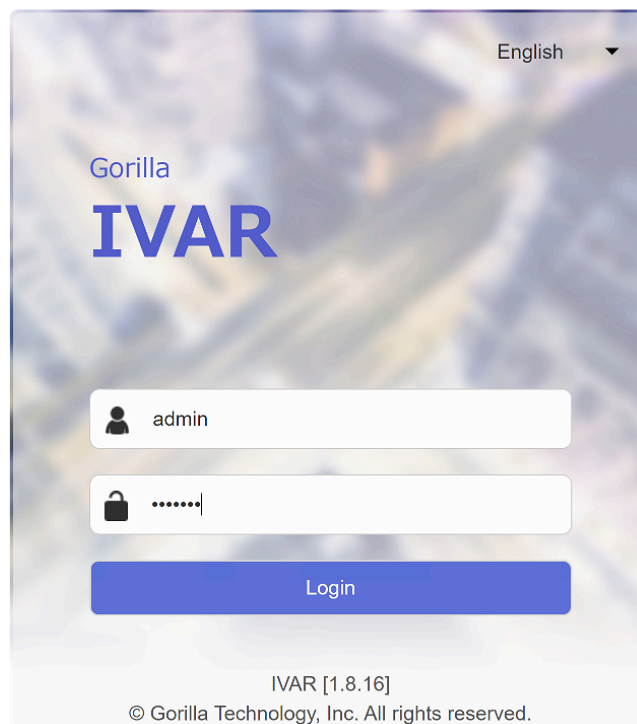
設定を有効にするために Schedule Settings は Always On を選択して Save ボタンを押します。

3. Liveでの画像認識の確認

Channels メニューから Channel 1 を開いて View を選択するとライブ映像が表示されます。
右側にカメラの映像を認識してPurple Count のイベントが発生すると表示されます。

11.4.2. GravioとIVAR連携の設定

GravioとIVAR連携の設定

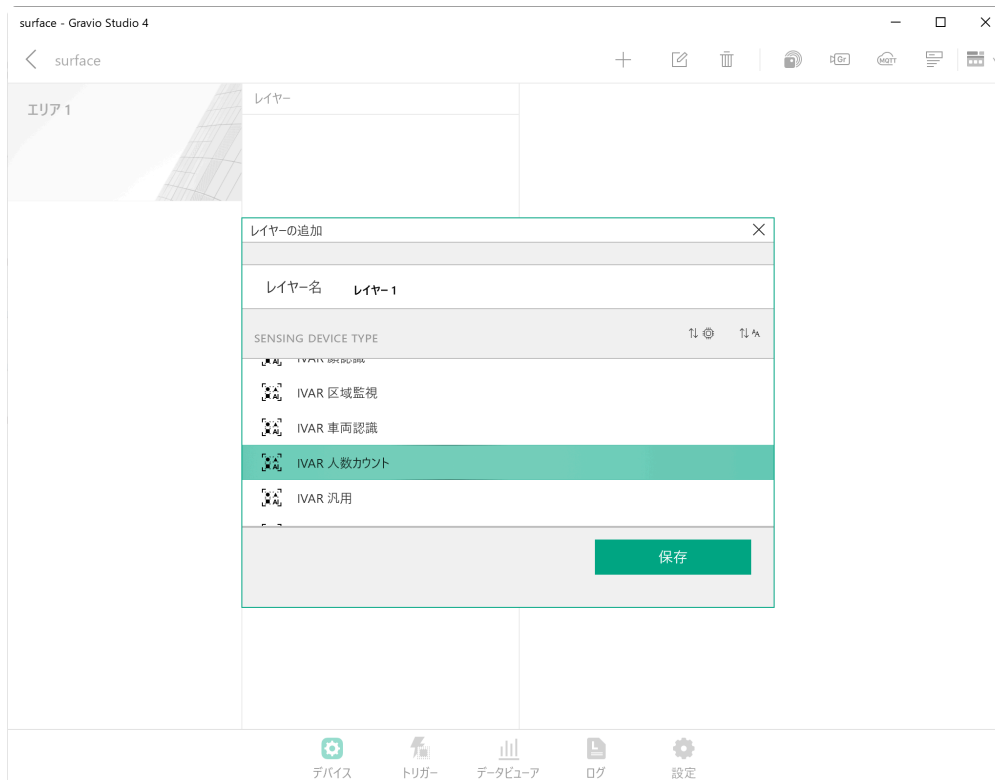


IVARにadminアカウントを使ってログインします。

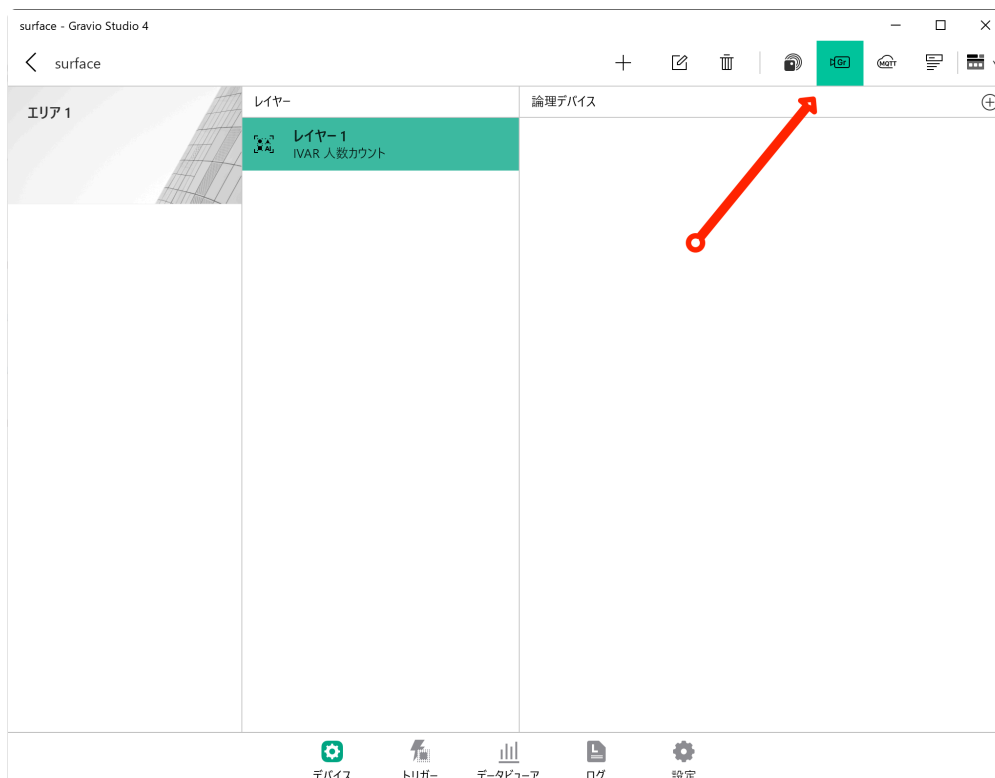
4. Gravio Studio での IVARの設定

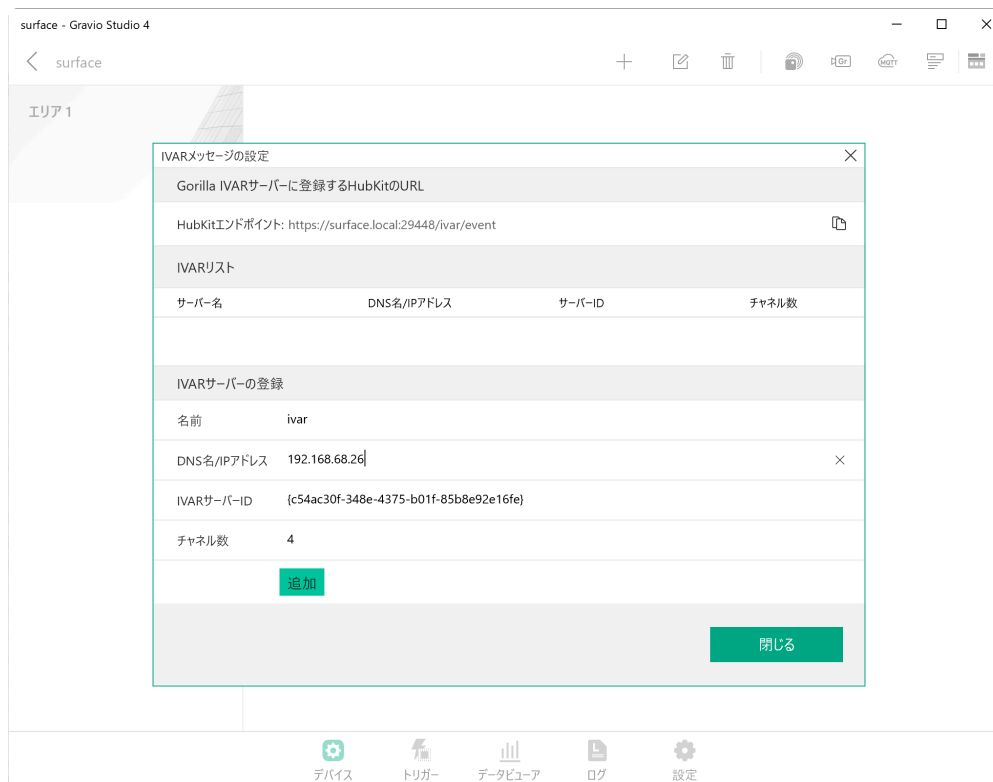
i About Basic Accounts Maintenance Service Connections	
IVAR Information	
ID	{c54ac30f-348e-4375-b01f-85b8e92e16fe}
Version	ivar-1.8.16.42905-std-win-x86_64
Total Channels	8
Maximum Analytic Channels	2
Analytic Core Channels	All : 1 Business Intelligence : 0 Human Detection : 1 Behavior Analysis : 0 License Plate : 0
Analytic Channel Expiry Date	2099-01-01 21:00:00
Analytic Core Version	BI-CORE v2.3.3 FDR-CORE v6.7.0 IPM-CORE v3.3.0 ODC-CORE v1.5.0 LPR-CORE v5.8.1 MMS/MMSC v1.3.1
General Settings	
IVAR Name	Gorilla IVAR
Physical Address	
Latitude	
Longitude	
Description	
<div>Revert Save</div>	
License	
Product Key	
Details	License Check Verified
Expiry Date	
<div>Deactivate Resync</div>	
System Information ⓘ	

System メニューを選択して About メニューを開きます。
IVAR Information の ID を {} を含めてコピーします。



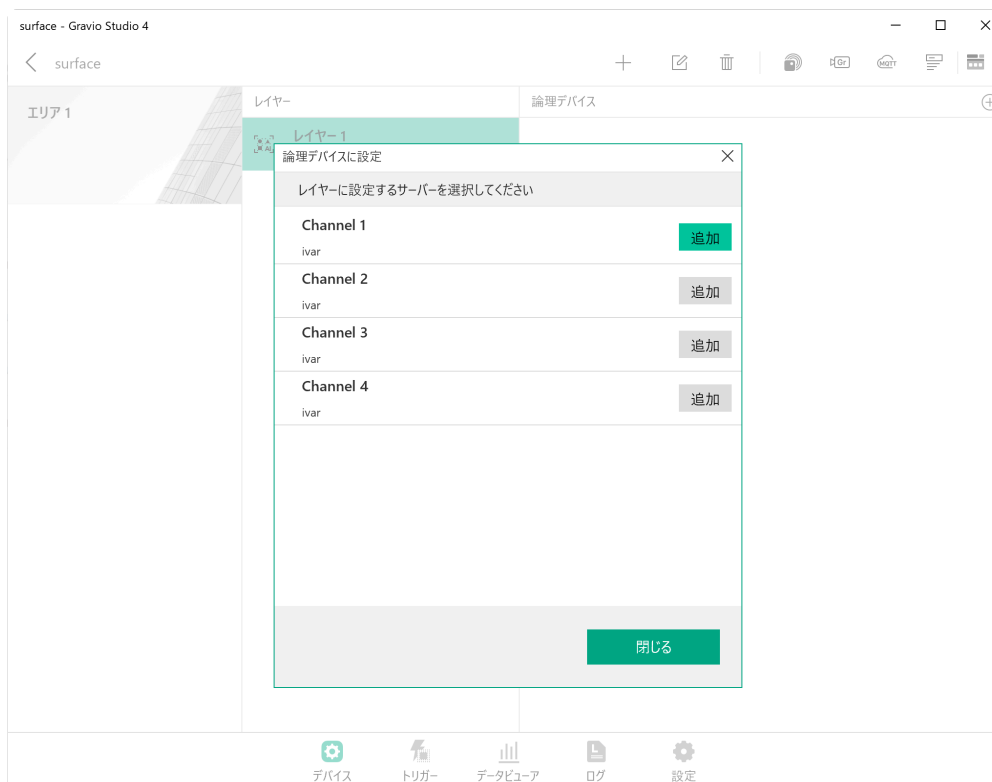
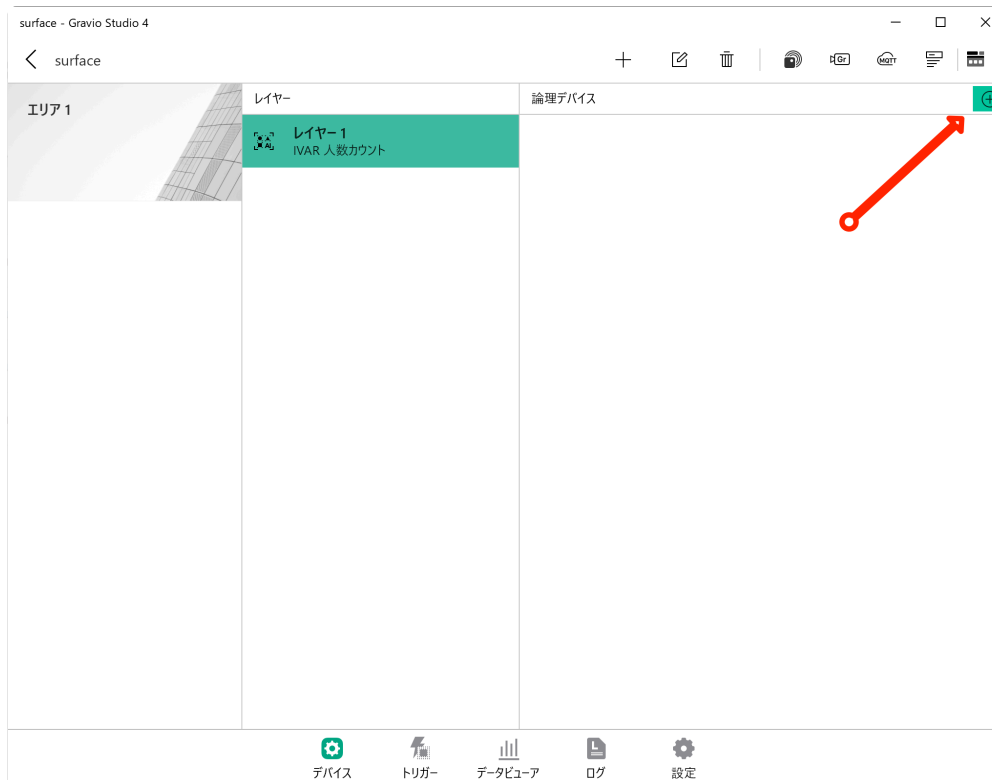
Gravio Studio のデバイスタブを選択してエリアとレイヤーを追加します。
レイヤーは IVAR 人数カウントを選択して保存ボタンを押します。

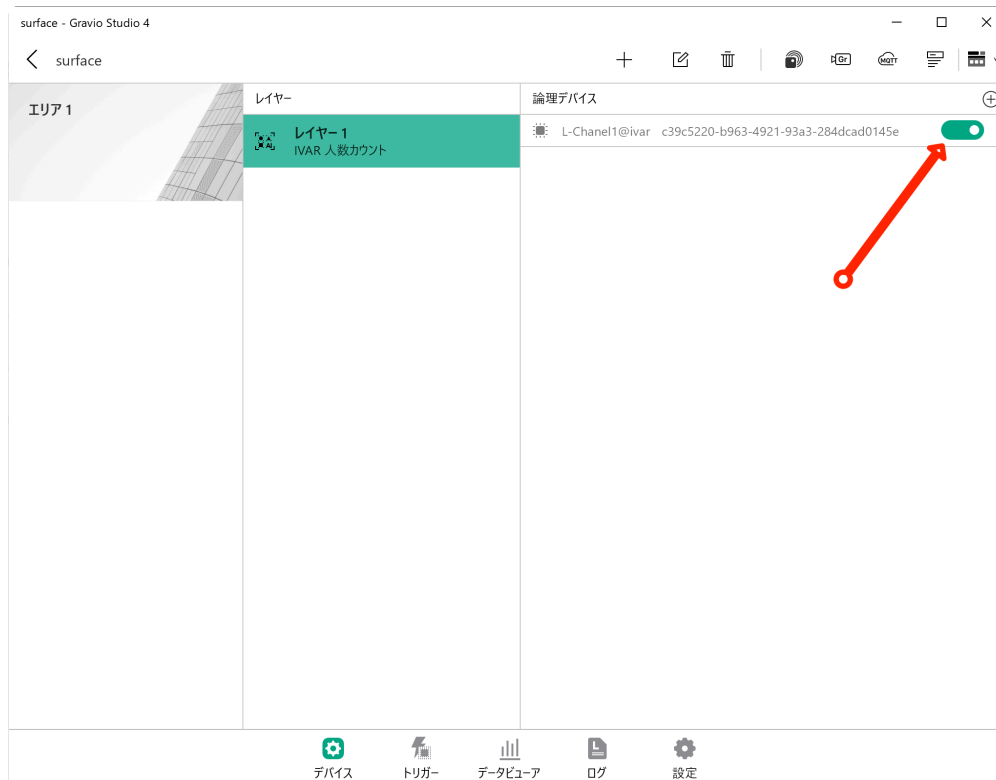




Gravio Studio から HubKit を選択してデバイスパネルから IVAR メッセージの設定画面を開きます。
DNS名前/IPアドレスを追加には IVAR/BAP がインストールされている PC のアドレスを入力します。
IVARサーバーIDを追加には、先ほどコピーした ID をペーストします。
追加ボタンを押すと登録されます。
続いて HubKit エンドポイント を右側のコピーボタンをクリックしてコピーします。

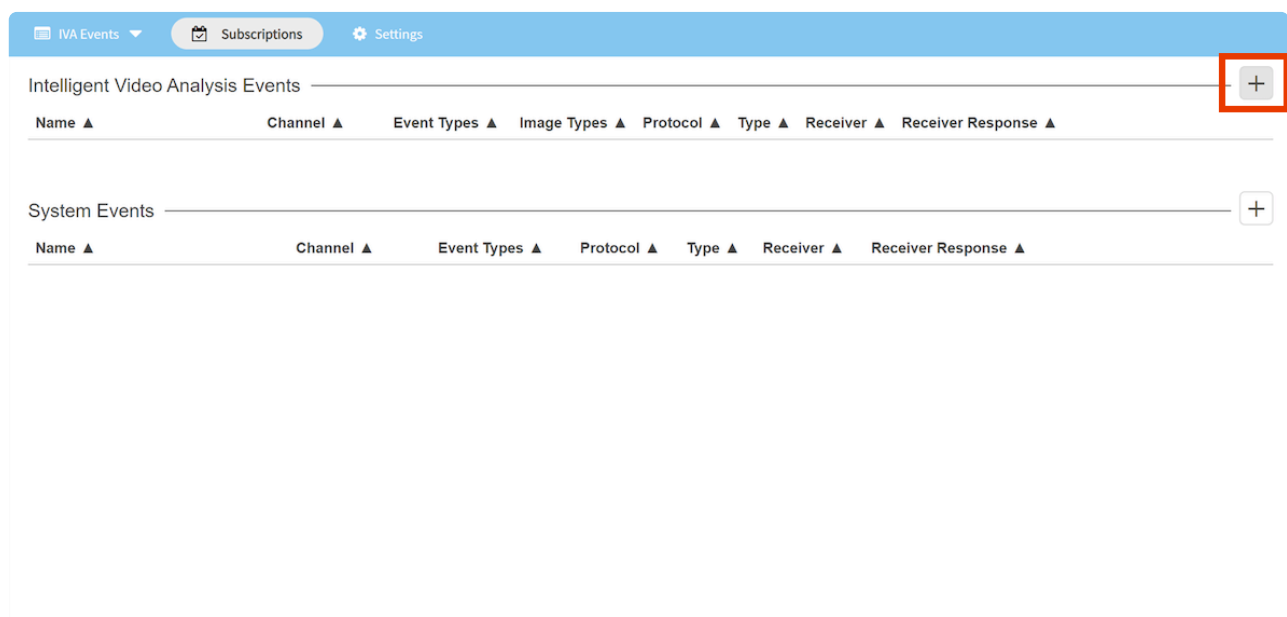
5. デバイスの登録





レイヤーにチャンネルをバインドして、保存された IVAR のレイヤーを有効にします。
GravioでのIVARの設定につきましては[こちら](#) もあわせて参照してください。

6. Gorilla IVARでのGravioのSubscriptionの登録



IVARの Events を選択して Subscriptions を開きます
+ボタンを押します。

Intelligent Video Analysis

X

Name

Event Subscription Name

Enable

On

Channel

Unspecified Channel

Event Types

Event Type Selection

Human Detection [Snapshot Alert], Human Detection [Quality-assured Snapshot Alert], Face Recognition [Snapshot/Known Person], Face Recognition [Quality-assured Snapshot Alert], Face Recognition [Snapshot/Unknown Person], License Plate Recognition, Intrusion Detection [Triggered Event Alert], Intrusion Detection [Cleared Event Alert], Line Crossing [Triggered Event Alert], Line Crossing [Cleared Event Alert]

Type

JSON

Format

1

Event Types

☒ All Events

☒ Human Detection [Snapshot Alert]

☒ Human Detection [Quality-assured Snapshot Alert]

☒ Face Recognition [Snapshot/Known Person]

☒ Face Recognition [Quality-assured Snapshot Alert]

☐ Face Recognition

Cancel

Save

Enable にして Event Types Selection を開き All Events を選択します。

Intelligent Video Analysis

Name

Event Subscription Name

Enable

On

Channel

Unspecified Channel

Event Types

Event Type Selection

Human Detection [Snapshot Alert], Human Detection [Quality-assured Snapshot Alert], Face Recognition [Snapshot/Known Person], Face Recognition [Quality-assured Snapshot Alert], Face Recognition [Snapshot/Unknown Person], License Plate Recognition, Intrusion Detection [Triggered Event Alert], Intrusion Detection [Cleared Event Alert], Line Crossing [Triggered Event Alert], Line Crossing [Cleared Event Alert], General Direction [Triggered Event Alert], General Direction [Cleared Event Alert], Loitering Detection [Triggered Event Alert], Loitering Detection [Cleared Event Alert], Direction Violation [Triggered Event Alert], Direction Violation [Cleared Event Alert]

Type

JSON

Format

1

Protocol

HTTPS

URL

https://gravio.local:29448/ivar/event

Add Headers

Basic Authentication Username

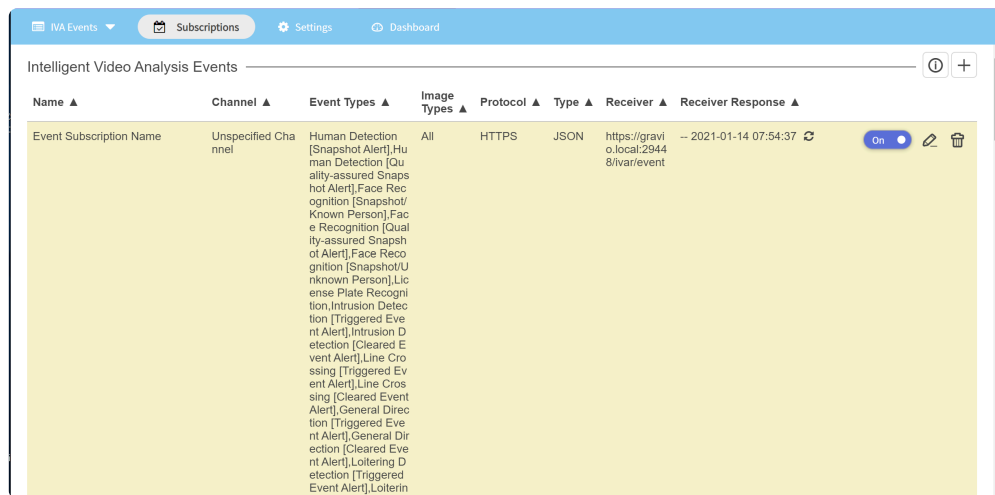
Basic Authentication Password

Personal Confirmation

Cancel

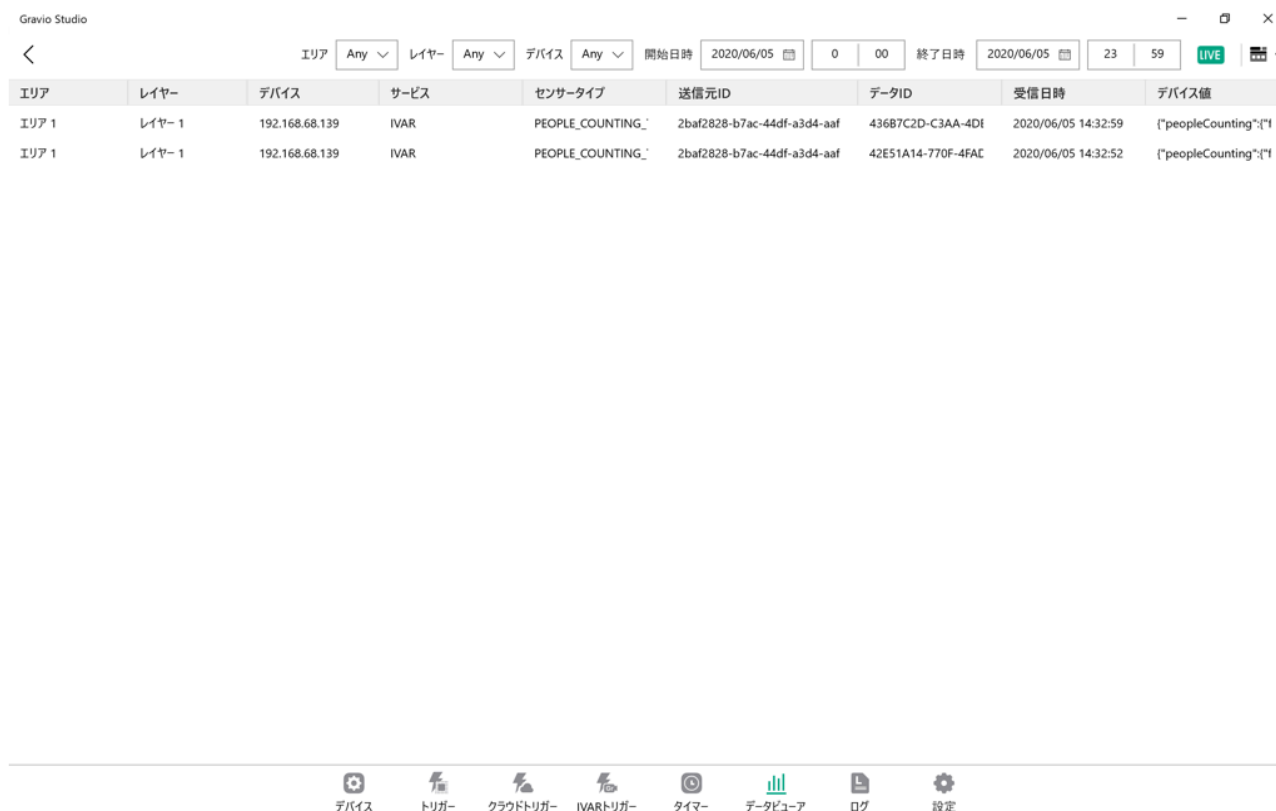
Save

Protocol を HTTPS に変更して、URL に先ほどコピーした HubKit Endpoint をペースとします。
Save ボタンを押して保存します。



保存されるとイベント一覧に表示されます。
削除する場合にはゴミ箱のアイコンをクリックします。

7. Gravio Studioでの データビューアでのイベント受信の確認



データビューアを開き IVAR からイベントが送信されていることを確認します。

11.4.3. Gravio IVARトリガーの設定

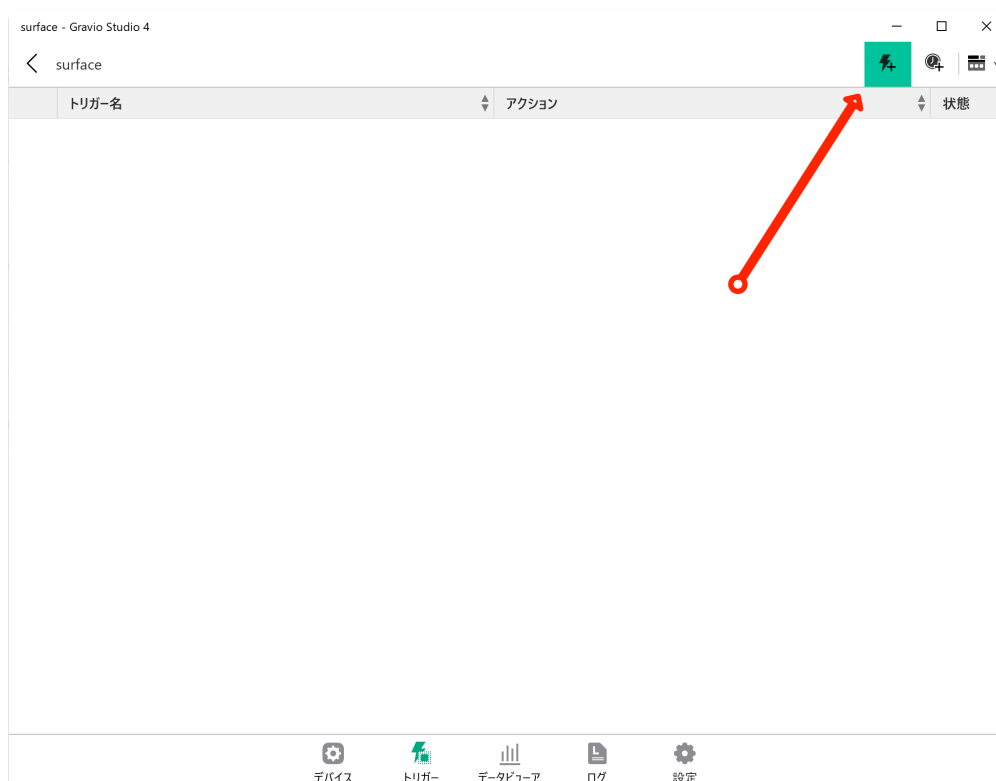
Gravio IVARトリガーの設定

7. 呼び出し用アクションの作成

IVARトリガーで呼び出すアクションを作成します。

テストでは Slack コンポーネントを配置したAlarm アクションを作成します。

8. IVARトリガーの設定



surface - Gravio Studio 4

< surface

トリガー名 アクション 状態

デバイストリガーの追加

トリガー名 新規イベントトリガー 1

エリア エリア 1

時間

条件

アクション

カレンダー なし

☐ 有効時間を指定する

開始 9 00 終了 17 00

間隔(ミリ秒) 5000

☐ 閾値によるトリガーを利用

☐ 実行中ならスキップする

キャンセル 保存

デバイス トリガー データビュー ログ 設定

surface - Gravio Studio 4

< surface

トリガー名 アクション 状態

デバイストリガーの追加

トリガー名 新規イベントトリガー 1

エリア エリア 1

時間

条件

アクション

次の条件を満たす場合に実行されます

条件数: 0/5

And

追加

キーレイヤー: レイヤー 1

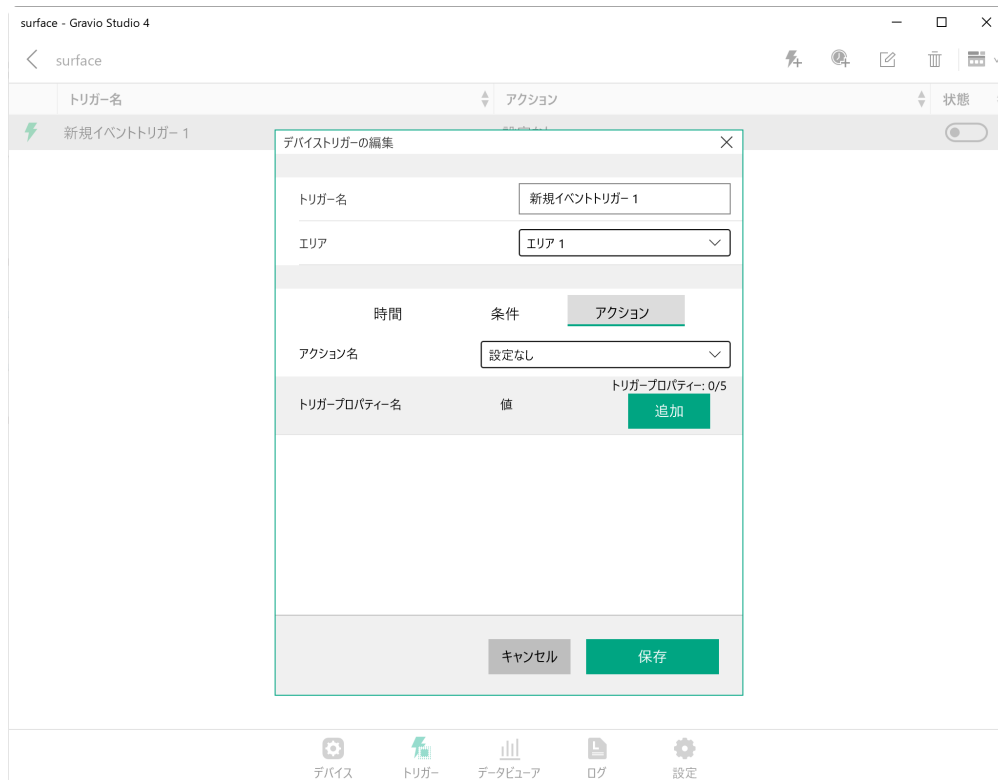
物理デバイスID:

イベントタイプ 任意のイベント

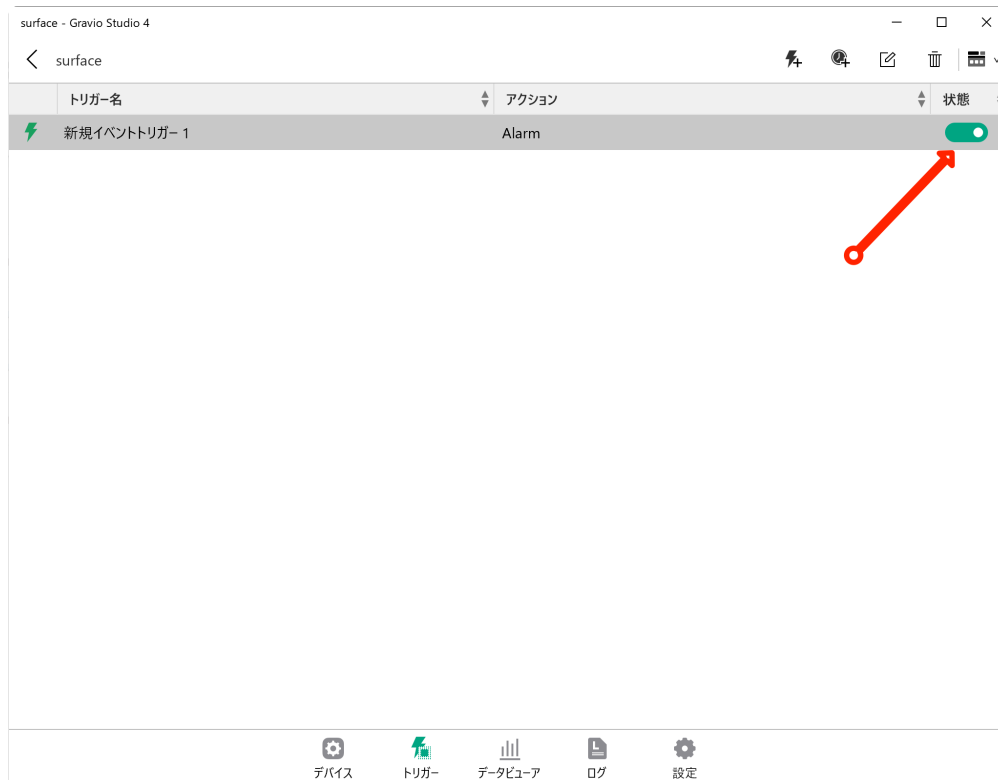
式

キャンセル 保存

デバイス トリガー データビュー ログ 設定



トリガータブを選択して+ボタンを押して新しいIVARTリガーを追加を開きます。
エリア、レイヤーを設定値に合わせて選択して、イベントタイプは 任意のイベント を選択します。
アクションは作成している Alarmアクションを選択します。
保存ボタンを押して保存します。
Gravioでのトリガーの設定につきましては[こちら](#) もあわせて参照してください。



保存した IVARトリガーを有効にします。

9. IVARトリガーでのアクションの実行の確認

有効にして IVARトリガー条件にマッチするイベントが IVARから送信されたタイミングで指定のアクションが実行されます。

テストでは AlarmアクションにはSlack コンポーネントを配置していますので、Slack に通知が届きます。

11.5. Gravioへの接続テスト – 顔認識

Gorilla と Gravioの連携

この章では、Gorillaのカメラ映像を画像認識処理で人数をカウントし、それをトリガとしてGravioに処理データを送信します。

Gravioでは IVARトリガを指定して任意のアクションを起動します。

準備するもの

Gorilla IVAR/BAPをインストールしているPCと、onvifカメラ1台、Gravio GS/HubKitをインストールしているPCとChromeブラウザを準備します。

GravioはEnterpriseのライセンスが必要です。また **HubKitはCoordinator**に事前に登録が必要です。

ここではonvifカメラはIO Data社のTS-NA220Wを使用します

設定の流れ

BAPの設定

1. グループを作成
2. ユーザを作成

IVARのカメラ+顔認識の設定

3. IVARでonvifカメラを登録
4. 顔認識の設定
5. Liveでの顔認識の確認

GravioとIVAR連携の設定

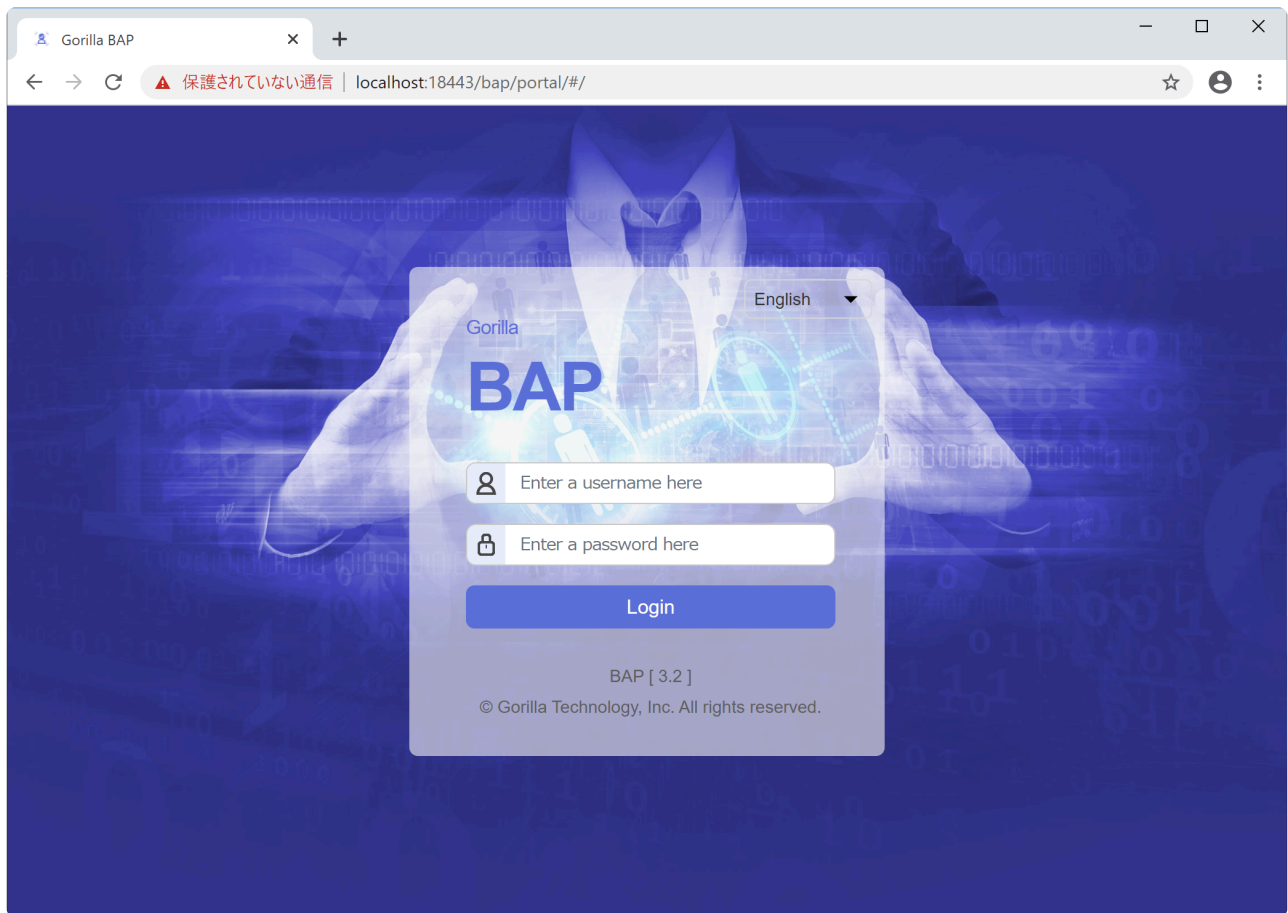
6. Gravio Studio での IVARの設定
7. イベントの登録
8. Gravio Studioでの データビューアでのイベント受信の確認

Gravio IVARトリガーの設定

9. 呼び出し用アクションの作成
10. IVARトリガーの設定
11. IVARトリガーでのアクションの実行の確認

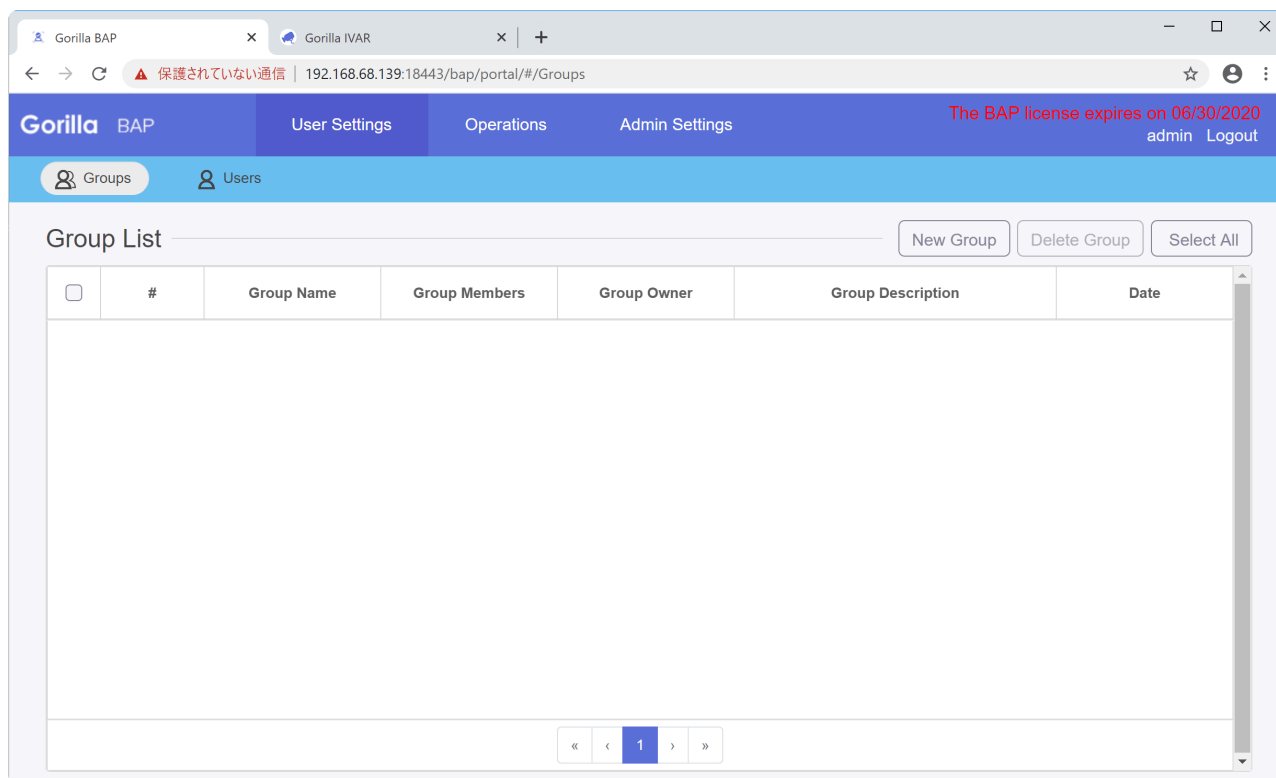
11.5.1. BAPの設定

BAPの設定

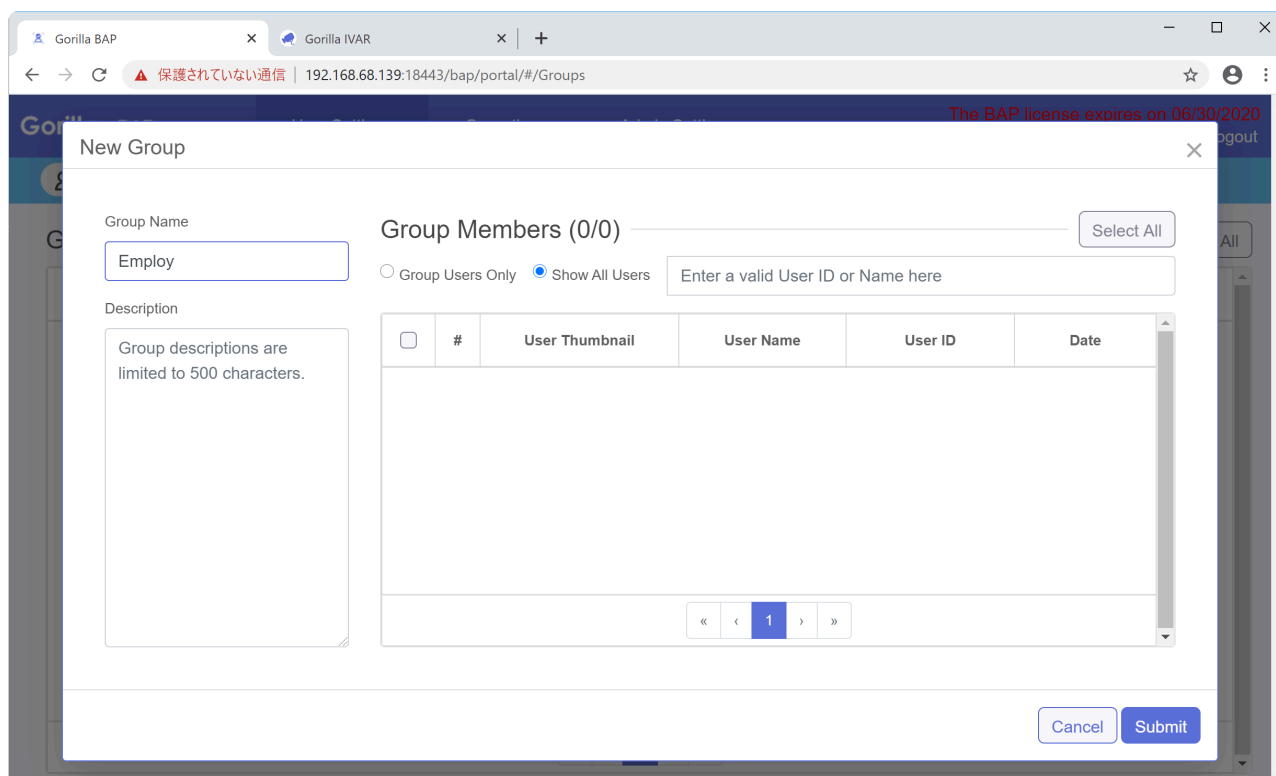


BAPにadminアカウントを使ってログインします。

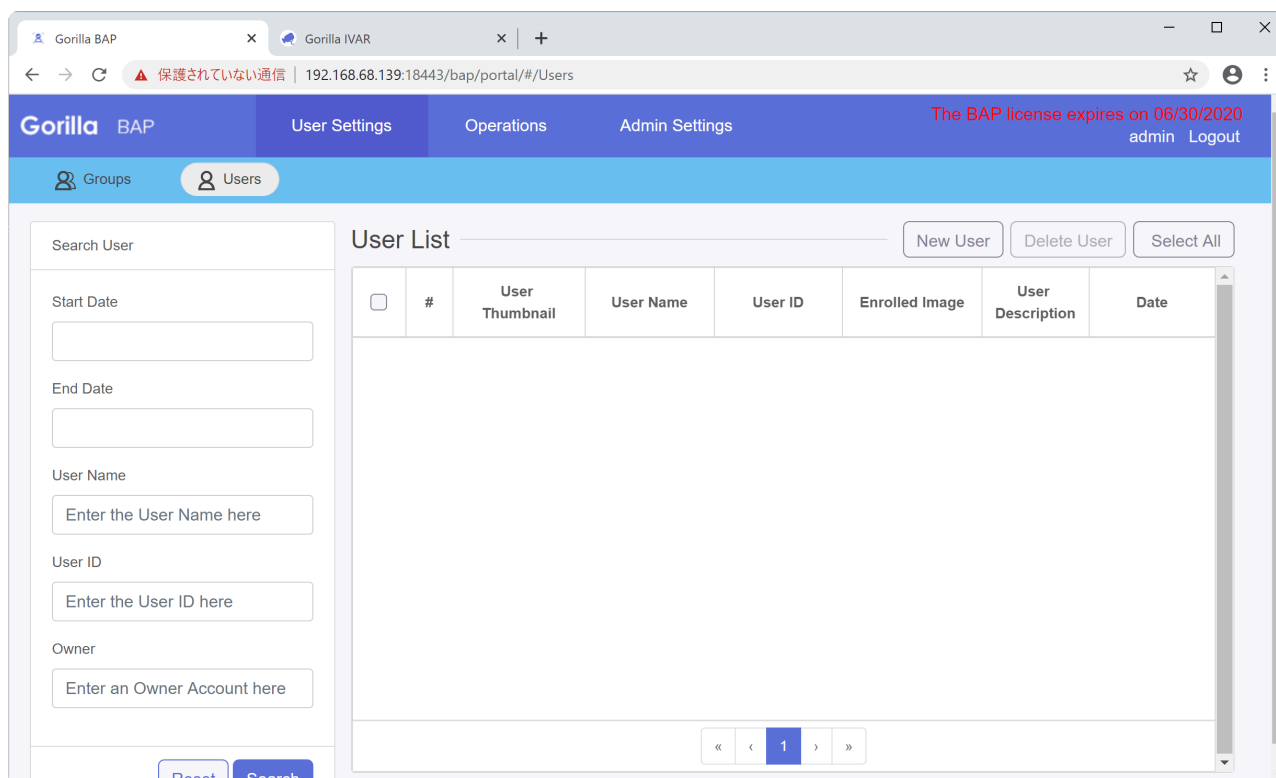
1. BAPにグループを登録します



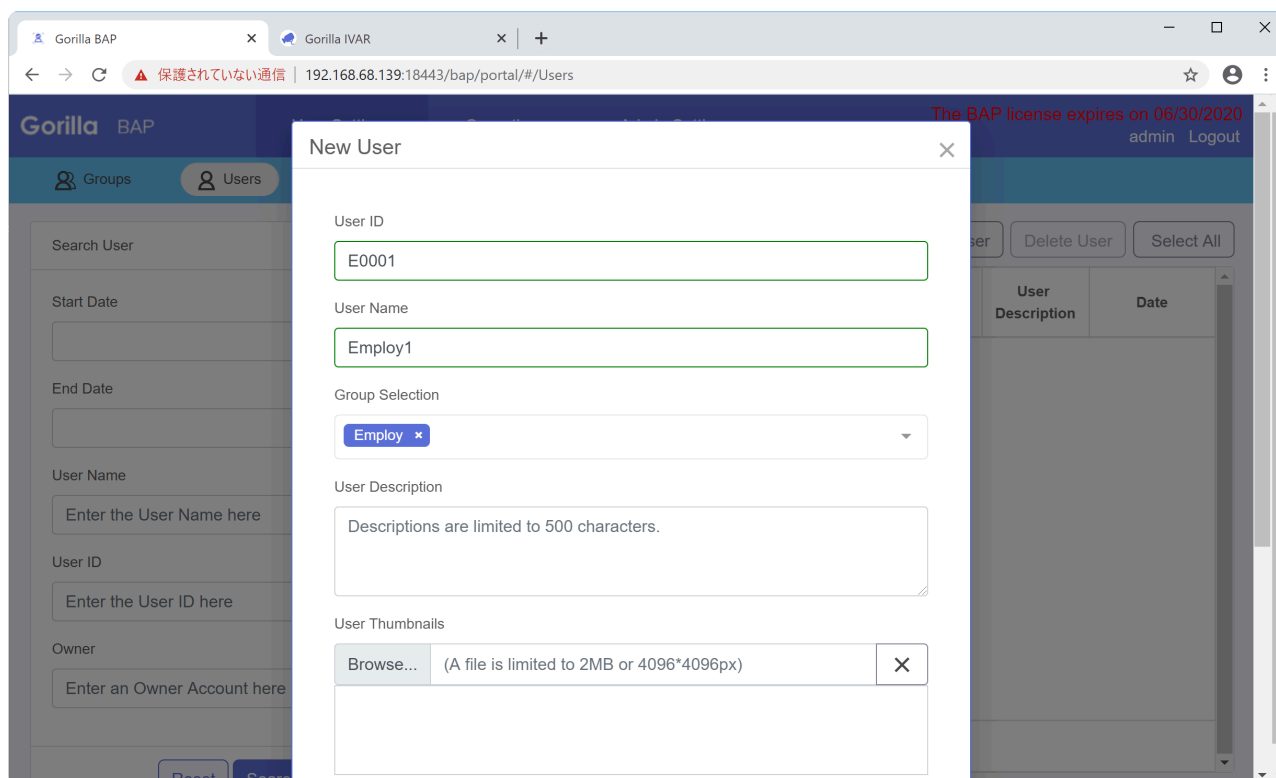
User Settings メニューから Groups を選択します。
New Group ボタンを押してグループを登録します。



Group Name にグループ名を入力します。
テストでは Employ グループを作成します。



続いて User Settings メニューから Users を選択します。
New User ボタンを押してグループを登録します。



User IDとUser Name を入力します。

テストでは E0001 と Employ1 としました。

Group Selection は先ほど作成した Employ グループを選択します。

The screenshot displays the 'Gorilla BAP' web application interface. The main content area is a modal form for updating a user profile. The form has three main sections: 'User Description' with a text area and a character limit of 500; 'User Thumbnails' with a 'Browse...' button and a file limit of 2MB or 4096*4096px; and 'Enroll Images' with a 'Browse...' button and a file limit of 2MB or 4096*4096px. Below the 'Enroll Images' section, there is a red warning message: 'Upload multiple related cropped face images of a subject. Avoid multiple faces in one image. Image size is up to 2MB, or resolution is up to 4096*4096 px.' A 'Cancel' button and an 'Update' button are at the bottom right of the form. The background shows a sidebar with 'Groups' and 'Users' tabs, a search bar, and a table of users with columns 'User Description' and 'Date'. The table has one row with the date '2020-6-19'. The top right of the sidebar shows 'BAP license expires on 06/30/2020', 'admin', and 'Logout'.

画面をスクロールして Enroll Images にこのユーザの顔写真をアップロードします。

Update ボタンを押して保存します。

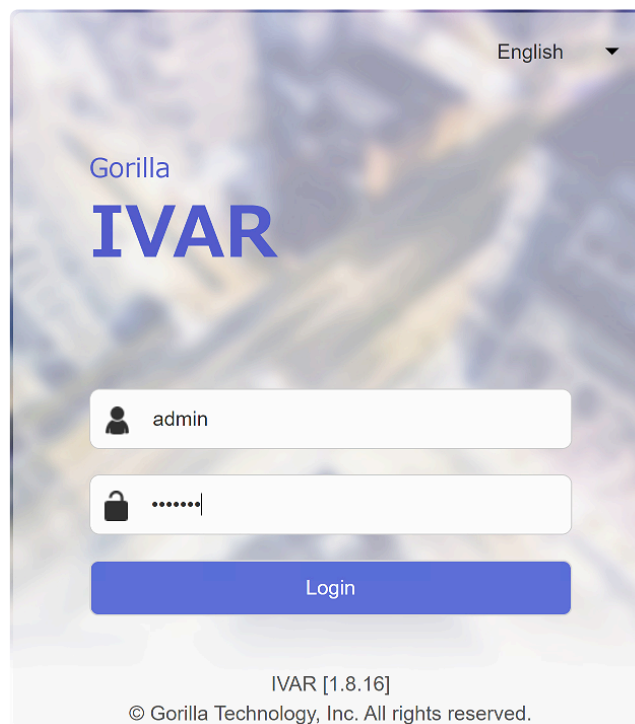
The screenshot displays the 'Gorilla BAP' web application interface. The top navigation bar includes 'User Settings', 'Operations', and 'Admin Settings'. A red banner indicates 'The BAP license expires on 06/30/2020'. The left sidebar shows 'Groups' and 'Users' tabs. The main content area is titled 'User List' and features a search sidebar on the left with fields for 'Search User', 'Start Date', 'End Date', 'User Name', 'User ID', and 'Owner'. The 'User List' table on the right has columns: '#', 'User Thumbnail', 'User Name', 'User ID', 'Enrolled Image', 'User Description', and 'Date'. It contains one user entry with ID 1, name 'Employ1', and date '2020-6-19'. The table has a pagination control at the bottom showing '1'.

#	User Thumbnail	User Name	User ID	Enrolled Image	User Description	Date
1		Employ1	E0001	False		2020-6-19

ユーザが登録されると User List に表示されます。

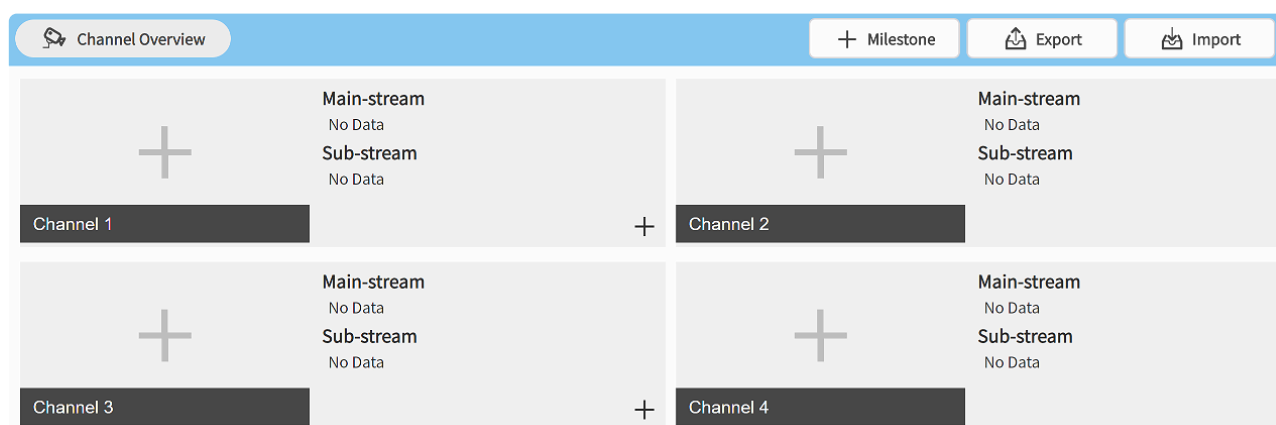
11.5.2. IVARのカメラ+顔認識の設定

IVARのカメラ+顔認識の設定



IVARにadminアカウントを使ってログインします。

1. IVARでonvifカメラを登録します



ログインするとチャンネル画面が表示されます。
+ボタンを押してチャンネル2を登録します。

The screenshot shows the 'Device' tab in the top navigation bar. Below the navigation bar, there are four radio button options for 'Device Type':

- ☐ **RTSP**
Manually add an RTSP streaming camera
- ☒ **ONVIF**
Automatically search ONVIF Profile S IP cameras
- ☐ **Video File**
Upload a video clip
- ☐ **Capture Card/USB Camera**
Select a local streaming device

At the bottom center, there is a 'Next' button.

使用するカメラはONVIFカメラですのでONVIFを選択して Next ボタンを押します。

The screenshot shows the 'ONVIF Device List' screen. It features a table with the following data:

Item ▲	IP Address ▲	Device Name ▲
<input type="checkbox"/> 1	192.168.68.140:80	IODATA%20TS-NA220W

Below the table, it says 'Log into the Device : Unselected'. There are three input fields: 'IP Address', 'Username', and 'Password'. At the bottom, there are 'Back' and 'Next' buttons.

同一ネットワークに設置されているカメラが一覧に表示されます。

This screenshot is similar to the previous one, but the first device in the table is now selected, indicated by a checked checkbox and a yellow background. The 'Log into the Device' status has changed to 'IODATA%20TS-NA220W'. The input fields are now populated with the following values:

- IP Address: 192.168.68.140
- Username: admin
- Password:

The 'Next' button is highlighted in blue.

今回はIO DATAのTS-NA220Wを使用しますので、チェックボックスをオンにしてUsernameとPasswordを入力し

て Next ボタンを押します。

The screenshot shows the 'Device Profile List' section with a table containing two profiles:

Item ▲	Profile Name ▲	Codec ▲	Resolution ▲
1	profile1	H264	1920 x 1080
2	profile2	H264	1280 x 720

Below the table is the 'Choose an ONVIF Profile' section. The 'Main-stream' dropdown is set to 'Please select a profile' (highlighted with a red box). The 'Sub-stream' dropdown is also set to 'Please select a profile'. There are toggle switches for 'Main-stream: RTSP over TCP' (On), 'Sub-stream: RTSP over TCP' (On), and 'Enable Sub-stream' (Off). At the bottom right are 'Back' and 'Apply' buttons.

カメラで使用できるプロファイルが一覧に表示されますのでMain-streamで選択します。顔認識の場合は、解像度が高い方が望ましいためフルHD(1920×1080)を選択します。今回は顔認識ですので profile1 を選択して Apply ボタンを押します。

This screenshot is similar to the previous one, but the 'Main-stream' dropdown is now set to 'profile1'. The 'Sub-stream' dropdown remains 'Please select a profile'. The 'Main-stream: RTSP over TCP' and 'Sub-stream: RTSP over TCP' toggle switches are now 'On', and 'Enable Sub-stream' is still 'Off'. The 'Back' and 'Apply' buttons are at the bottom right.

カメラが登録されました、削除する場合には Remove ボタンを押します。

View

Device

Settings

Channel:Channel

Description

Maximum Retention (in days)

7

Location

Recording Path

C:

Longitude Coordinates

Revert

Save

Latitude Coordinates

Revert

Save

Recording Schedule

Recording Type Selection

All

All

Main-stream

Sub-stream

Erase

Reset

Revert

Save

カメラの設定が完了すると自動的に映像を保存しますので、ハードディスクを圧迫しないようにテストでは映像を保存しないように設定を変更します。

Settingボタンを押して、下にある Recording Schedule を開きます。

Recording Schedule

Recording Type Selection

Erase

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
Mon																								
Tue																								
Wed																								
Thu																								
Fri																								
Sat																								
Sun																								

All

Main-stream

Sub-stream

Erase

Reset

Revert

Save

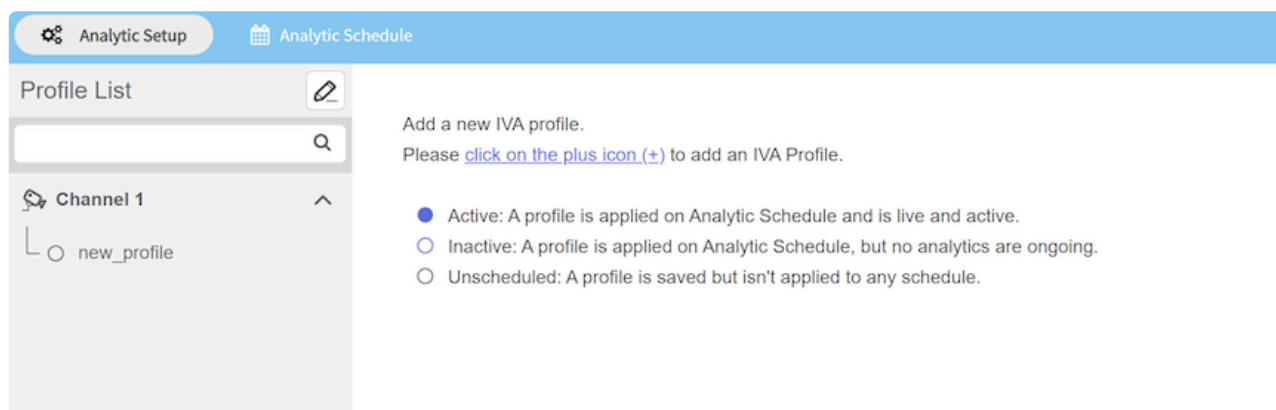
Recording Type Selectionで Erase を選択してからMain-stream（黄色）が録画されているのを範囲を指定して解除（白色）にします。

Save ボタンを押すと設定が変更されます。



View ボタンを押してライブ映像に切り替えます。

2. 顔認識の設定

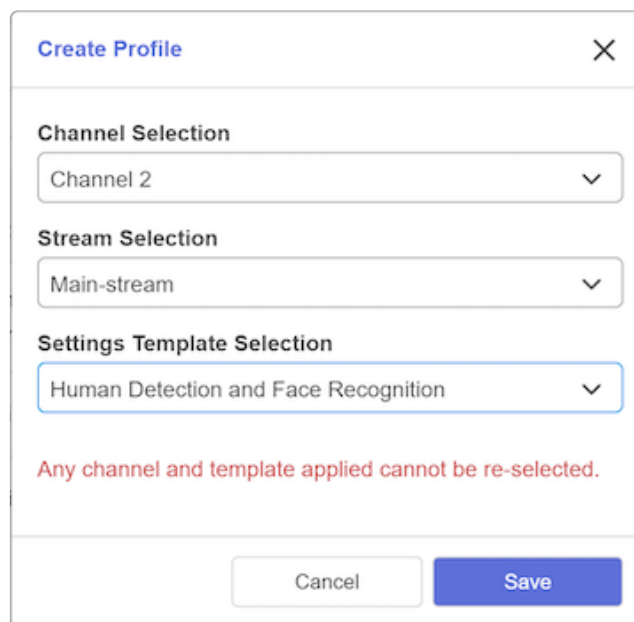


続いて顔認識の設定を行います。今回はテストとしてカメラに写る人の顔を認識する Face Recognition の設定を行います。

他にも人数を数えたりユーザの行動遷移を認識する機能もあります。

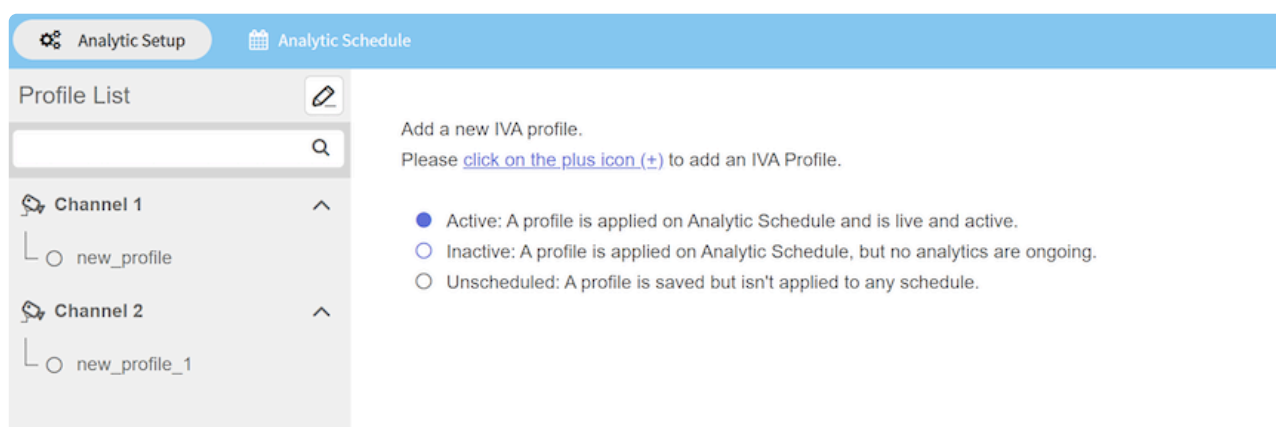
IVA Setup メニューから Analytic Setup を開きます。

左下の+ボタンか [click on the plus icon \(+\)](#) リンクをクリックしてください。



The 'Create Profile' dialog box contains three dropdown menus: 'Channel Selection' with 'Channel 2' selected, 'Stream Selection' with 'Main-stream' selected, and 'Settings Template Selection' with 'Human Detection and Face Recognition' selected. A red error message states 'Any channel and template applied cannot be re-selected.' At the bottom are 'Cancel' and 'Save' buttons.

Create Profile で Channel Selection は Channel 2 を、Settings Template Selection は Human Detection and Face Recognition を選択して Save ボタンを押して保存します。



The 'Analytic Setup' interface shows a 'Profile List' on the left with a search bar and a list of profiles under 'Channel 1' and 'Channel 2'. Under 'Channel 2', 'new_profile' is listed. On the right, instructions for adding a new IVA profile are provided, along with a legend for profile states: Active (blue dot), Inactive (blue circle), and Unscheduled (grey circle).

保存すると左の Channel 2 に new_profile が表示されますので選択します。

Profile Information


Profile Description


Profile Name:


Channel: Channel 2 Main-stream


Settings Template: Human Detection and Face Recognition

Analytic Module Settings: Single Module View Multiple-Module View

☒ **Human Detection and Face Recognition - General Settings** 

☒ Human Detection Off 

☒ Face Recognition On 





Human Detection and Face Recognition が有効となる条件を設定します。テストでは認識する範囲を設定します。


鉛筆のアイコンをクリックします。


Human Detection and Face Recognition - General Settings ×

Source Type > Channel
Channel 2



 **Human Detection and Face Recognition - General Settings**

 Area



Gender Detection On

Eyewear Detection On

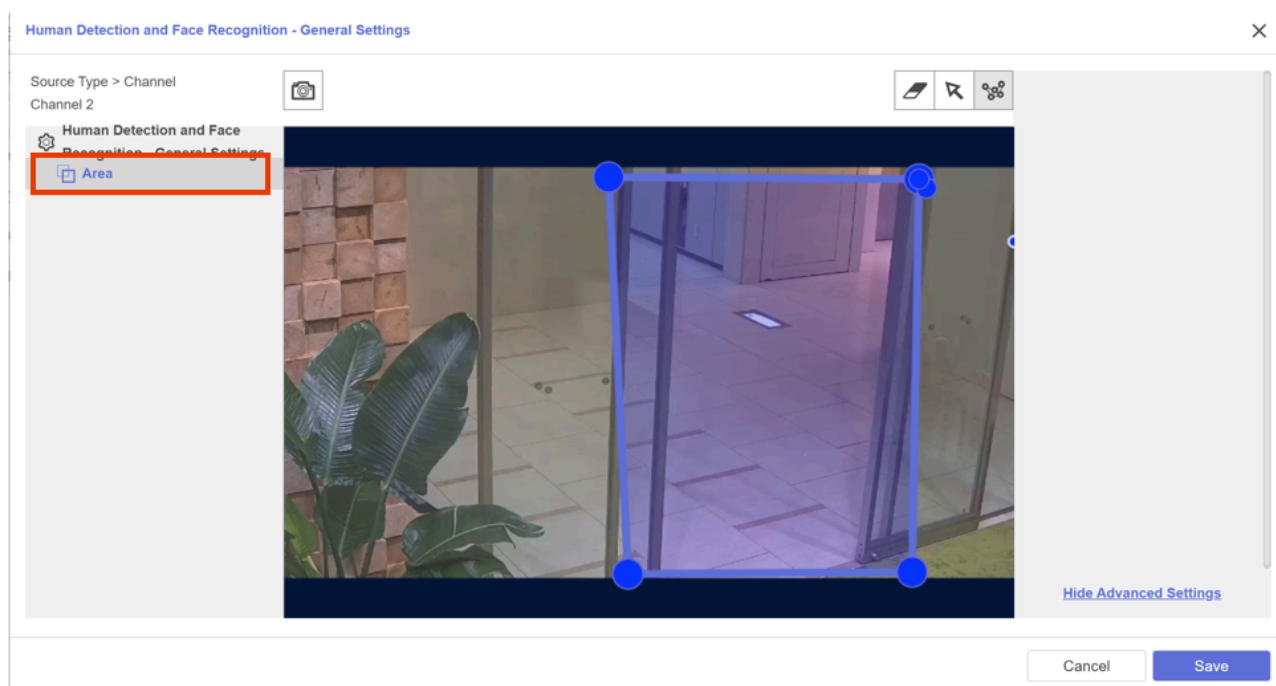
Age Group Detection On

Mouth Covering Detection On

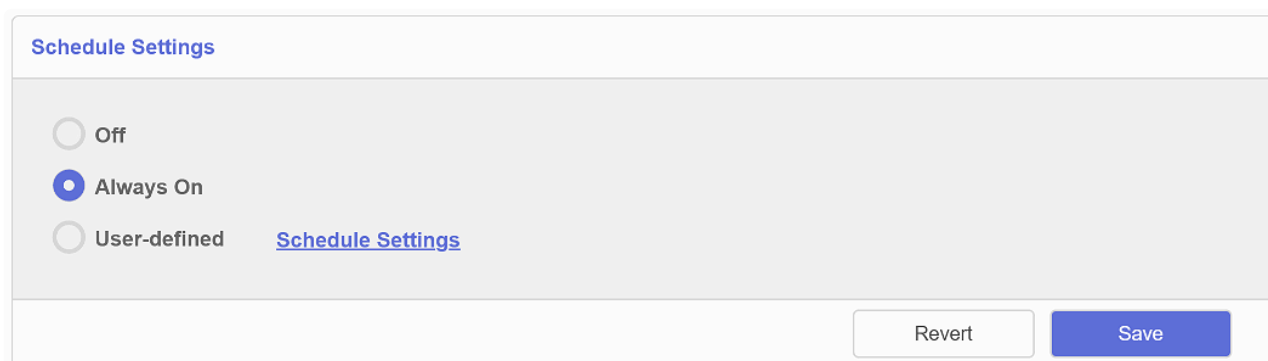
[Show Advanced Settings](#)

Cancel Save

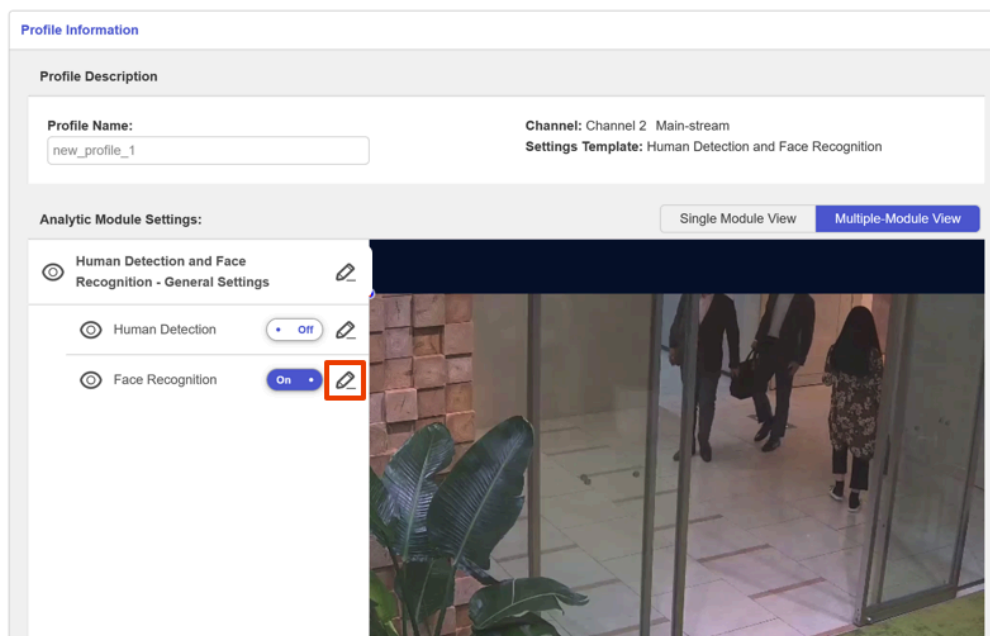
顔認識では性別推論、眼鏡対応推論、年代推論とマスク対応推論を個別に有効/無効を切り替えることができます。デフォルトでは全てが有効となっています。



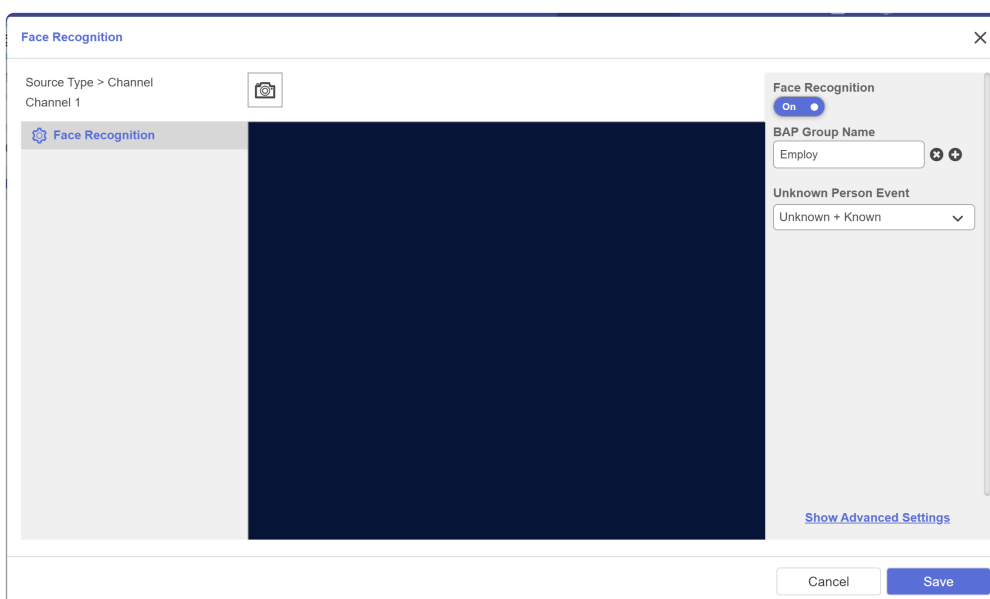
LINE を選択して、映像の認識する範囲をマウスで線を引いて囲みます。確定はダブルクリックです。
テストでは入り口のドアが開閉する範囲を指定しています。
Save ボタンを押して保存します。



設定を有効にするために Schedule Settings は Always On を選択して Save ボタンを押します。



続いてFace Recognition の鉛筆のアイコンをクリックします。



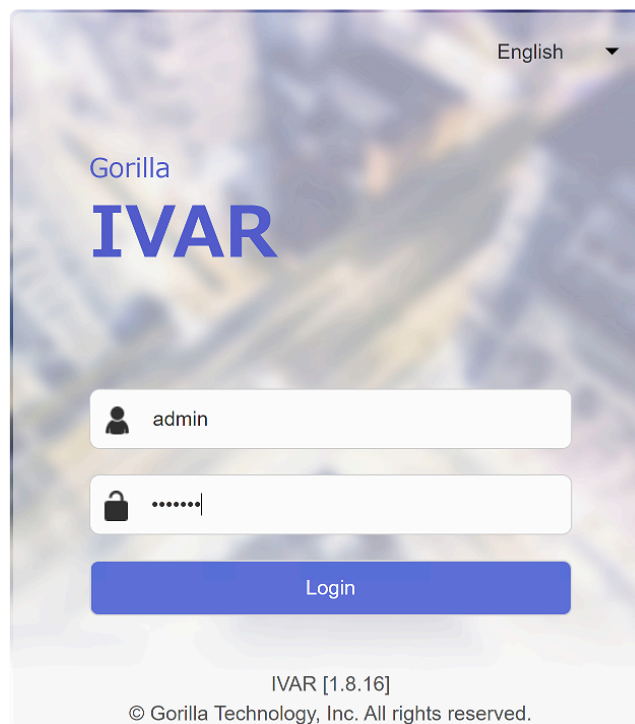
BAP Group Name にBAPで設定したグループ名を入力して Saveボタンで保存します。

3. Liveでの画像認識の確認

Channels メニューから Channel 2 を開いて View を選択するとライブ映像が表示されます。
右側にカメラの映像を認識してHuman Detection and Face Recognition のイベントが発生すると表示されます。

11.5.3. GravioとIVAR連携の設定

GravioとIVAR連携の設定

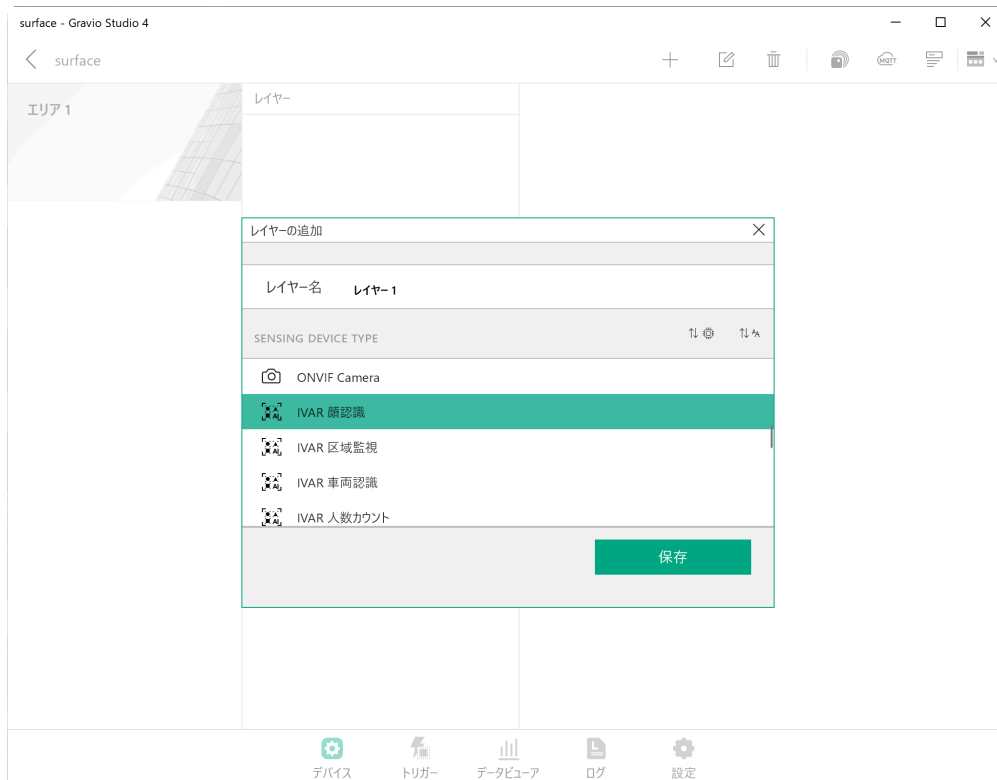


IVARにadminアカウントを使ってログインします。

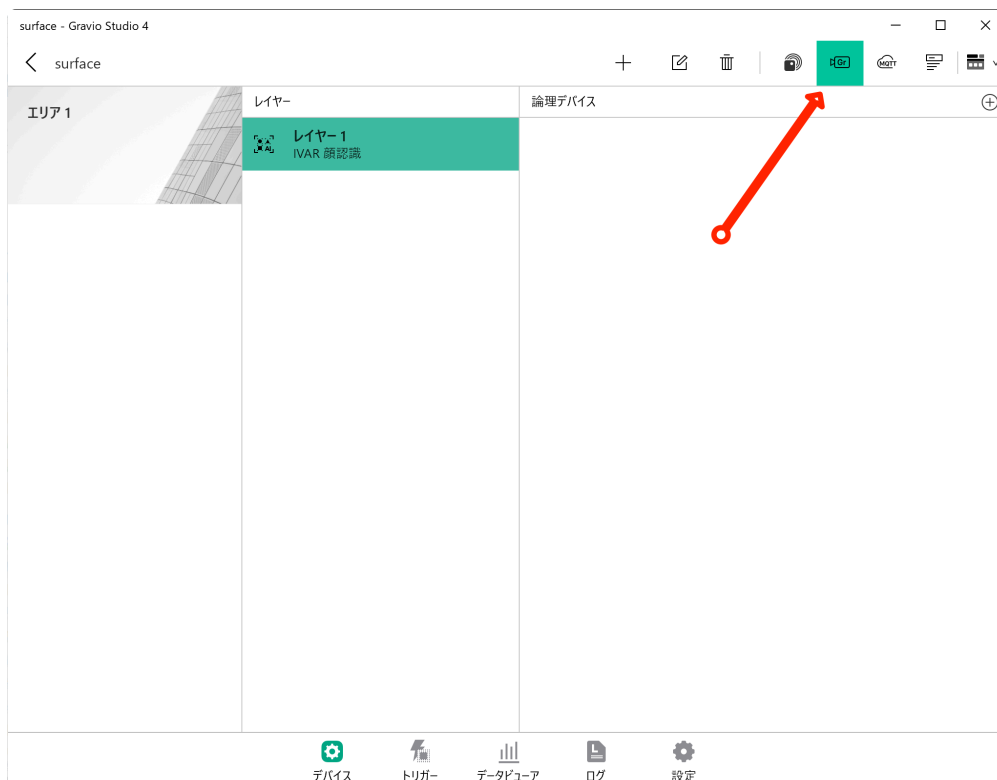
4. Gravio Studio での IVARの設定

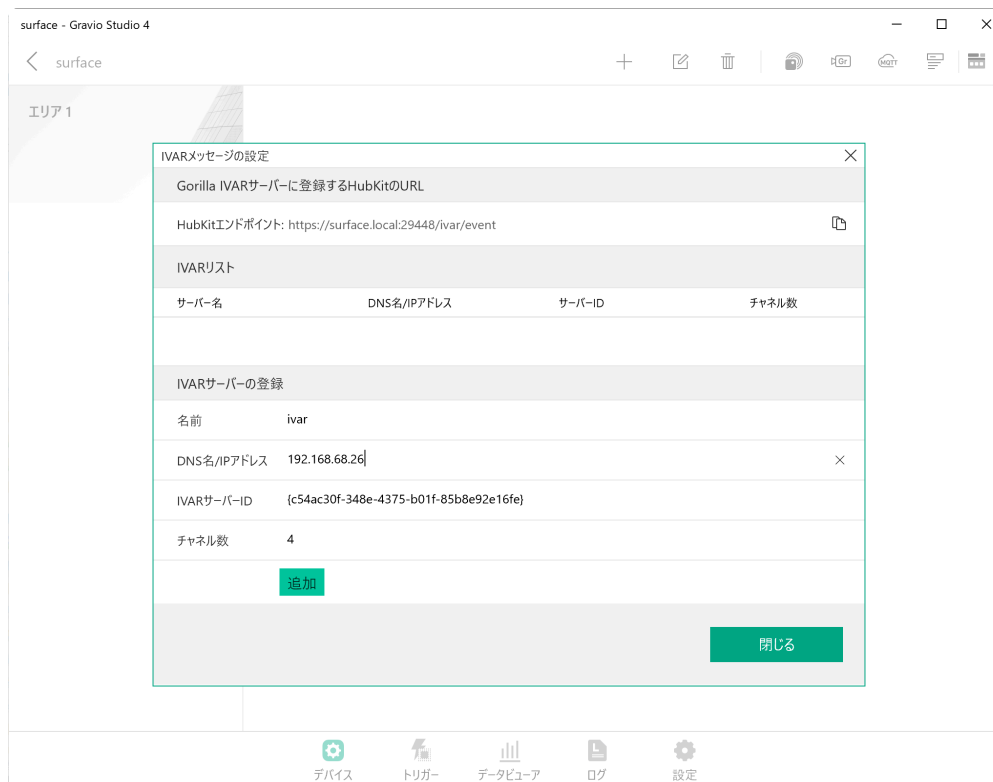
IVAR Information		General Settings	
ID	{c54ac30f-348e-4375-b01f-85b8e92e16fe}	IVAR Name	Gorilla IVAR
Version	ivar-1.8.16.42905-std-win-x86_64	Physical Address	
Total Channels	8	Latitude	
Maximum Analytic Channels	2	Longitude	
Analytic Core Channels	All : 1 Business Intelligence : 0 Human Detection : 1 Behavior Analysis : 0 License Plate : 0	Description	
Analytic Channel Expiry Date	2099-01-01 21:00:00		Revert Save
Analytic Core Version	BI-CORE v2.3.3 FDR-CORE v6.7.0 IPM-CORE v3.3.0 ODC-CORE v1.5.0 LPR-CORE v5.8.1 MMS/MMSC v1.3.1	License	
		Product Key	
		Details	License Check Verified
		Expiry Date	
			Deactivate Resync

System メニューを選択して About メニューを開きます。
IVAR Information の ID を {} を含めてコピーします。



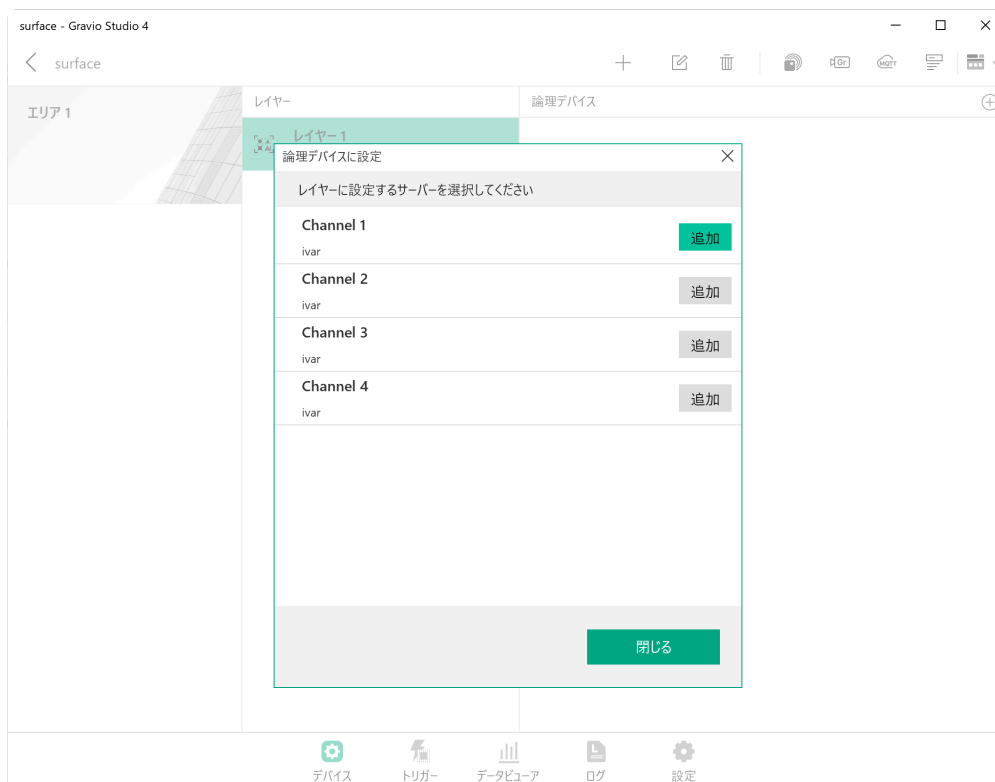
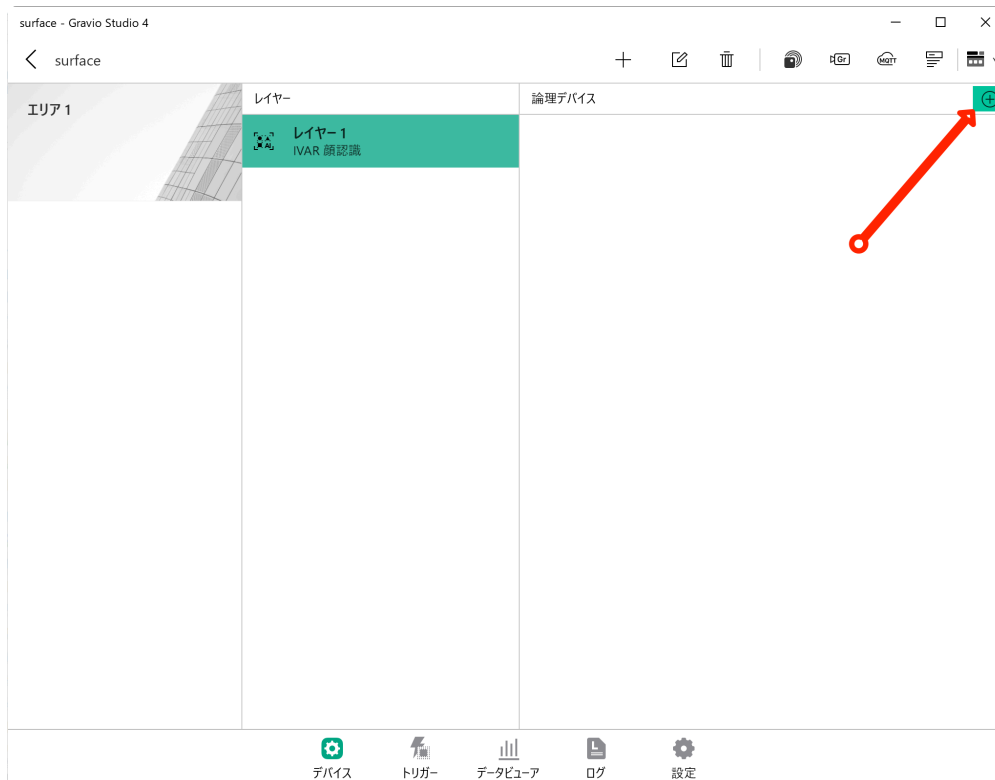
Gravio Studio のデバイスタブを選択してエリアとレイヤーを追加します。
レイヤーは IVAR 顔認識を選択して保存ボタンを押します。

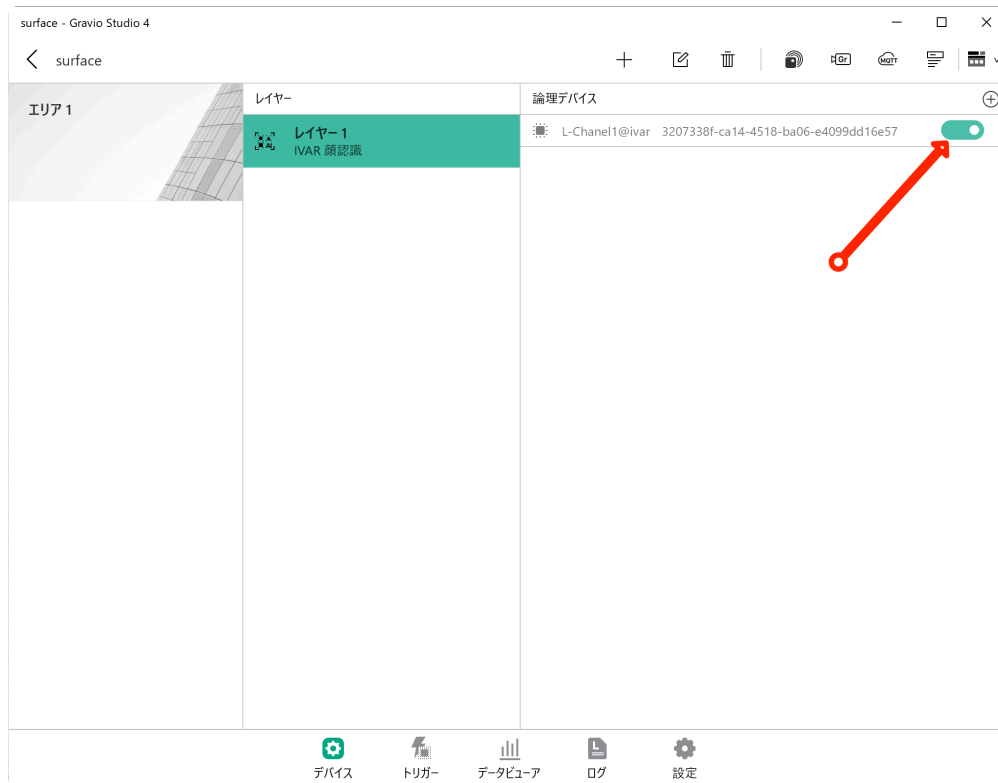




Gravio Studio から HubKit を選択してデバイスパネルから IVAR メッセージの設定画面を開きます。
DNS名前/IPアドレスを追加には IVAR/BAP がインストールされている PC のアドレスを入力します。
IVARサーバーIDを追加には、先ほどコピーした ID をペーストします。
追加ボタンを押すと登録されます。
続いて HubKit エンドポイント を右側のコピーボタンをクリックしてコピーします。

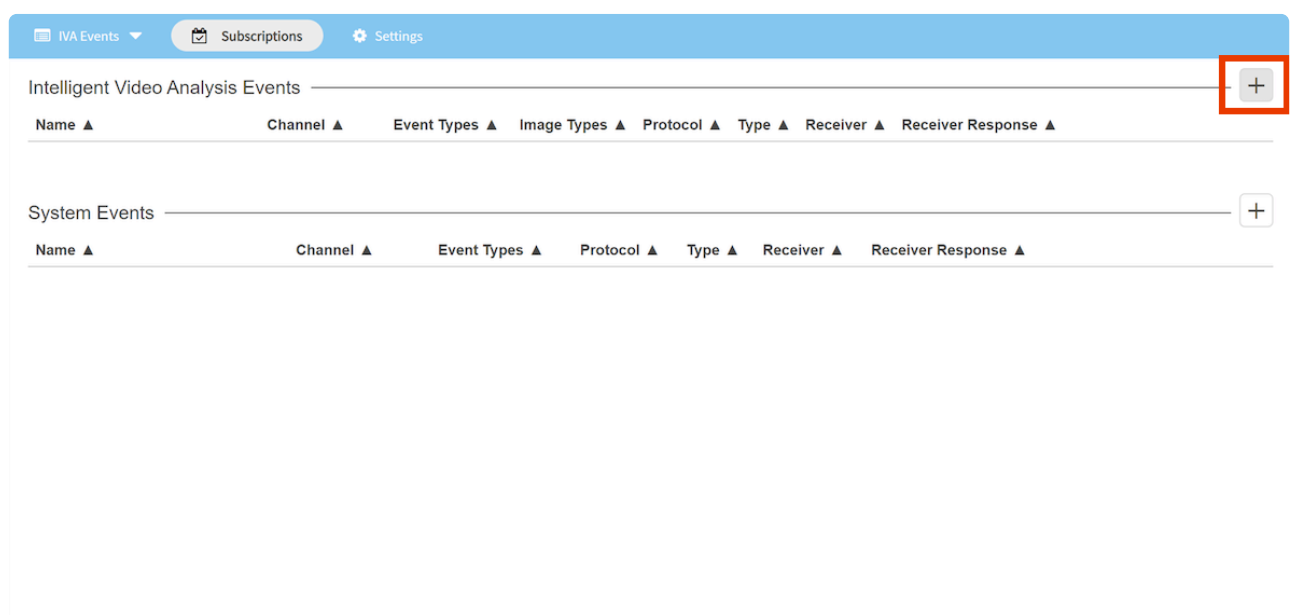
5. デバイスの登録





レイヤーにチャンネルをバインドして、保存された IVAR のレイヤーを有効にします。
GravioでのIVARの設定につきましては[こちら](#) もあわせて参照してください。

6. Gorilla IVARでのGravioのSubscriptionの登録



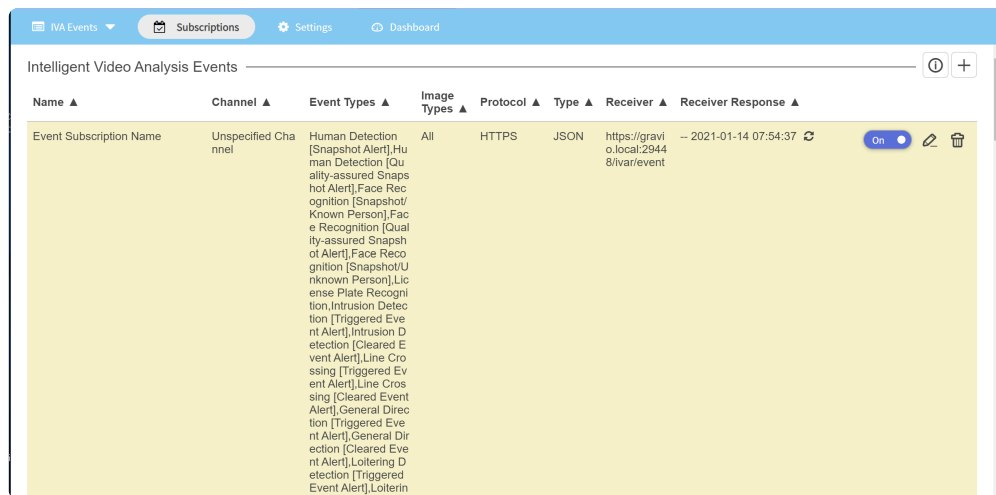
IVARの Events を選択して Subscriptions を開きます
+ボタンを押します。

The screenshot shows the 'Intelligent Video Analysis' dialog box. The 'Name' field contains 'Event Subscription Name'. The 'Type' dropdown is set to 'JSON'. The 'Format' dropdown is set to '1'. The 'Enable' toggle is set to 'On'. The 'Channel' section has 'Unspecified Channel' selected. The 'Event Types' section is selected, and the 'Event Type Selection' dropdown is open, showing a list of event types with checkboxes. The 'Enable' toggle is set to 'On'.

Enable にして Event Types Selection を開き All Events を選択します。

The screenshot shows the 'Intelligent Video Analysis' dialog box. The 'Name' field contains 'Event Subscription Name'. The 'Type' dropdown is set to 'JSON'. The 'Format' dropdown is set to '1'. The 'Protocol' dropdown is set to 'HTTPS'. The 'URL' field contains 'https://gravio.local:29448/ivar/event'. The 'Add Headers' section is empty. The 'Basic Authentication Username' and 'Basic Authentication Password' fields are empty. The 'Event Types' section is selected, and the 'Event Type Selection' dropdown is open, showing a list of event types with checkboxes. The 'Enable' toggle is set to 'On'.

Protocol を HTTPS に変更して、URL に先ほどコピーした HubKit Endpoint をペースとします。
Save ボタンを押して保存します。



保存されるとイベント一覧に表示されます。
削除する場合にはゴミ箱のアイコンをクリックします。

7. Gradio Studioでの データビューアでのイベント受信の確認

エリア	レイヤー	デバイス	サービス	センサータイプ	送信元ID	データID	受信日時	デバイス値
エリア 1	レイヤー 1	192.168.68.139	IVAR	FR_UNKNOWN	49cf51b6-1f1e-4440-98b7	3670d867-1c57-4e	2020/06/22 08:14	["fr":{"mmsReturn"
エリア 1	レイヤー 1	192.168.68.139	IVAR	FR_UNKNOWN	49cf51b6-1f1e-4440-98b7	fef46dcb-ad38-41	2020/06/22 08:14	["fr":{"mmsReturn"

データビューアを開き IVAR からイベントが送信されていることを確認します。

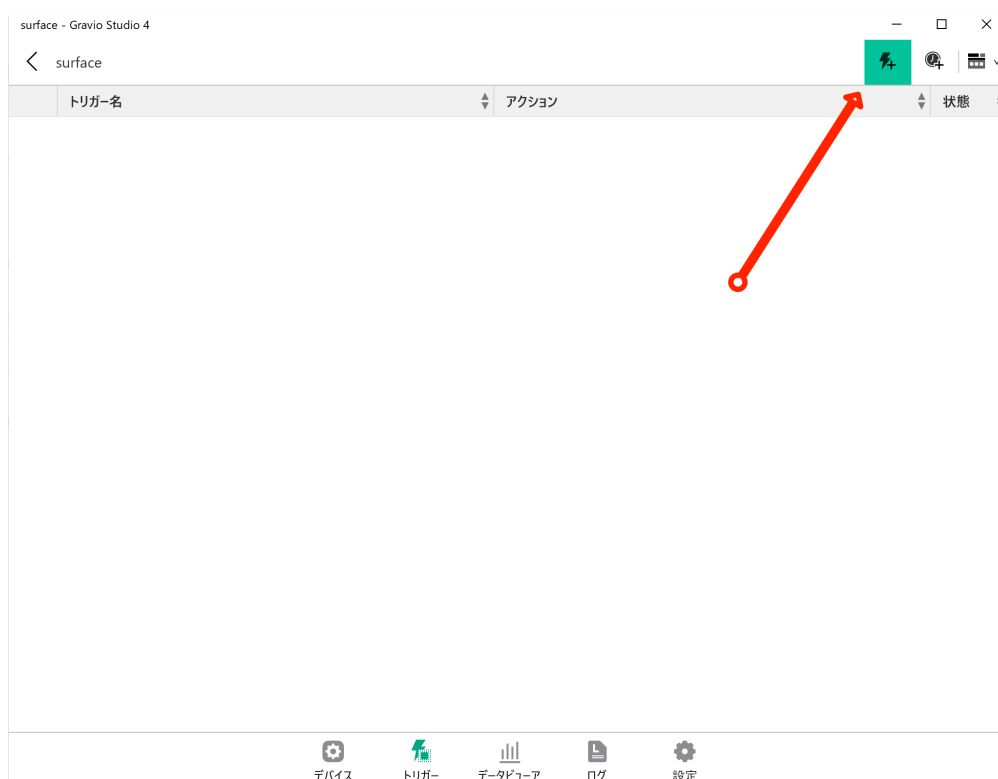
11.5.4. Gravio IVARトリガーの設定

Gravio IVARトリガーの設定

7. 呼び出し用アクションの作成

IVARトリガーで呼び出すアクションを作成します。
テストでは Slack コンポーネントを配置したアクションを作成します。

8. IVARトリガーの設定



surface - Gravio Studio 4

< surface

トリガー名 アクション 状態

デバイストリガーの追加

トリガー名 新規イベントトリガー 1

エリア エリア 1

時間

条件

アクション

カレンダー なし

☐ 有効時間を指定する

開始 9 00 終了 17 00

間隔(ミリ秒) 5000

☐ 閾値によるトリガーを利用

☐ 実行中ならスキップする

キャンセル 保存

デバイス トリガー データビュー ログ 設定

surface - Gravio Studio 4

< surface

トリガー名 アクション 状態

デバイストリガーの追加

トリガー名 新規イベントトリガー 1

エリア エリア 1

時間

条件

アクション

次の条件を満たす場合に実行されます

条件数: 0/5

And

追加

キーレイヤー: レイヤー 1

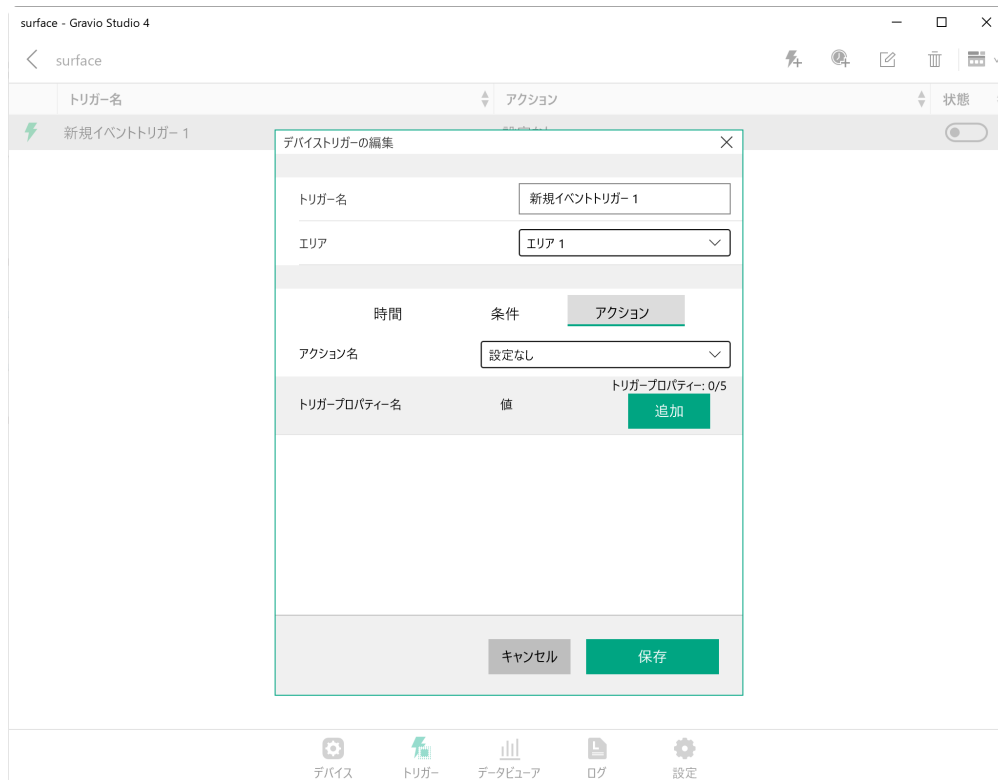
物理デバイスID:

イベントタイプ 任意のイベント

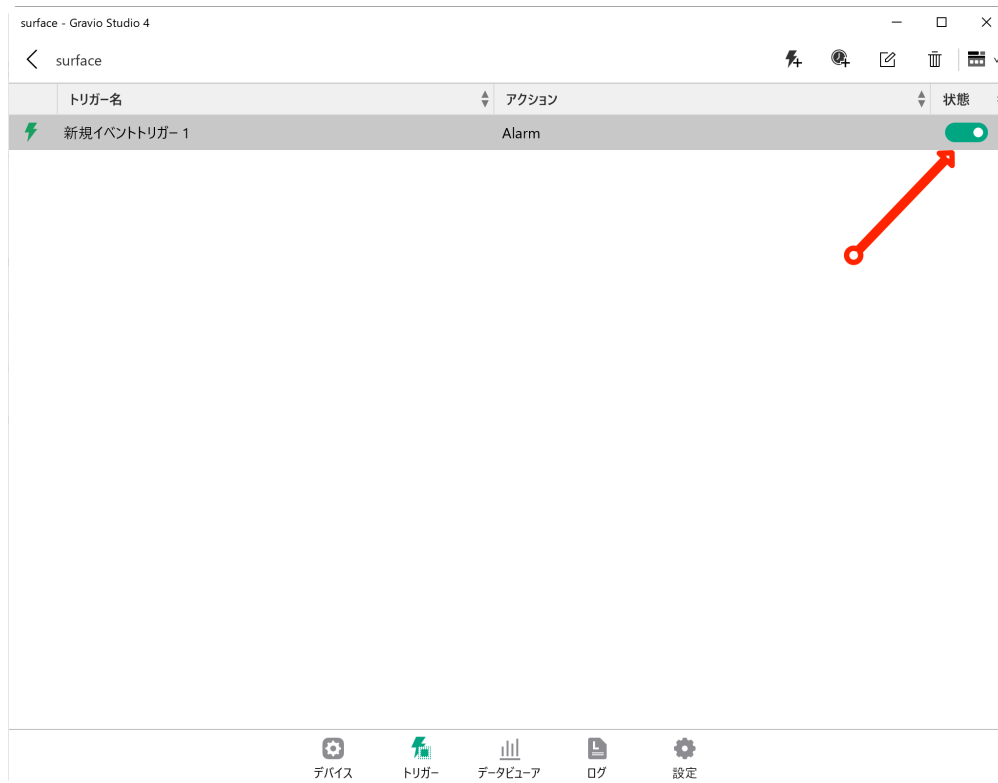
式

キャンセル 保存

デバイス トリガー データビュー ログ 設定



トリガータブを選択して+ボタンを押して新しいIVARトリガーを追加を開きます。
エリア、レイヤーを設定値に合わせて選択して、イベントタイプは 任意のイベント を選択します。
アクションは作成している Alarmアクションを選択します。
保存ボタンを押して保存します。
Gravioでのトリガーの設定につきましては[こちら](#) もあわせて参照してください。



保存した IVARトリガーを有効にします。

9. IVARトリガーでのアクションの実行の確認

有効にして IVARトリガー条件にマッチするイベントが IVARから送信されたタイミングで指定のアクションが実行されます。

テストでは AlarmアクションにはSlack コンポーネントを配置していますので、Slack に通知が届きます。